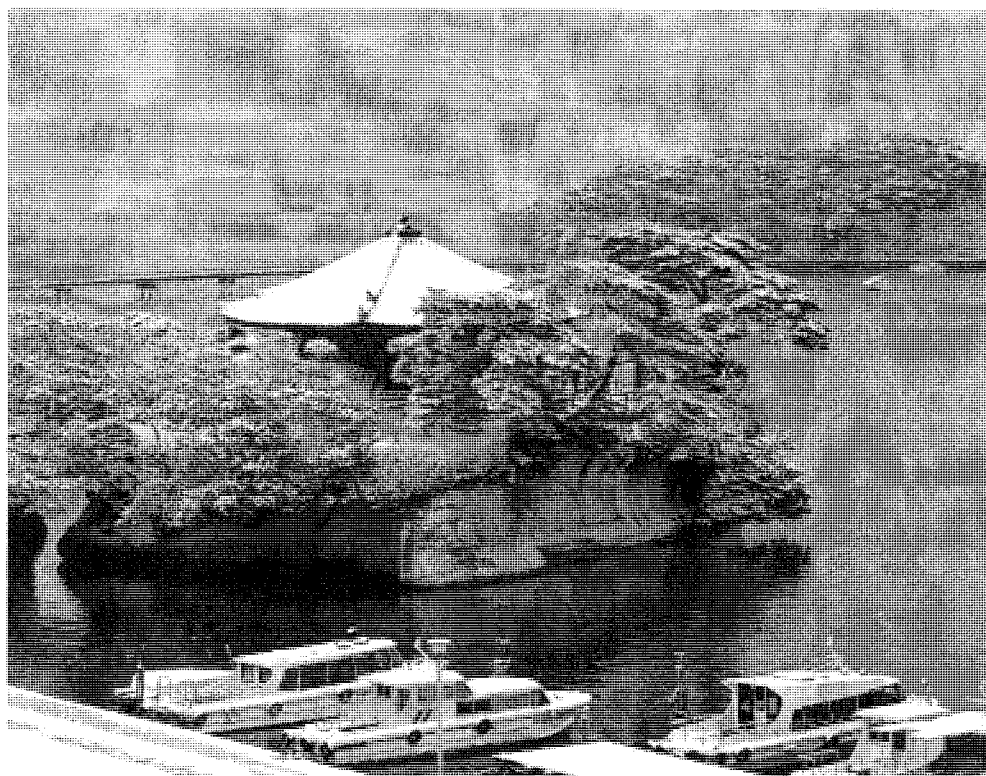


まつ しま まち
松 島 町



五大堂

(写真提供：宮城県観光課)



宮城郡松島町

宮城県宮城郡松島町概要

①松島町の概観

松島町は、松島湾の北西部に位置している。町内に 7 つの駅を持ち、交通の便がよく、町は農業、漁業、商工業、観光と様々な産業が調和し発展していることから「宮城県の縮図」といわれることもある。また、松島町は、自然景観、歴史文化に恵まれた国際観光都市として、年間数百万人の観光客が訪れており、260 余りの島々からなる灣景から、松島は日本三景の一つに数えられている。気候は、年間平均気温が 11 度から 12 度と比較的温暖であり、東北地方でも降雪量は少ない地域である。

松島町は、国宝瑞巖寺などの文化遺産が町内各地に残されている歴史の町であり、上記のように観光業が盛んである。また、それ以外にも、農林業、漁業、商工業などが活発であり、広島と並ぶ日本有数の生牡蠣産地として知られる。明治末期より始まった海苔の養殖も盛んである。

②収録地点について

収録地点である松島町磯崎は、松島湾北部の沿岸に位置している。

③東日本大震災による松島町の被害

松島町高城で震度 6 弱を記録し、その後の津波で松島に浮かぶ島々の養殖施設、漁船・船舶や、史跡などの観光資源も大きな被害を受けた。しかし、これらの島により津波の威力も減衰し、松島町の被害は他の宮城県沿岸部に比べ軽微なものにとどまった。

表 1 松島町の人的・住宅被害

松島町人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
15,085 人	2 人	0 人	0.01%	215 棟	1,422 棟

表 2 松島町の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	4,053 人	26.9%
世帯	1,477 世帯	28.8%

※ 本文の内容は、衛藤 (2012) P.162~167 に依拠する部分が多い。特に、表 1・表 2 は衛藤 (2012) のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達 (2012) 『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
松島町ホームページ (<http://www.town.miyagi-matsushima.lg.jp/index.cfm/1,html>)
(2013/02/23 アクセス)

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡松島町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡松島町

収録日時 2012（平成24）年7月14日

収録場所 宮城県宮城郡松島町磯崎 松島町中央公民館視聴覚室

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1943（昭和18）年	（収録時69歳）	[Bの夫]
B	女	1942（昭和17）年	（収録時70歳）	[Aの妻]
C	男	1959（昭和34）年	（収録時52歳）	[Aの職場の後輩]

話者出身地

A	松島町磯崎（イソザキ）
B	松島町磯崎（イソザキ）
C	松島町初原（ハツバラ） ※5歳まで仙台市

【震災のときのこと】

話し手

- A 男 1943 (昭和 18) 年 (収録時 69 歳)
B 女 1942 (昭和 17) 年 (収録時 70 歳)
C 男 1959 (昭和 34) 年 (収録時 52 歳)

001C : トコロデ ヒナンジョサ ナンニジグライ イタノッシャ。
ところで 避難所に 何日くらい いたのですか。

002B : ワダシラワー (A ア ワタシラワー) ツギノ アサ カエッテキタヨ。
私たちは (A あ 私たちは) 次の 朝[に]帰ってきたよ。

003A : カエッテキタノワネ。
帰ってきたのはね。

004B : アノ (A アイズ _____) オバチャンジ イダガラ
あの (A あいつ _____) おばちゃんの家[に]いたから

(A アノ) ヒナンジョサワ イガナガッタガラネ。
(A あの) 避難所には 行かなかったからね。

005A : ヒナンジョニワ イガナガッタノネ。 ダカラ、
避難所には 行かなかったのね。 だから、

ヒナンジョサワ イガネーケド (B ヒトバンダゲ トメテモラッテネ)
避難所には 行かないけど (B 一晩だけ 泊めてもらってね)

マー デンキガ ツカネーツノワ イチバン ヤッパリネ。アト、
まあ 電気が 点かないのは 一番 やっぱりね。あと、

ミズガ デナエガッタガラ。
水が 出なかったから。

006A : ホンデ ミズ ミズクミー アルツテ ミンナノブン トツテキテ {笑}
それで ×× 水汲みに 歩いて みんなの分[を]取ってきて {笑}

ポリタンクデ アノ アッチ ジョ (C ヨッカグライ
ポリタンクで あの あっち ×× (C 4日くらい

カエランネガッタカラッサー) ジョースイジョーサ イツテ ミズ
帰られなかったからね) 浄水場へ 行って 水[を]

モラツテキテ ホシテ ミンナ ホラ ヒトリグラシトガ
もらってきて そして みんな ほら ひとり暮らしとか

オンナノヒトタジトガ、ネ ミンナ クバツテアルツタカラ オットサンモ。
女の人たちとか、 ねえ みんな 配って歩いたから お父さんも。

キュ アノ キュースイシャダケデ マニアワナカッタダオネ、
×× あの 給水車だけで[は] 間に合わなかったんだよね。

007A : マ キュースイシャワ イッパンノヒトワ ヤッパリー ソレオ
まあ 給水車は 一般の人は やっぱり それを

マズーシカナインデ ペットボトルサネ (B ンー コイナノサ) {笑}
待つしかないんで ペットボトルへね (B うん このよののね) {笑}

イッポンヤ ニホン モラウダソーダケド ワタシワ タマタマ
一本や 二本 もらうのだそうだけど 私は たまたま

スイドーシギョーショニ イダモンダカラ、マー ミズオ
水道事業所に いたものだから、まあ 水を

ツクッテルフタゴヤ [1] マデ イツテネ。
作っている二子屋[浄水場]まで 行ってね。

008B : タダシ ガソリンガナクテ、
ただし ガソリンがなくて、

009A : シー ガソリンガ ナカッタデネー、ホレー。
うん ガソリンが なかったんでね、ほら。

010B : ヒドカッタネー。 ソッチガラ サンジューリッター ンデ
大変だったね。 そっちから 30リットル それで

ワゲッガラートガネ、ソッチガラ ナンリッター。 {笑}
分けるからとかね、そっちから 何リットル[分けるとか]。 {笑}

011A : デモ サイゴニワ ゴリッターデモ ナンボデモ ナ ホシカッタカラ。
でも 最後には 5リットルでも どのくらいでも ね 欲しかったから。

012B : モラッテ、ホーシテ ミズクミシテ (A シー) ワダシテアルッタ。 {笑}
もらって、そして 水汲みして (A うん) 渡して歩いた。 {笑}

013C : シゴトデモ ツガエナガッタガラネ ガソリンワ。
仕事でも 使えなかったからね ガソリンは。

014A : シー アー ガソリンワネ。(B ネー) マー ンデモ ヤクバワ
うん ああ、ガソリンはね。(B ねえ) まあ それでも 役場は

ポンプカナンカ ミズアゲルブンワ モラッタデショ
ポンプかなにか[で]水[を]上げる用には[ガソリンを]もらったんでしょ

オソラク。
おそらく。

015C : イヤッ。
いいえ。

016A : モラワネーノ。(C シヨクインワ マー) ア、アー、シヨクインワ
もらわないの？(C 職員は まあ) あ、ああ、職員[に]は

マワナイサ。シヨクインサ (C ソーユー)
回らないね。 職員に (C そういう[ガソリンを])

ヤッタナンテ イッタラ ワラワレルシー。
渡したなんて 言ったら 笑われるし。

017C : デモ クルマガ ナイガラ ショクイン ジブンノ クルマデ ミナ
でも、車が ないから 職員[は] 自分の 車で みんな

ヤンノッシャ。 (A ンー) ヤンナキャネーノネ。 (A ンー) ンダカラ
やったんですよ。(A うん) やらなきやいけないのね。(A うん) だから

ヒドカッタ。
大変だった。

018B : ガ ガソリンニ ナロ ナラブンダゲッドネー、モー マワッテコナインダネ。
× ガソリンに ×× 並ぶんだけどねえ、もう 回ってこないんだよね。

019A : ンー ガソリンニモ ナランダナー (B デモー ンー) ヤッパリ。アノー、
うん ガソリンにも 並んだね (B でも うん) やっぱり。あのう、

020B : ギョキョーサ (A ギョ) {笑} ナランダリ モ アノー エーコープダノ
漁協に (A ××) {笑} 並んだり × あの A コープや

セーキョーダッテ モー ダーット モー ホラ カイダシ ナランデ、
生協だって もう ダーっと もう ほら 買い出し[に] 並んで、

(A ナ ガソリン) モー (A アー ガスケツネ) タカギノマチノホームマデ
(A × ガソリン) もう (A ああ ガス欠ね) 高城町の方まで

ナラन्दルッテ ユッテタカラネ。(A ンー) ワダシラワ ワリト デモ
並んでるって 言ってたからね。(A うん) 私たちは 割と でも

レートーコニ ナンボカ ハイッテダノ アッタガラ、ソレオ
冷凍庫に いくらか 入ってた物[が]あったから、それを

リヨーシタリシテ。アドワ ナンテユンガイ ソーユー レートーガイシャサ
利用したりして。後は なんて言うのか そのような 冷凍会社に

ツトメテダヒトナンカ ホラ サカナ モッテキテクレタリ
勤めてる人なんか[が] ほら 魚[を] 持ってきてくれたり

(A モラッタリナ) ネ。(A ンー シタヨナ) ナ ナンカ ソンナ
(A もらったりね) ね。(A うん したよね) × 何か そんなに

ナラバナイデ シマッタノネ、ワダシラワ。ナントカ シノギマシタ {笑}。
並ばないで しまったのね、私たちは。 なんとか しのぎました {笑}。

021A : マ オレモ アンマリ クワネクタッテイーカラ ホラ。 {笑}
まあ 私も あんまり 食べなくてもいいから ほら。 {笑}

クワンネーガラ。 {笑} ンー (B ンー) タダ
食べられないから。 {笑} うん (B うん) ただ

022C : オライデワネ ムスメ フタリー ナンジナランダンダカヤ。 {笑}
私の家ではね 娘[が] 二人 何時[間]並んだんだか。 [2] {笑}

023A : アー アノ スーパーニ。(C ンー) ウン ヤッパリ コドモガ
ああ あの スーパーに。(C うん) うん やっぱり 子どもが

イットコワ タイヘンダトオモーナ。(B アラー) ヤッパリ ナンデモ
いるところは 大変だと思うな。(B あら) やっぱり なんでも

タベダイベシサ。
食べたいだろうしね。

024C : ウチー ンデ ホラ ヤクタタズダカラサ。 {笑}
うちは それで ほら 役立たずだからね。 {笑}

ヤクバカラ ケランネカラ、 {笑} ダレモ イネガラ
役場から 帰られないから、 {笑} 誰も いないから

(B オン ンー) ナンニモ デキネガラ。
(B ×× うん) 何にも できないから。

025B : オトーサンノ オドードノ コドモモ ホラ Y1 [3] ホラ ニ
お父さんの 弟の 子どもも ほら Y1 ほら [Y1]に

ツトメテダカラ ケッキョク デンキ ツガナイガラネ
勤めてたから 結局 電気[が] 点かないからね

レイトーモノナンカワ (A ンダ モッテキテクレダリナ)
冷凍ものなんかは (A そうだね 持ってきてくれたりね)

ミナ ホラ モラッタリシタンダッテ。ソーユーノ ホラ、
みんな ほら もらったりしたんだって。そういうの ほら、

ハンバーグドカ ナンドカ モッテキテクレタリ、アノ アド
ハンバーグとか なんとか 持ってきてくれたり、あの あと

チャーハンルイダツケカナ。
炒飯類だったかな。

026C : シー デモ デモサ (B シー) テレビモ デンキモ ツカネーガラ。テレビモ
うん でも でもさ (B うん) テレビも 電気も 点かないから。テレビも

ミランネーツーコトワ (A ソーソーソーソー) ジョーホーガ
見られないってことは (A そうそうそうそう) 情報が

サッパワガンナカッタ。
全然わからなかった。

027B : ンダネ。
そうだね。

028A : ヤッパリ ラジオシカ ナカッタネ、シー。
やっぱり ラジオしか なかったのね、うん。

029C : ンデー ワライバナシダカモシャネゲッドモ、ツナミガ キタツツーノ
それで 笑い話かもしれないんだけど、 津波が 来たというの[を]

オセラッタノ グンマノ トモダチカラダッタノ。
教えられたの[は] 群馬の 友達からだったの。

030 A : アー ココニ イテ ワガンネグテガ。
ああ ここに いて わからなくてか。

031 B : グンマカラ。Cクン オシエラッタノガ。エー {笑} デモ。
群馬から。C君[は] 教えられたのか。ええ {笑} でも。

032 C : ミヤギケンニ ツナミガ キテルツツーコトガ カイガンスラ ワガンネーノ、
宮城県に 津波が 来てるということが 海岸すら わかんないの、

ヤグバデ。
役場で[は]。

033 B : アー、アー。
ああ、ああ。

034 A : ズイブン オソカッタダオナ、ヤクバ。ナ デモ アレ テレビカナンカデ
ずいぶん 遅かったんだね、 役場[は]。× でも あれ テレビか何かで

エー、ンデモ ヤクバニワ キキカンリガアッテ ソコサ
ええ、でも 役場には 危機管理があつて そこに

035 C : アノ タントーブショワ ワガッテテモ (A キタンデショ)
あの 担当部署は わかってても (A [情報は]きたんでしょ?)

ワレワレワー (B アー) チョクセツ カンケーナイブショノ
われわれは (B ああ) 直接 関係ない部署の

ニンゲンマデワ ワガンナクテ。
人間までは わからなくて。

036 A : アー トグニ イナイガラ ヤグバニ イナイガラナー ンー。
ああ 特に いないから 役場に いないからね うん。

037C : インデ タマタマ デンワ ツージタジカンタイ グンマノトモダチド
それで たまたま 電話 通じた時間帯 群馬の友達と

シャベレダドキニ テレビデ ツナミガ アガッテル エーゾー、アノ
話せたときに テレビで 津波が 上がってる 映像[が]、あの

(B ウズツテダト) ソイズガ [4] オセーラッタノ。ナニスヤト [5]。 {笑}

(B 映ってたと) そいつが 教えられたの。何だってと。 {笑}

038A : インデモ ソンドキニワ デンワ ツージタンダ。
それでも その時には 電話 通じたんだ。

039C : ツージタ。
通じた。

040A : ンー ア ケータイダガラネ。
うん あ 携帯[電話]だからね。

041B : ツ
×

042C : エ インデモ (A ウジノ) ホントカヤッテ。
え でも (A うちの) 本当かって[問い返した]。

043B : ウジノ ムスメモ キシャ トーンナガッタカラネ、(A ソーソーソー)
うちの 娘も 汽車[が] 通らなかったからね、(A そうそうそう)

フツーダッタガラワ。モー イッシューカングライ カイシャサ {笑}
不通だったからね。もう 一週間くらい 会社に {笑}

イーダミタイヨ イダンダネ。
いたみたいよ、いたんだね。

044A : ン カイシャデモ (B カエレ) マズネ カエレナイカラ。
うん 会社でも (B ×××) まずね 帰れないから。

045B : ミンナデ ナンカ カイシャニ イダミダイヨ。シー。
みんなで なにか 会社に いたみたいよ。うん。

046C : ハジメデ カワノ ミズ ツカッタヨ アレ。
初めて 川の 水[を]使ったよ あれ。

047A : アー ア ソレワ アレデショ、 トイレナンカモアツカラ。
ああ あ それは あれでしょう、トイレなんかもあるから。

048B : アノ トイレナンカダト。
あの トイレなんかだと。

049C : シー カオアラウ、イヤ ノミミズイガイノ (A シー) ミズオ。
ウン 顔[を]洗う、×× 飲み水以外の (A うん) 水を。

050A : マー タシカニ ミズモ デナイッテノワ クルシー。マ (B ナ)
まあ 確かに 水も 出ないっていうのは 苦しい。 まあ (B ねえ)

ムガシダッタラ ベンジョモネ ポットンダッタカラ エガッタダベゲド
昔だったら 便所もね ぼっとんだったから よかったんだろうけど

(B イマワ スイセンダガラネー) イマワ ヤッパ スイセンダガラ。

(B 今は 水洗だからね) 今は やっぱ 水洗だから。

051C : オライワ マダ ポットンダカラ。
私の家は まだ ぼっとんだから。

052B : アレガ ヒドインダヨ。
あれが ひどいんだよ。

053A : ア ンダナ アンダノホーワ。 (B マダイーガラ) シ デモ イー
ああ そうだね あなたの方は。 (B まだいいから) × でも ××

イーガッタノカナ。
よかったのかな。

054B : ウジデ デモ フロノミズ ナガ オロサナカッタノ (A マ ナガサナイ
うちで でも 風呂の水が ×× 捨てなかったの (A まあ 流さない

オロサナカッタカラ) ダカラ ソレオ ツカッテネ。
捨てなかったから) だから それを 使ってね。

055C : オライモ アサニ ハッタバリダッタカラ、 ソイツガ [6] アノ
私の家も 朝に [水を]溜めたばかりだったから、それが あの

セギユストーブデ (B ア アー) (A ジョーカシテネ) シ
石油ストーブで (B あ、ああ) (A 浄化してね) うん

ツカッタノ。
使ったの。

056B : ア ツカイミズニワネ。
ああ 使い水 [7] にはね。

057C : ウン、イヤ ノミミズニ ツカッタノ。
うん、いや 飲み水に 使ったの。

058A : エー ソイナゴドシタ。
ええ そんなことした?

059B : ニダラ、ニダラ ガスデ ニダラセレバネ。
煮たら、煮たら ガスで 煮たたせればね。

060C : イヤ コレ オフロミズワ アダラシク イレダバツカリダッタカラ、
いや これ お風呂[の]水は 新しく 入れたばかりだったから、

ソイズ ツガッテ シバラグ。
それ[を]使って しばらく。

061A : アー ソー、マー オラホワ ホラ フロノ ミズワ トーゼン ベンジョ
ああ そう、まあ 私の方では ほら 風呂の 水は 当然 便所

ネー ジョーカソーダカラ コレワ シドイ シードーデ。
ねえ 浄化槽だから これは 大変な 運動で。

062B : デモ ホラ アノ {笑} トイレ イッカイツカッテ ナガスト モ
でも ほら あの {笑} トイレ 一回使って 流すと もう

バケズ フタツグライ ハイダオンネ。
バケツ 2つくらい 入るんだもんね。

063A : ハイル ハイル。シー。
入る、 入る。 うん。

064C : カワミズデ カオアラッテ フロミズデ (A シー) ノンダダオネ。 {笑}
川[の]水で 顔[を]洗って 風呂[の]水で (A うん) 飲んだんだよね。 {笑}

(A ノンダ) (B ソー) イマノジダイ アンマリ カンガエラレネチャネ、
(A ノンダ) (B そう) 今の時代、 あんまり 考えられないよね、

ヨーワネ。 {笑}
要はね。 {笑}

065B : マズネ。
まずね。

066A : ソ ソレモ ハズミミダナヤ。
× それも 初耳だな。

067B : シー イロイロ タイヘンダッタオネ。
うん いろいろ たいへんだったよね。

068A : イママデ キーダゴドネガッタナヤ (C ソデスカ) {笑}。
今まで 聞いたことなかったよね (C そうですか) {笑}。

069B : Cクンガ イワネガラナ。
C君が 言わないからね。

070A : イワネガラナ。 {笑}
言わないから。 {笑}

071C : イッシューカン ス イジョースギデガラダヨ アノ キュースイシャドカ
一週間 × 以上過ぎてからだよ あの 給水車とか

(A ー) (B ーーー) アーユノ アノ ネ ミズ
(A うん) (B うんうんうん) ああいった あの ねえ 水[を]

モラエルヨーニナッタノワ。
もらえるようになったのは。

072B : ンダガラ ミズモライモ ケンカダオン ケンカ。アダシラワ ミズ
だから 水もらいにも ケンカだもん ケンカ。あたしたちは 水[は]

ホレ オトサンガ クンデキタノ アイズシテ [8] ツカッダゲッドモ、
ほら お父さんが 汲んできたの[を] あいつして 使ったけれども、

モー ミンナ ホラ (A アー ナルホドナ) ヨーショヨーショサ ミズ
もう みんな ほら (A ああ なるほどな) ところどころに 水[を]

モライサ (A ー) イグデショ。
もらいに (A うん) いくでしょう。

073A : ケンカダナ ヤッパリ。
ケンカだね やっぱり。

074B : ンデワ ケンカスンダドワ。 (A ダッデ) ハダイタリ ハダガッターシテ
それで ケンカするんだとね。 (A ×××) 叩いたり 叩かれたりして

{笑}

{笑}

075A : ダッテ ペットボトル ニリッターイリノニ イッポンヤ ニホンデワネ
だって ペットボトル 2リットル入りのに 一本や 二本では

ドコニモタリネ。
どこにも足りない。

076C : アンドキ ヒトリ ロクリッターマデッテ イジオー リョーフ キメダンダネ。
あの時 一人 6リットルまでって 一応 量は 決めたんだね。

077B : ンー。
うん。

078A : アー ヤクバデネ。
ああ 役場でね。

079C : タダ ヨーキガ オッキート イッペケライント、 (A ンー)
ただ 容器が 大きいと いっぱいくださいと、 (A うん)

イッペイレデケライント。
いっぱい入れてくださいと。

080A : イヤ ヤッパ ミンナネ (C ンー) ヨーキモ オッキーノ
いや やっぱり みんなね (C うん) 容器も 大きいの[を]

モッテタラシーンダケド、 マー ツギノヒカラワ チャッコイノデ
持って行ったらしいんだけど、まあ 次の日からは 小さいので

ショーガネツカナッテユーコトダケド。マー ソレデ ナ ドーシタラ
仕様がなにかということだけど。 まあ それで × どうしたら

イーノカナー マー
いいのか まあ

081C : デモー キュースイワ タスケラッタネー。イロンナ ジチタイカラ
でも 給水は 助けられたねー。 いろんな 自治体から

キテモラッテ。
来てもらって。

082A : ア、アノー (C ネー) ヤクバ トーシテワネー ズイブン オテツダイ
あ、あの (C ねえ) 役場[を]通してはね ずいぶん お手伝い[が]

アッテ ゼンゼン シラナイシトノ ア カオミッド、 キュースイシャニワ
あって 全然 知らない人の × 顔[を]みると、給水車には

ンー ホカノケンカラ キテ テツダッタリネ シテイタダイタヨーダガラ。
うん 他の県から 来て 手伝ったりね していただいたようだから。

宮城県宮城郡松島町方言会話集（自由会話）注記

- [1] フタゴヤ
松島町にある地名。
- [2] ナンジナランダンダカヤ
文中から文末部分がはっきりとは聞こえないが、後の発話をみると、意味的には「どのくらい並んだんだか」と思われる。
- [3] Y1
企業名。
- [4] ソイツガ オセーラッタノ
「[主語]ガ～受身」という文法の報告はないため、言い間違いと思われる。少し言いよどんでいるので、「ガ」のあと文法が錯綜して、自分が主語になってしまったものか。
- [5] ナニスヤト
話者によると、「ナニスヤ」で「なんだって」という意味を表す慣用的な表現。津波の情報に接した時の、Cさんの驚き・困惑を表している。
- [6] ソイツガ
「そいつを」の言い間違いと思われる。
- [7] 使い水
飲み水や料理以外の普段使いの水。『日本国語大辞典』（小学館）には「雑用に使うための水」とあり、地域は異なるが沖縄方言では「洗濯などに使う飲料にならない水」と記載される（『日本方言大辞典』小学館）。
- [8] アイズシテ
話者によると、ことばが出てこないときに言う表現。共通語の「あれをして・あのようにして」などといったものと同等のもの。具体的に何かを表しているわけではない。

宮城県宮城郡松島町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
林 芸溱（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

文字化担当者 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡松島町 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡松島町

収録日時 2012（平成24）年7月14日

収録場所 宮城県宮城郡松島町磯崎 松島町中央公民館視聴覚室

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	男	1943（昭和18）年	（収録時69歳）	[Bの夫]
B	女	1942（昭和17）年	（収録時70歳）	[Aの妻]

話者出身地

A	松島町磯崎（イソザキ）
B	松島町磯崎（イソザキ）

【場面設定会話】

話し手

A 男 1943 (昭和 18) 年 (収録時 69 歳)

B 女 1942 (昭和 17) 年 (収録時 70 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アー オハエガスー。 (B アラー) ドーデスカ。

ああ おはようございます。 (B あら) どうですか。

002B : ンー。アラ オハヨー。シバラグダッタゴダー。

うん。あら おはよう。しばらくだったこと。

003A : ンダネー。ン ナン ナンカゲツブリカネー。

そうだね。× ×× 何ヶ月ぶりかね？

004B : ンー ナニシテダノー。 (A ンー) ハツパ ミエネガッタツチャネー。

うん 何してたの。 (A ンー) 全然 会えなかったよね。

005A : ンー チョットネ ビョーインサ カヨツテテ ナカナカ

うん ちょっとね 病院に 通っていて なかなか

デランネガッタンダオンニャー。

出られなかったんだよね。

006B : アラー ナジョナノ カラダノチョーシー。

あら どうなの 体の調子[は]？

007A : ンー マーダーダゲド、マー キオツケテンダ、ネー。

うん まあまあだけど、まあ 気をつけてるんだ、ねえ。

ンダガラ デハツテアルカナインデガスワー。

だから 出掛けて歩かないんですよ。

松島町 場面設定会話

008B : インダネ。 インデ マズ カラダ イズバンダガラネー。
そうだね。それで まず 体が 一番だからね。

キーツケテケサインネー。
気をつけて下さいね。

009A : アー ドーモ アリガトネー。
ああ どうも ありがとうね。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アー シバラグデスネー。
ああ しばらくですね。

002B : アー インダネー。
ああ そうだね。

003A : オカワリナイデスカー。
お変わりないですか？

004B : インダネー。 ナントカ ヤッテダネー。
そうだね。なんとか やってるね。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

(3-1) 夕方；暗くなりかけの場合。

001A : オバンデスー。
今晚は。

002B : オバンデスー。
今晚は。

003A : カワリネーデスカー。
変わりないですか。

松島町 場面設定会話

004B : ナントカ ンダネー、キョーモ イズニズ オワッタネー。
何とか そうだね、今日も 一日 終わったね。

(3-2)夜 ; 暗くなったあとの場合。

001A : コンバンワー。
今晚は。

002B : アー コンバンワー。
ああ 今晚は。

003A : ア チョット ヨージ アッテ キタンダゲットモ イーデスカー。
あ ちょっと 用事 あって 来たのだけど いいですか。

004B : ナニッシャー。
なんですか？

005A : シ アノ チーギデ (B ナニ) チョット レンラクジコーガ アッテ
ん あの 地域で (B なに) ちょっと 連絡事項が あって

キタンダヨ。
来たのだよ。

006B : シー デ ウジサ イグスカー。
うん では うちに 行きますか。

〈ねぎらい〉

(4) Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : アラー、ズイブン ガンバッテダゴダー。
あら、 ずいぶん 頑張ってること。

002A : シー ヤッパリ シネゲ ナンネーダオネ、ダレモ シテクレルシトガ
うん やっぱり しなきや ならないんだもんね、誰も してくれる人が

松島町 場面設定会話

イナイガラネー。(B ーン) ヤンネゲネンダネー。
いないからね。(B うん) やらなければならぬんだね。

003B : アンマリ ガンバッテ ツカレネーヨーニ シテケサインヨー。
あんまり 頑張って 疲れないように して下さいよ。

004A : ア ドーモ アリガドーネー。
あ どうも ありがとうね。

〈 勧め 〉

(5) Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001B : アラー スコシ ヤスン ヤスンダラ インデネーノー。
あら 少し ××× 休んだら いいじゃないの。

002A : ーン モー ソロソロ ツ ツカレデキタガラナ、スコシ ヤスムベヤ。
うん もう そろそろ × 疲れてきたからね、少し 休もうよ。

003B : ンデー ナニガ、チョット オガスッコ モッテキタガラ タベッペシー。
それでは なにか、ちょっと お菓子 持って来たから 食べよう。

004A : アリガトネー。{笑}
ありがとうね。{笑}

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニズワー。イ イダスカー。
こんにちは。 × いますか。

002B : アラー、イダヨー。アガッタライッチャー。 {笑}
あら、 いるよ。 あがったらいじゃない。 {笑}

003A : ンデネ、 チョットバリネ。 オ ハナシ アルンデ キタンデスカラネー。
それではね、ちょっとばかりね。 × 話[が] あるので 来たのですからね。

004B : ア ドーゾ ドーゾ。ンデ アガッテケライン、ツラガッテケッド。
あ どうぞ どうぞ。それでは あがって下さい、 散らかってるけど。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : コンチワー イダスカー。チョット スコップ シツヨーン ナッタンデ
こんにちは いますか? ちょっと スコップ 必要に なったので

スコップ カシテケネベガー。
スコップ 貸してくれないだろうか。

002B : アラー ドコサ アッタツケガ。ミデイッテ モッテッテケサイン。
あら どこに あったかな。 見て行って 持って行って下さい。

003A : {笑} ンーンーンー。ンデ ワルイゲド モノオギ シ
{笑} うんうんうん。それでは 悪いけど 物置 ×

ミサシエテケサインネー。
見させて下さいね。

004B : ア ドーゾ ドーゾ。
あ どうぞ どうぞ。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : アー サッキワネ スコップ カリデッテ、 カエシニキター。
ああ さっきはね スコップ 借りて行って、返しに来た。

ドーモアリガドネー。オ オカゲサンデ (B ウン) タスカッタノヤー。
どうも有り難うね。 × おかげさまで (B うん) 助かったんだよ。

002B : アー エガッタツスカー。ンデー マダ ソノヘンサ オイデテケサイン。
ああ よかったですか。 それでは また その辺に 置いておいて下さい。

アド カダズゲツカラ。 {笑}

後[で]片付けるから。 {笑}

003A : アー ンデ モノオギーサ オイデンカラネー。

ああ それでは 物置に 置いていくからね。

004B : アー ハイハイ。

ああ はいはい。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : スコップニヤー、チョット ムリシテ ヤッタラ

スコップね、 ちょっと 無理して やったら[=使ったら]

コワレデスマッタダオンネヤー、コイズ。ホントーニ

壊れてしまったんだよね、 これは。本当に

モーシワゲナガッタネー。

申し訳なかったね。

002B : アー フルガッタガラネー、スグ コワレダダベヨン。

ああ 古かったからね、 すぐ 壊れたんだろう。

003A : イヤ ソーユー ワゲデモ ナインダゲットモ、マー アンマリ ムチャナゴド

いや そういう 訳でも ないんだけど、まあ あまり[に] 無茶なこと

ヤッテシマッテネー。モーシワゲナガッタデスー。

やっちゃってね。 申し訳なかったです。

004B : ア イガスー イガスー。

あ いいです いいです。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー スコップ コワステスマッテネー、タイヘン モースワゲネガッタガスー。
ああ スコップ 壊してしまっただね、 大変 申し訳なかったです。

002B : アラ ナニサーー [1]。スグニ ツカワネゲネガッタンダゲッドー。アー
あら なんだって。 すぐに 使わなければならなかったんだけど。ああ

コマッテスマッタベッチャワー。

困ってしまったじゃないの。

003A : ア デネ、 サツソグ カツテキテネー ベンショースッカラネー。
あ ではね、早速 買ってきてね 弁償する [2] からね。

ゴメンナステケサインー。

ごめんなさって下さい。

004B : アラ ワルイゲットモ、ンデ ソシテモラウガラ。
あら 悪いけれども、 それでは そうしてもらおうから。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを物産市に誘う際のやりとり。

001A : コンヌズワ。
こんにちは。

002B : ア ハイ、ナニ。
あ はい、なに？

003A : アノ チカグニー [3] キョー ブッサンイジガ アルンデ
あの 近くで 今日 物産市が あるので

イッテミネスカー。

行ってみないですか。

004B : アラー キョーサー、オライノ マコ° クッカラ ダメナンダオネー。
あら 今日はね、 私の家の 孫[が] 来るから 駄目なんだよね。

(A シーデー) ワリーネヤー。

(A それでは) 悪いね。

005A : シーデー コノツギネー。

それでは この次ね。

006B : シーデーネー。

うん それではね。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Aの調子がいい場合。

001B : ア オハヨー。(A オ) カラダノ チョーシ ナジェナノー。

あ おはよう。(A ×) 体の 調子 どうなの。

002A : シー コノゴロ シーデーモ チョット タイチャー ヨクテネー、ナントガ

うん この頃 それでも ちょっと 体調[が] よくてね、なんとか

コノヨーニシター シ シンゴイテンデガスー。

このようにして × 動いてるんです。

003B : アー シーデー ヨガッタネー。シーデー ダイジニシテデネー。

ああ それでは よかったね。 それでは[体を]大事にしていね。

004A : アー シーダネー、アリガドネー。

ああ そうだね、ありがとうね。

(11-2) Aの調子が悪い場合。

001B : カラダノ チョーシ ナジェ ナジェナノッシャー。

体の 調子[は] ××× どうなのですか？

002A : シー コノゴロ トッテモ チョーシワルグテネー、シコ° キガ ワルイノー。

うん この頃 とても 調子悪くてね、 動きが 悪いの。

松島町 場面設定会話

マー シズガニシテンダゲットネー。チョット グアイ ワルインダオンネヤー。
まあ 静かにしているんだけどね。 ちょっと 具合[が]悪いんだよね。

003 B : アラー ンデ イシャサ イッテミネゲネンデネーノー。
あら それでは 医者に行ってみないといけないんじゃないの。

004 A : ンー イシャニワ イツモ イッテンダケッドネー、マー コレヨリ
うん 医者には いつも 行っているんだけどね、まあ これより

イグモナンネーノガネー。
よくもならないのかね。

005 B : アラー ホンナゴド イワネーデ モースコス ガンバッテケダライツチャー。
あら そんな事 言わないで もう少し 頑張ってくれたらいいじゃない。

006 A : ンー ドーモネ、アリガドー。
うん どうもね、ありがとう。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001 A : サイキン チョット カラダ、タイチョー ワルクテネー、ウズノ カタズゲ
最近 ちょっと 体、 体調[が] 悪くてね、 うちの 片付け[が]

デギネンデ オネゲーシテーンダゲットモ、イースカー。
できないんで お願いしたいのだけど、 いいですか。

002 B : アー ンデ シテヤッカラ。
あ それでは してやるから。

003 A : ンー ンーデ オネガイネー。(B ウン) ヨロスグオネガイスマス。
うん それでは お願いね。(B うん) よろしくお願いします。

004 B : ンー ンデ ワガ ワガッタガスー。シテヤッカラ、ンデネ。
うん それでは ×× 分かりました。 してやるから、それではね。

ネデサイン。〔4〕

寝てなさい。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを
制止してどのようにいうか。

(13-1) Aが制止する際の表現。

001A : アー ソノ ショルイ チョット マッテネ。エ ミデガラデナイト
あ その 書類 ちょっと 待ってね。× 見てからじゃないと

ステランネガラ、 チョット ミシデケサイン。アー コイズ
捨てられないから、ちょっと 見せて下さい。ああ これ

ダイジナンダオネ、コレ ヤクバガラノ ツーチダガラチャー。〔5〕
大事なんだよね、 これ 役場からの 通知だからね。

チョット オワンネガラ、 ソレ ソノママ オイデテケサイン。
ちょっと 終わらないから、それ そのまま 置いておいて下さい。

(13-2) Bが制止する際の表現。

001B : アラ チョットチョット。ソイズ、アラー ナンダイ チョット
あら ちょっとちょっと。それ、 あら なんだ ちょっと

ナゲネデケサインヨ。ワダシ ミデガラデネド ダメダガラッシャ、
捨てないで下さいよ。私〔が〕 見てからでないと 駄目だからさ、

コゴサ オイデケサイン。
ここに 置いて下さい。

宮城県宮城郡松島町方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 ナニスヤー

慣用的な表現。感動詞。話者によると、「ナニスヤ」で「なんだって」という意味を表す。

〔2〕 弁償する

本談話中には現れなかったが、話者によると当地域では「マヤウ」（弁償する）という表現が頻繁に使用されるという。マヤウカラ（弁償するから）、マヤツテケサイン（弁償してください）などと使用される。

〔3〕 チカグニー

ここでは「近くで」の言い間違い。

〔4〕 ネデサイン

「ネデイサイン」の「イ」が直前の「エ」の母音にくっつき、非常に弱まった形、もしくは「イ」が落ちた形。共通語で「寝ていなさい」と「寝てなさい」のどちらも使用されるのと同様。

〔5〕 ツーチダガラチャー

文末の「チャー」は、当該地域で頻繁に使用される文末の「(ッ) シャー」。発音上、「チャー」に近く聞こえるもの。

宮城県宮城郡松島町方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
林 芸漆（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

文字化担当者 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
林 芸漆（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

【 宮城県宮城郡松島町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な松島町方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音 /k/ /t/ が有声子音 /g/ /d/ になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

今回の会話集の話者たちにも、このような特徴がみられます。例えば、カ行音については、「デナエガッタ」（出なかった）、「ソッチガラ」（そっちから）、「キーダゴドネ」（聞いたことない）、タ行音については、「イダガラ」（居たから）、「アダシラ」（わたしたち）、「アンドギ」（あの時）のようなものが聞かれます。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層か

らも聞かれないことがあります。

例) ガ行：上げる → アケ° ル
ダ行：肌 → ハンダ
ザ行：風 → カンゼ
バ行：首 → クンビ

今回の会話集の話者からも、「マコ°」(孫)、「コノコ°ロ」(この頃)といったガ行の例が数例みられます。ただし、ダ・ザ・バ行の鼻音化は今回の話者たちからはほとんど聞かれませんでした。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子(しし)、煤(すす)、寿司(すし) → すべてスス
知事(ちじ)、地図(ちず)、辻(つじ) → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます(後述)。

今回の会話集では、「イズバン」(一番)、「イズニズ」(一日)などが聞かれました。また、「コンニズワ」(こんにちは)など、イとウの音が近くなるものに加え、先の語中のタ行の濁音化が重なったものも聞かれました。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん(じいさん)、十三(じゅうさん) → 両方ともズーサン
手術(しゅじゅつ) → スズツ

注射（ちゅうしゃ） → ツーシャ

この地域でも、昔はこのような発音が聞かれたものと思われます。ただし、今回の会話集では、ほとんど聞かれませんでした。

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械（きかい） → チカイ
救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ
今日（きょう） → チョー

この地域でも、キが「チ」に近く発音される傾向があることが予想されますが、今回の会話集では、多くは「キ」と聞こえるものがほとんどであり、このような発音はほとんど聞かれませんでした。

▼その他、以下のような特徴もあります。

- ・母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息（いき）、駅（えき） → 両方ともエギ
鯉（こい）、声（こえ） → 両方ともコエ

- ・アイ・アエという母音の連続（連母音）は融合して[ɛ:]（共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する）と発音される。

- ・ヒの音がシに近い音となる。

今回の会話集には、「シツヨー」（必要）などといった例が聞かれました。

Ⅰ アクセント

松島町はアクセントの型を持つ有型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハトシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別がつかず、

ただし、この地域は無型アクセント地域（宮城県南部）と有型アクセント地域（宮城県北部）の境界地域であり、型の区別はありますが、その区別があいまいであり、一般にあいまいアクセント地域と呼ばれます。

Ⅰ 文法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)
目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

これらの「が」や「を」は、今回の会話集でも無助詞で表示されている場合があります。例えば、「デンキ ツガナイガラ」(電気が点かないから)、「ミンナノブントッテキテ」(みんなの分を取ってきて) などのようなものがみられました。

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いが

あります（ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります）。

例) 東京サ行く
おれサ貸せ
見サ行く

今回の会話集でも、「ヒナンジョサ ナンニジグライ イタノッシャ」（避難所に何日くらいいたのですか）、「イッシューカングライ カイシャサ イーダミタイヨ」（一週間くらい会社にいたみたいよ）などといったようなものが聞かれました。

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」（推量）や「～しよう」（意志）に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ（明日雨だろう） <推量>
明日は早く起きッペ（明日は早く起きよう） <意志>
お祭り、お前も行くべ？（お祭り、お前も行くだろう？） <確認>
みんなでがんばッペ（みんなでがんばろう） <勧誘>

今回の会話集でも、「ムガシダッタラ ベンジョモネ ポットンダッタカラ エガッタダベゲド」（昔だったら便所もね、ぼつとんだったから良かったんだろうけど）、「オガスッコ モッテキタガラ タベッペシー」（お菓子を持ってきたから食べよう）のような例が聞かれました。

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

今回の会話集でも、目の前の状況を確認する「イダスカー」（いますか）、「ズイブン ガンバッテダゴダー」（ずいぶん頑張ってること）のようなものが聞かれます。

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使われやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない（か）」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1：ニショッコ（二燭光）って5ワットぐらいか。

B1：60ワットぐらいだッチャ。（60ワットぐらいでしょ。）

A2：え、そんなに光らないッチャ。（え、そんなに光らないでしょ。）

松島町でもよく使用されるようで、「ハッパ ミエネガッタッチャネー」（全然会えなかったよね）、「イマノジダイ アンマリ カンガエラレネチャネ」（今の時代あんまり考えられないよね）などといった例が、今回の会話集でもみられます。

★その他、以下のような特徴もあります。

- ・松島町では、文末に「(ッ) シャ」を頻繁に用いる。

例) 17歳からッシャ (17歳からですよ)

そういう関係ッシャ (そういう関係なんですよ)

<例文は藤原 (1967) より引用>

今回の会話集でも、「カラダノ チョーシ ナジェナノッシャー」(体の調子はどうなのですか)、「ナニッシャー」(なんですか)、「ナンニジグライ イタノッシャ」(何日くらいいたのですか) など頻繁に聞かれます。

・逆接既定条件 (共通語の「けれども」) は松島町では「ゲットモ」が用いられやすい。順接既定条件 (共通語の「から」) は「ガラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

例) 取りス (取ります)

んデガス (そうです)

おはよゴザリス (おはようございます)

お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

国立国語研究所編 (1981) 『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料 5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版

佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救う—3. 11 被災地からの提言—』ひつじ書房

藤原与一 (1967) 「“山形弁” と “宮城弁”」『国語学』70

り ふ ちょう
利 府 町



梨園（利府町）
（写真提供：宮城県観光課）



宮城郡利府町

宮城県宮城郡利府町概要

①利府町の概観

利府町は、宮城県のほぼ中央部、仙台市の北東に位置している。歴史上、多賀城の国府、仙台北下に接する北方の要衝として栄えた。現在では、多賀城市、塩竈市とともに「仙塩地区」が広域商工業圏として形成され、利府町は、この広域圏のベッドタウンになっている。仙台市中心部にも約30分の通勤・通学圏であることから、西部の新興住宅団地を中心に人口増加傾向にある。その一方で、松島湾に町の東部が面しており、松島の景観も誇っている。気候は比較的温暖で寒暖の差が少ない。

利府町の産業は農業、水産業や工業、商業と多彩である。農業は、平地では水稻農業、丘陵地帯では果樹園での伝統あるナシ栽培が盛んであり、利府町のナシは「利府町の長十郎ナシ」として有名である。水産業では、松島湾でのカキ養殖がある。

②収録地点について

今回の話者の方は、お二人とも利府町の中心部に近い加瀬地区にお住まいの方である。

③東日本大震災による利府町の被害

利府町は地形が東西に細い町域となっており、東側約2kmが松島湾に面している。3月11日の利府町の震度は6弱、その後の大津波によって、松島湾沿岸部の浜田・須賀地区は大きな被害を被った。

表1 利府町の人的・住宅被害

利府町人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
33,994人	46人	0人	0.14%	52棟	746棟

表2 利府町の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	542人	1.6%
世帯	192世帯	1.8%

※ 本文の内容は、衛藤(2012) P.168～173に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤(2012)のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達(2012)『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
利府町行政サービスPR(利府町公式サイト)(<http://www.town.rifu.miyagi.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>) (2013/02/23 アクセス)

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡利府町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡利府町

収録日時 2012（平成24）年7月17日

収録場所 宮城県宮城郡利府町字中央 利府町生涯学習センター

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1944（昭和19）年	（収録時67歳）	[Bの幼なじみ]
B	女	1940（昭和15）年	（収録時71歳）	[Aの幼なじみ]
C	男	1964（昭和39）年	（収録時48歳）	[知人]
D	女	1979（昭和54）年	（収録時32歳）	[調査者]

話者出身地

A	利府町加瀬（カセ）
B	利府町加瀬（カセ）
C	利府町加瀬（カセ）

【震災のときのこと】

話し手

A	男	1944 (昭和 19) 年	(収録時 67 歳)	
B	女	1940 (昭和 15) 年	(収録時 71 歳)	
C	男	1964 (昭和 39) 年	(収録時 48 歳)	
D	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 32 歳)	[調査者]

001A : アー ワタシワ カセヌマニ イダンデス。(D ア) カセヌマ。
あー 私は 加瀬沼に いたんです。(D あ) 加瀬沼。

002D : カセヌマ。(A アノ) アー、ウン。
加瀬沼。(A アノ) あー、うん。

003A : グランドゴルフ シッタッタノネ。(D ア、ソーナンデスカ) ウン。
グランドゴルフ していたのね。(D あ、そうなんですか) うん。

(D アノー) デ ソントギネ オワッテ ンジャ カダズゲッペド
(D あのー) で そのときね 終わって それじゃ 片付けようと

(D ウン) ユーゴドデ トジューデネー ナッタワゲデス。
(D うん) いうことで 途中でね [地震に] なったわけです。

(D アー) ソシタラネー モー チョット トヌカグ タッテランネーワゲサネ。
(D あのー) そうしたらね もう ちょっと とにかく 立ってられないわけね。

(D ンー) ンデ ヨズンバイニナッテ イダンダゲド、ソシタラネー
(D んー) それで よつんばいになって いたんだけど、そうしたらね

アノー チョット ジムショノ マエワネー ナンデモ ナッテネゲット
あのー ちょっと 事務所の 前はね 何にも なってなかったけれど

ニシガワネー エギジョーカゲンショーズノスカ (D へー) マックロイミズガ
西側ねー 液状化現象っていうんですか (D へー) 真っ黒い水が

利府町 自由会話

ワーッテ デダノサ。ホンデ アラ ハナ ホンカンデモ (C ハー)
わーって 出たのね。それで あら ああ 本管でも (C はい)

フツァゲタノガヤッテ イダッタノネ。 ソゴラ ス
壊れたのかなんて [言って] いたのね。そこら ×

エギジョーカゲンショーナンダネ。アズグネー (D ウン)
液状化現象なんだね。 あそこねー (D ウン)

コノヘンマデ アノ ムゴーネー アノ ヤジダッタガラ アノ (D ハイ)
この辺まで あの 向こうねー あの 谷地だったから あの (D はい)

タンボツグ タンボネー ササンナツタッテ、コゴマデ。ソイズ ンメダガラ
××××× 田んぼねー 笹になったって、ここまで。それ[を] 埋めたから

ヤッパリ ナガニ マダ スイブン (B ンダヨネー) ダイブ
やっぱり 中に まだ 水分 (B そうだよね) だいぶ

フグンデンノガネ (B ウーン ヤチネ) ソレデネー アララララッテ
含んでいるのかね (B うーん 谷地ね) それでねー あららららって

イダッタノネ。 ホンダゲレドモ マ ワダシラ イダドゴダゲワ
[言って]いたのね。それだけれども ま 私たち[の] いたところだけは

ナントガネー、ソゴダゲワ ホレ ウー エギジョーカゲンショーワ
何とかねー、そこだけは ほら うー 液状化現象は

ナガッタカラ。(D ウーン) ソシタラネー ムゴーノ アノ
なかったから。(D うーん) そうしたらねー 向こうの あの

ゴミショーキャグロ、コノエントズカ°ネー (C ウーン) ハズレデダノ。
ごみ焼却炉、 この煙突がねー (C うーん) 外れていたの。

コイナノコイナノ。 [1] アララ オレルワオレルワッテ
こんなのこんなの。 あらら 折れるわ折れるわって

利府町 自由会話

イダダゲントモネ (C ウーン) オレネガッダノワ。
[言って]いたんだけどもね (C うーん) 折れなかったんだよ。

(C ハー) (B ハー) ハー イヤイヤ コレ ハジメデ ミダデバ
(C はー) (B はー) はー いやいや これ 初めて 見たってば

ンダゲット、 アノジシンデネ。(B ンー) ソシテネー アー
そうだけれども、あの地震でね。(B んー) そうしてねー あー

オサマッタド オモタラ マダ ナツテキタワゲサ ホイズ。
おさまったと 思ったら また なってきたわけさ それ。

ナカ° ガッタガラネー。ソシテー オワ オワ マダ オワンナカ° ッタンダナ。
長かったからね。 そして ×× ×× まだ 終わらなかったんだな。

ソノウジネー アノー ダレガ ラジオ モツテダーノガナー ナーダガ
そのうちね あの 誰か ラジオ 持ってたのかなー 何だか

オーツナミ クンダドヤーッテユーゴド ナッタノネ。
大津波が[が] 来るんだってよーっていうこと[に] なったのね。

(B ンー) オーツナミツツタッテ ホレ、ナーニ ドイナダガ
(B んー) 大津波っていったって ほら、何 どういうのだか

ワガンネサ、 オーツナミツタッテ モー ヤンベー オッチンダナード。
分からないさ、大津波っていったって もう とても 大きいんだなと。

マサガ アンナ ジューナンメーターモ ニジューメーターモ
まさか あんな 十何メートルも 二十メートルも

サンジューメーターモ クット オモワネーガラネー。アーラ オーツナミ
三十メートルも 来ると[は] 思わないからねー。 あら 大津波

ナーニ マズー [2] ッテ。ソシテネー トヌカグ ナンカイモ ホレ
何 まずって。 そしてねー とにかく 何回も ほら

利府町 自由会話

ヨシン ツズイデッカラ チューシャジョーマデ イク° ノニネー
余震 続いているから 駐車場まで 行くのにねー

ヤッパリ ニサンカイグライ アンダモノ。 (B アッタ) アー マタ キター
やっぱり 二、三回くらい あるんだもの。 (B あった) あー また 来たー

ナンテネ。ソシテ ウジマデ ンデ ウジ ナンジョナッテダベヤーッテ、
なんてね。そして 家まで それじゃ 家 どうなっているだろうかって、

アー オライノ イエア アーダノ ツブレットンデネーガーワーッテ、ホレ。
あー うちの 家は あんなの つぶれているんじゃないかよって、ほら。

ソイナゴドデネー カエッテキタンダゲッドモ、マ サホドデナカッタゲットモ。
そんなことでねー 帰って来たんだけど、 まあ さほどでなかったけれども。

コゴワネ、オガケ° サマデ。マ ソンナゴドデネ サイソワ ンデモ
ここはね、おかげさまで。 まあ そんなことでね 最初は それでも

タイヘンダッタダオン。ホシテ チタラバ コンド サムイスぺ。
大変だったんだもの。 そして [家に]来たらば 今度 [は] 寒いでしょう。

サムイバス デンキワ コネーネアレ。アーズ、ホンデ クイモノネーダモノ
寒いし 電気は 来ないね。 あーと、それで 食べ物ないんだもの

コンド。(B アー) オレワネー コッペパン ヒトツ クテ ネデ
今度。(B あー) 俺はねー コッペパン ひとつ 食べて 寝て

クルマサ ホレ、クルマデ トマッテッチャワ、ドゴニモ イガンネーカラ。
車に ほら、車で 泊まっていたよ、 どこにも 行けないから。

ソイデ オライデ アノ チャノマ コイズ オットンダナー。
それで 私の家で あの 茶の間 [の] これ [=電灯] 落ちたんだなー。

(B アー) アブネクテネアレ。ホノ ケーコートー コワイガラッシャ、
(B あー) 危なくてね。 その 蛍光灯 怖いからさ、

利府町 自由会話

(B アー) ハイランネーガラ ホレ。デ クライベス デ クルマサ

(B あー) 入れないからね ほら。それで 暗いし それで 車に

ヒトバン トマッタノッサ。サムイベシ クイモノネーベスデ コンドワ
一晩 泊まったのさ。寒いし 食べ物ないしで 今度は

コッペパンデ、トユーンデ アノー ショクパンワ ミズ ネクテ
コッペパンで、というので あの 食パンは 水 なくて

ガマンシッタッチャワネアレ。

我慢していたよね。

004B : ンー ホントー。(A ウン) ヒドガッタネー。

んー 本当。(A うん) ひどかったねー。

005A : シドガッタダモノ。

ひどかったんだもの。

006B : アー ソー。ンーンー。

あー そう。んーんー。

007A : マー ソナエ コドダッダデス、ワカ^o ヤワ。

まー そんな ことだったんです、我が家は。

008B : アー ワタシワ アネノウジデネー X1ケデ オジャノミシッタノサ。

あー 私は 姉のうちでねー X1家で お茶のみしていたのね。

(A ンー) アネサマド。(A ウン) ソシタツケ ユーレデキタノ。

(A うん) お姉さんと。(A うん) そしたら 揺れてきたの。

009A : アー コッチノ。

あー こっちの。

010B : ウン。

うん。

利府町 自由会話

011A : コッチ ヤマダマジノ。

こっち 山田町の。

012B : ンー。

うん。

013A : ウン。

うん。

014B : コジネ。 ホシタラバー ユレデキタノ。ワダシネー アノ

こっちね。そしたら 揺れてきたの。私ねー あの

センダイオギジシン [3] ドギモ アネノウジニ イデ オジャノミシッタトギニ
仙台沖地震[の] ときも 姉のうちに いて お茶のみしていたときに

ナツダガラ アンダエサ クッド イツツモ ジシンニ ナツダガラ
[地震に]なったから あなたの家に くと いつも 地震に なるから

ヤンダーッテ。 {笑} カッタモノモ ナニモ バックモ ミナ オイテ、
嫌だーって。 {笑} 買ったものも 何も バッグも みんな 置いて、

クツモ ハカズニ ソ ハカズニ ソドニ デダノ。(A シテ)

靴も 履かずに × 履かずに 外に 出たの。(A そして)

ソシテ デデッテ タ ハタゲ アツタカラ アソコノ マエニネ ホラ
そして 出て行って × 畑 あったから あそこの 前にね ほら

X2チャン イエノ マエニサ。(A アー) ホンデ ハダゲンドゴニ イデ
X2ちゃん[の] 家の 前にさ。(A あー) それで 畑のところに いて

コーヤッテ ミッダラ X2チャン イエノ アノ イワヘーガ
こうやって 見てたら X2ちゃん[の] 家の あの 岩壩が

ヒックリガエッテダノ ホント。アラララララーッテ (A アー) ミテテ
ひっくり返ってるの 本当。 あらららららッテ (A あー) 見てて

アッリヤーツツテ ソシタラ イチオー オサマッタノ。シタラ
ありゃーっていって そしたら 一応 おさまったの。そしたら

アネガ ストーブ ケシタリネ アタシヨリ ジューニ ヨゲーダカラ
姉が ストーブ 消したりね 私より 十二〔歳〕 余計〔=年上〕だから

ハッチューヨンサイノ アネガ イッショーケンメーナテ {笑} ストーブ
八十四歳の 姉が 一生懸命になって {笑} ストーブ

ケシタリ {笑} デンキオ ナンダリシテ ソシテ ワダシノ クツ モツテ
消したり {笑} 電気を 何かして そして 私の 靴 [を] 持って

カイモノシタ フクロモツテ ホレ アンタ {笑} クズ ハガインツテ ユテ
買い物した 袋持って これ あなた {笑} 靴 履きなさいって 言って

アネガ

姉が

015A : ドツツ ドツツカ ドツツダガ ワガンネグナタノスカワ。
どっち どっちがどっちだか 分からなくなったんですか。

016B : ドツチガ ウン ドツチガ アネデ ドツチガ イモートダガ
どっちが うん どっちが 姉で どっちが 妹だか

ワガンネーヨーナゴドシテ ソシテ シタラ コンド ウジ
分からないようなことして そして そしたら 今度〔は〕 家

シンパイナノサワ、ヤッパリ。アネノウジモダゲド。アネノウジワ イーヨ、
心配なのね、 やっぱり。姉の家もだけど。 姉の家は いいよ、

リップダガラ。ツブレネベゲットモ ツブレネスワ
立派だから。 つぶれないだろうけれども つぶれないしは

ワガッタダンダゲド、 コンド ココ ズーット アルイテ ココ トー
分かっているんだけど、今度 ここ ずーっと 歩いて ここ ××

利府町 自由会話

チョード ココ トーッテ カエッタノネ。ホシテ ホラ (A ウーン)
丁度 ここ 通って 帰ったのね。そして ほら (A うーん)

ムスコノ ニバンメノ ウジノ ムスコノ ウジ ミタラ アソゴ
×××× 二番目の うちの 息子の 家 見たら あそこ[は]

テッキンダガラ ナントガ ナンデモナエンダサ。ンデモ コワクテ
鉄筋だから なんとか なんでもないんだよ。それでも 怖くて

イランナエツテ ソトニ ヨメトサ マコ° カ° プルプル
[中に]居られないって 外に 嫁とね 孫が ぶるぶる

フルエデッカラ ソノゴ ツレデ ウジマデ イツテ、
震えているから その子 [を] 連れて [私の] 家まで 行って、

シタラ ウジモ ドーユーワゲガ ツブレワシナガッタダヨネ。
そうしたら [私の] 家も どういうわけか つぶれはしなかったんだよね。

ンダガラ ソノ コンド ソコカラ ムスコダジド キューニンカゾクデ
それだから その 今度 そこから 息子たちと 9人家族で

イッカケ° ズ イマシタ。
一か月 いました。

017A : アー—— シバラグ カガッタモナー。
あー しばらく [復旧まで] かかったものなー。

018B : ンー イッカゲズ オイダヨー。 シタラ
んー 一か月 [息子たちを我が家に] 置いたよー。そうしたら

イッカゲズ タテ カエシテヤッタラ マダダスペヤ。
一か月 経って 帰してやったら またでしょうよ。

019A : シガツナノガニ コレガ オッチガッダノ、ギヤグニ。
四月七日に [来た余震] これが 大きかったの、逆に。

020 B : オッキガッタノ。

大きかったの。

021 C : オッキガッタネー。

大きかったねー。

022 A : アレガネ

あれがね

023 B : アノ ユレガ ムガシノ センダイオギジシンノ ユレダヨ アレ。

あの 揺れが 昔の 仙台沖地震の 揺れたよ あれ。

024 A : アーレデネー コンドワ ダンスイダ。スバラグ カガッタ、ダンスイ。

あれでねー 今度は 断水だ。 しばらく かかった、断水。

025 B : カガッタネー。ミズクミ タイヘンダッタネ (A ミズクミ) マイニジ。

かかったねー。水汲み 大変だったね (A 水汲み) 毎日。

026 A : ホンデ ヤグバマデ (B ン) イガナゲネンダオン。 ン ミズクミ。

それで 役場まで (B ン) 行かなければいけないんだもの。ン 水汲み。

(B ンダ) ノミミズネ。(B ン) ンデ トイレノ ミズワ ホレ コノ

(B そうだ) 飲み水ね。(B ン) それで トイレの 水は ほら この

027 B : カワガラ クンデキテモラウガラ。(A ア一)

川から 汲んできてもらうから。(A あ一)

028 A : アド オレ マチサ デッタガラネ、ヤグインダガラ。ンダガラ ソゴサ

あと 俺 町に 出てたからね、役員だから。 それだから そこに

ポリサゲ オケバ オイデッテケダガラ イガッタノネ。

ポリ [バケツ] さえ 置けば 置いていってくれたから よかったのね。

ノミミズカ° イズバン コマッタ。

飲み水が 一番 困った。

029 B : コマツタネ。

困ったね。

030 A : シテ オライデ マコ° チャッコイノ イダスぺ。

そして 私の家で 孫[が] 小さいの[が] いるでしょう。

031 B : アー ホンデ タイヘンダ。

あー それでは 大変だ。

032 A : コンドワネ オムツダモン、ナイスペワ。 (B ンー) ホンデ オラエノ
今度はね おむつたもの、ないでしょう。(B うん) それで 私の家の

ヨメッコ コンド アサ ゴジゴロ オギデー、ナランデイダンダベナー。

お嫁さん 今度 朝 五時ごろ 起きてー、並んでたんだらうなー。

(B ンー) ホデ ミルクダノ、ホデ ソイズ コー ナクテネ コンドワ

(B うん) それで ミルクだの、それで それ[が] こう なくて 今度は

ヤマガダノ (D アー) トナリノ ワゲモノ ヤマカ° ダサ イッカラ

山形の (D あー) 隣の 若者[が] 山形に 行くから

デンワシテ ヨナガニ モツテチテ モラッタデバ。(B ハー)

電話して 夜中に 持ってきて もらったってば。(B はー)

ハー イヤイヤ オムツド (B ンダネー) ミルクネ アレ カツテモラッテ

はー いやいや おむつと (B そうだね) ミルクね あれ 買ってもらって

ヨナガニ トドケデケダノ。

夜中に 届けてくれたの。

033 B : ダッテ ホラ イケナインダモノネー (D ウーン) ガソリンガ ナクテネー。

だって ほら 行けないんだものねー (D うーん) ガソリンが なくてねー。

034 A : ナインダモノ。ガソリンナイシネアレ、イガンネスぺ。

ないんだもの。ガソリンないしね、行けないでしょう。

035 B : イジバン ガソリン ナイノニ コマッタヨネ。ウゴゲナイ。
一番 ガソリン ないのに 困ったよね。 動けない。

036 A : コンドリ ナラブツタッテ ナー ندا オドゲデネー نداモノ。
今度は 並ぶといたって なんだ [列が] とんでもないんだもの。

イツズカンソコラデ カエネーガラワ。アーサカラ イッタッテ
一時間くらいでは 買えないからさ。朝から 行ったって

オシルナンダモノ、カエッデクッド。
お昼なんだもの、 帰ってくると。

037 B : ミルク ホシガッダノ。
ミルク 欲しかったの？

038 A : ウン。
うん。

039 B : アーソー。
あーそー。

040 A : ンー ダガラネ タイヘンダッタゴドモ アッタノ。
うん だからね 大変だったことも あったの。

041 B : アカチャンワ タイヘンダッタベナー。
赤ちゃんは 大変だったでしょうねー。

042 A : ウン。アイズ イマ フタツツ ナッタグレドモネ (B アー) アー
うん。あいつ 今 二歳[に] なったけれどもね (B あー) あー

ンダガラ ナーニ イッサイノ サンガズウマレナンダゲツト イッサイノ
だから 何 一歳の 三月生まれなただけれど 一歳の

タンジョービモ ナンニモ ネーノサワ ホレネアレ。
誕生日も 何にも ないのさ ほらね。

ソイズドゴロデネーモン ンダッテ。

それどころではないもの だッテ。

043B : ンダネー。シカシ アノ アーユーフーナ テンサイッテユーガ
そうだね。しかし あの ああいうふうな 天災というか

ジシンダノ オギット アカチャンダノサ トシヨリダノワ ヒドイナー。
地震だの 起きると 赤ちゃんとかさ 年寄りとかは ひどいね。

(A ウン) ヤッパリ トシヨリド コドモワ ヒドイ。

(A うん) やっぱり 年寄りと 子供は ひどい。

044A : タイヘンダネ。

大変だね。

045B : シー タイヘン。シー ワガイヒトワ ツ ナンデモ デギンダヨネ。
うん 大変。 うーん 若い人は × 何でも できるんだよね。

(A ウン) アルグゴドモネ。 (A ンダモ ガマンネー)

(A うん) 歩くこともね。 (A そうだもの 我慢ね)

ガマンモデギッケンドー、タダ トシヨリト コドモワ デギナイ。
我慢もできるけれど、 ただ 年寄りと 子供は できない。

046A : デギナイノネ。 (B シー) ホンナ ガマンモナニモ。
できないのね。 (B うーん) そんな 我慢も何も。

047B : ガマンモ デギナイシネ マッテルノモ ダメダシナー。
我慢も できないしね 待ってるのも だめだしな。

048A : タイヘンダッタオンナ。アトワ ショージギイッテネ (B ウーン)
大変だったものな。 あとは 正直言ってね (B うーん)

マー ホントー ダメダ、コイズワネー。ドゴデモ ホレ ンダガラー、
まー 本当 だめだ、これはねー。 どこでも ほら そうだから、

利府町 自由会話

トヌカグ イジバン ガソリンネーノガ イジバン コマッタオンネ。
とにかく 一番 ガソリンないのが 一番 困ったものね。

クルマサ イレルズダッデ ハンニジグライ カガッテ ホンデ
車に 入れるといたって 半日くらい かかって それで

049 B : ジュー ジューリッターダモノ。
××× 十リットルだもの。

050 A : ジューリッターグライスカ イレナガッタズーコードダッタ。
十リットルぐらいしか 入れられなかったということだった。

051 B : ンー、ンダガラー ソンナー デシタネー。ンー。
うーん、だから そんな でしたね。 んー。

052 A : ホイズ ワガッテレバ ミンナ マンタンニ イレッタндаベゲットモ、
それ[が] 分かっていたら みんな 満タンに 入れていたんだらうけれども、

マーサガー ジシンクット オモワネーガラ ホレ ナーニ ジリジリーノ
まさか 地震来ると 思わないから ほら 何 ギリギリの

センデ ホレ アシタ イレツペナッテヒトモ アッタベゲットモ、
線で ほら 明日 入れようって人も いたたらうけれども、

ガソリン。
ガソリン。

053 B : ホンデ Aチャン イエデワ ナンデモネガッダノ。
それで Aちゃん[の] 家では 何でもなかったの。

054 A : デ オライデネー
で 私の家でねー

055 B : イチブソンカイ、ハンカイ。
一部損壊、 半壊？

056 A : イチブー ウン ダガラ モースコマネンダナース。ナンモ
一部 うん だから 申し込まないんだな。 何も

タイスタコトネーダモノ。アイズバッテダ、オッタノ。アノ デンチネアレー。
大したことないんだもの。 あればかりだ、 落ちたの。あの 電気ね。

(B ウン) カサ [4] オッタンダナー。ヤラッチャレットンダ。

(B うーん) 傘 落ちたんだなー。やられちゃったんだ。

アイツドネー

あれとねー

057 B : チョード オンナジトギニ オンナジダイクサンデ タデダンダネ (A アー)
ちょうど 同じ時に 同じ大工さんで 建てたんだね (A ああ)

オダグド ウジ。(A ウン) ンダガラ タンジョービ オンナジダネ (A ウン)
お宅と うち。(A うん) だから 誕生日 同じだね (A うん)

アノー (A ウジね) ウジノタンジョービ ウジョノタンジョービガ

あの一 (A 家ね) 家の誕生日 家の誕生日が

オンナジナンダガラ ナンデ

同じなんだから 何でも

058 A : ナンデモネガッダノ。

何でもなかったの?

059 B : ナンデモナイ。(A ンー) ウジモ タイシダコド ネーネ。

何でもない。(A んー) うちも たいしたこと ないね。

イジバン イダンダノワ センダイオギジシンドギダヨナー。 {咳ばらい}

一番 傷んだのは 仙台沖地震 [の] ときだよな。 {咳ばらい}

060 A : ホーンドギダッデ オライ ナンデモネーヨ。

そのときだって 私の家 なんでもないよ。

061 B : オライデ タイルサダノ コー ハイタッタッテ。
私(わたし)の家で タイルだの[に] こう [亀裂が]入ったって。

062 A : ハー オライデモネ サホド ホレ ナンボガワ ホレ キレズワ
はー 私(わたし)の家でもね さほど ほら いくらかは ほら 亀裂は

ハイッタゲットモ。(B シー キレズサ) カベニネ。 ナーニ
入ったけれども。(B うん 亀裂さ) 壁にね。 何

063 B : シー カケタリワシナイ。
うん 欠けたりはしない。

064 A : サッパリ スンデ シショーネーモノ ンダッテ。(B シー ダガラ)
さっぱり 住んで 支障ないもの それだッテ。(B うん だから)

ダガラ オラエ (B ウーン) ヤク° バノホーニモ トドゲナイシ
だから 私(わたし)の家 (B うーん) 役場(やくば)の方にも [被災の] 届けないし

ホレ ナニモ ウン ソーダッタノ。
ほら 何も [しなかった] うん そうだったの。

ンデネー タンボ ウメデネー、ヤ ヤワ ゼンブ ヤワイガラナノガネ、
それでねー 田んぼ 埋めてね、 × ×× 全部 やわらかいからなのかね、

ナゼガシラネゲット トニカグ ナンデモネーンダネ。(C ウーン)
何故か知らないけれど とにかく なんでもないんだね。(C うーん)

065 B : オンナジニ コー ウゴイダндаベネ。
[地震のゆれと] 同じに こう 動いたんだらうね。

066 C : ギャグニ ジバンガ (A アー) ヤワイガラ
逆に 地盤が (A あー) やわらかいから

067 A : ヤワイガラ カエッテ
柔らかいから かえって

068 B : ヤワイマンマ ウコ イタンダサネー (C ダガラ ク クッションニナッテ)
柔らかいまま うごいたんだねー (C だから × クッションになって)

エキジョーカシナクテ
液状化しなくて

069 A : ンダガラ イガッタノカネー アイズ。(B ン---)
それだから よかったのかね あれ。(B うーん)

070 C : ガンバンダト カエッテ ヤラレダンダモンネ ウン。(A アー)
岩盤だと かえって やられたんだものね うん。(A あー)

071 A : ソーユーネ マズネ ウー
そういうね まずね うー

072 B : ヨガッタネー。
よかったねー。

073 A : ウン。サホドージャナクテネ (B ン---) ウン ナニモ タイシタ
うん。さほどじゃなくてね (B うん) うん 何も 大した

074 B : リフワネー。
利府はねー。

075 A : ウン ヒガイモナクッテネー マズー (B リフワ オナジ) ホガガラ
うん 被害もなくてねー まずー (B 利府は 同じ) ほかから

ミダラバネー (B ン---) ナイド オナジダガラッサ。
見たらねー (B うん) ないと 同じだからさ。

076 B : ンダネー。
そうだね。

077 A : ウン。イガッタノ。
うん。よかったの。

利府町 自由会話

078B : ソレワネー カペノー ハジッコ カゲダドガナンテワ
それはね 壁の 端っこ [が] 欠けたとかなんていうのは

(A シー ソンナノワネー) ホンナー アルンデスー、ヤッパリ。

(A うん そんなのはねー) そんな あるんです、 やっぱり。

ンダゲド オナジグ ホラ ンット ヒドグワ ナンナカッタ。
そうだけど 同じく ほら うんと ひどくは ならなかった。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 コイナノコイナノ

身振り以示している。

〔2〕 マズ

利府町において「マズ」は、共通語の「まず」とは異なり、「まあ」「本当に」などの間投詞のように用いられている。ここでは「まあ」「本当に」などとも訳せないため、「まず」のままにしてある。

〔3〕 センダイオギジシ

仙台沖地震。1978年6月12日に発生した宮城県沖地震のこと。

〔4〕 カサ

蛍光灯などにかぶせてある傘のこと。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
柴田 充（東北大学文学部3年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
柴田 充（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡利府町 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡利府町

収録日時 2012（平成24）年7月17日

収録場所 宮城県宮城郡利府町字中央 利府町生涯学習センター

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	男	1944（昭和19）年	（収録時67歳）	[Bの幼なじみ]
B	女	1940（昭和15）年	（収録時71歳）	[Aの幼なじみ]

話者出身地

A	利府町加瀬（カセ）
B	利府町加瀬（カセ）

【場面設定会話】

話し手

A 男 1944 (昭和 19) 年 (収録時 67 歳)

B 女 1940 (昭和 15) 年 (収録時 71 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : ア オハイガスー、 マズ。

あー おはようございます、まあ。

002B : オハイガスー。 ナーニ キョーワ テンキイーゴダ。

おはようございます。何[と] 今日は 天気いいこと。

ナニ スットゴッシャヤ。

何[を] するところですか。

003A : ンー ハダゲサデモ エッテ クサトリデモ スッカド オモッタノッシャ。

んー 畑にでも 行って 草取りでも するかと 思ったのさ。

004B : アー エマ ナニ アンダエデ ウント トレンノ。

あー 今 何 あなたの家で たくさん 取れるの？

005A : ンー ンダネー、マー ニドイモドガ アド (B ンダナガー)

うーん そうだね、まあ 里芋とか あと (B そうなのか)

トメキ° ドガ、 (B ンー) マー アマリ ツクッテイネンダгентモ

とうもろこしとか、 (B うん) まあ あまり 作っていないんだけども

ホレ。

ほら。

006B : アー ソー。

ああ そう。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アーヤ コンヌズワ。

あら こんにちは。

002B : コンヌズワ。アッタケネア キョーネアー。

こんにちは。暖かいね 今日ね。

003A : ンダー、チョックラ イーテンキデ マズ。

そうだね、ちょっと いい天気で 本当に。

004B : ンダデバサー ナンダッテ マズ。キョー イマカラ ナニスツゴ。

そうだよ 何だって まず。今日 今から 何するところ？

005A : イマ ハダゲサ イッテキタドゴナンデガス。

今 畑に 行ってきたところなんです。

006B : アー アングエノ ヌドエモ ナニ ウエッタノ。

あー あなたの家の 里芋 何を 植えているの？

007A : ナニ ホラ アー トメキ° ドガ アド (B アー) チャベズドガ

何 ほら あー とうもろこしとか あと (B ああ) キャベツとか

(B アー) ネキ°。イマ クッサ デッダモンダガラ ウント

(B ああ) ネギ。今 草[が] 出ているものだから うんと

クサトリシテキタドゴデガス。(B ンダナヤー) イマ

草取りしてきたところです。(B そうなの?) 今

アガッテキタトコダモ。

[終わって] 上がってきたところだもの。

008B : ンダスカヤ。シメリッケワ アッペシナヤ、テーンキワ イーベスタガラ

そうですか。湿り気は あるだろうしね、天気は いいしだから

ナーンダベネー、クサ (A アー) デンモンネ。

何だろうね、草 (A ああ) 出るものね。

009A : クサ オドゲデネス。
草 とてつもないし。

010B : オッカゲタデネネ。
追いつかないね。

011A : クサ オドゲデネクサダ ホントヌ。
草 すごい草だ 本当に。

012B : シー シートニ オッカゲタデネ。
うん 本当に 追いつかない。

013A : シー。
うん。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アヤヤ オバンデガスー。
おや こんばんは。

002B : オバンデガスー。
こんばんは。

003A : ヤーヤ チョーワ ナニシタドゴッシャヤー。
おや 今日は 何したところですか。

004B : キョースカー。ンダネー オラー ミンナシテ オジャノミシテキタデバ。
今日ですか。 そうだね 私は みんなで お茶飲みしてきましたってば。

005A : イーヨネア オジャノミスットゴ アッガラ マズ。
いいよね お茶のみするところ[が] あるから 本当に。

006B : ンダデバサー、ヤッパリナ トモダジツツノワ アリガデモンダネヤ。
そうですよ、やっぱりね 友達というのは ありがたいものだよね。

利府町 場面設定会話

007A : ヤッパリ ソイッタッテ ダイズナコッタガラサー。
やっぱり それだって 大事なことからさ。

008B : ングヨー。(A ンー) ナニモカニモサ キョー ウント オモシエゴド
そうだよ。(A うん) 何もかにもさ 今日 うんと 面白いこと

キーデキタヤー。
聞いてきたのよ。

009A : ナニ オハナス キーデキタドゴダッタノッシャヤ。
何[の] お話 聞いてきたところだったのですか。

010B : アンマリ オモシエクテ オシエランネ。
あんまり 面白くて 教えられない。

〈 ねぎらい 〉

(4) Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : ナーダベ Aチャン ガンバッテダンダー。アーンタ ツカレンナヨー。
何だ Aちゃん 頑張ってるんだ。 あなた 疲れるなよ。

002A : ウーン マズ マ ナットモ コリャコリャナー [1]。ガンバンネド マズ。
うーん まあ まあ 何とも まあね。 頑張らないと 本当に。

クサワ デデッペス タイヘンナンダゲットモ マズ。
草は 出ているし 大変なんだけども 本当に。

ドーモアリガトスー。
どうもありがとうございます。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : アー コンヌズワ マズ。
あー こんにちは まあ。

002B : コンニズワー。

こんにちは。

003A : ナンダイ ズイブン イッショーケンメーダゴダー。 {笑}

何だい ずいぶん 一生懸命なこと。 {笑}

ナーニ シッタドゴ。

何 しているところ？

004B : アノサー イマサー ヤス アソンデバリ イランニエガラサー

あのさ 今さ ×× 遊んでばかり いられないからさ

クサドリシッタッチャヤ。

草取りしているのよ。

005A : マー ンデモ アレッタガラ スコシ イップグシタラ イーンデネスカ

まあ それでも あれだから 少し 一服したら いいんでないですか

ココデ。

ここで。

006B : ンデ Aチャント イッショナラバナヤ、ンデ ヒトヤスミシテ

それじゃ Aちゃんと 一緒ならね、 それでは 一休みして

007A : ンー (B ネー) イップグシテ。

うん (B ねえ) 一服して。

008B : ウン。タバゴニデモ [2] スッガワ。

うん。おやつにでも するか。

009A : ンダネー (B ンー) イップグスサエ マズ。 [3]

そうだね (B うん) 一服しなさい まず。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001B : コンニジワー。 イシタガー。

こんにちは。 いましたか。

002A : アーイ イスター。

はい いました。

003B : ナヌ スッタドゴ。

何 しているところ？

004A : ナーニ ココデ ゴロゴロ ネットンデガスー。

何 ここで ごろごろ 寝ているんです。

005B : アーー ナニ ドゴガ イデドゴデモ アッタノ ホラ。

あー 何 どこか 痛いところでも あったの ほら。

006A : イヤ、ソナゴドワ ネーダゲントモ (B ンー) ナニモ ネーガラ

いや、そんなことは ないんだけど (B うん) 何も ないから

(B ンー) ココデ ネットドゴダッタノ。

(B うん) ココデ 寝ているところだったの。

007B : アー。ンデナー アンマリ ホラ ツカレネヨニ ユックリ ヤスマセ。

ああ。それではね あんまり ほら 疲れないように ゆっくり 休みなさい。

008A : ンダネー。ンデモ マダ ネデバリモ イランニエンデガス。

そうだね。それでも まだ 寝てばかりも いられないんです。

コレカラ ホレ アー (B アー) マタ ハダゲコサデモ。イガネホーガ

これから ほら あー (B あー) また 畑にでも。 行かないほうが

イーンベゲントモナー。

いいんだろうけれどもな。

利府町 場面設定会話

009B : アー、ナニ、ナニスッサ イグドゴ。

あー、何、何[を]しに 行くところ？

010A : ナニ スコシ アレモ ホラ ナッパデモ トッテクツカド オモッテッサー。

何 少し あれも ほら 菜っ葉でも 取ってくるかと 思ってさ。

011B : アー ンダネー。ンデ イッテゴザッサエ。

はい そうだね。それでは 行ってきてください。

012A : ンー チョットナレ アト イッテチテ。アドワ

そうだね ちょっとね あと 行ってきて。あとは[=残っているのは]

ソんな タイシタゴド ネーндаベゲントモ スコッタゲントモ [4]

そんな 大したこと ないんだらうけれども 少しだけれども

マズ イッテクツガラ マズ。

まず 行ってくるから まあ。

013B : ンー ンデネー。 (A ハイ) マダ アエスピャ。

うん それではね。 (A はい) また 会いましょう。

014A : アイ ンダネー。ドーモ マズ アリガトゴザイスー。

はい そうだね。どうも まあ ありがとうございます。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) BがAにスコップを借りるときのやりとり。(Aが貸す場合)

001B : コンニジワー。Aチャン イダノー。

こんにちは。 Aちゃん いるの？

002A : アー、オリシタ。

あー、いました。

003B : ンー。アノサー、マゴドヌ モースワゲネゲットサー、シャボロ

うん。あのさ、 まことに 申し訳ないけれどもさ、 スコップ

カシテケサイ、 マズ。 [3]

貸してください、まず。

004A : シー、マー、オラエノ アッゲントモ ナーニ ルーグナ [5] シャプロデ
うん、まあ、私の家の あるけれども 何 ろくなス Copp では

ネゲットモ、 マズ ツカッテケサイ コエズ コレ。アッカラ マズ。
ないけれども、まあ 使ってください これ これ。あるから まず。

モーシ ツグドギ [6] イズデモネ。

もし 使うとき いつでもね。

005B : ンデ マズサ。モースワゲネゲットモ ンデ カリッガラネア。
それでは まずさ。申し訳ないけれども それでは 借りるからね。

006A : シー、イガス。モッテッテ ツカワイン。
うん、いいです。持っていて 使ってください。

007B : ハイ。

はい。

〈 お礼 〉

(8) Bが借りたス Copp をAに返しに行ったときのやりとり。

001B : ア、コンニジワー。

あ、こんにちは。

002A : ハーイ。

はい。

003B : Aチャーン。

Aちゃん。

004A : ハイ。

はい。

利府町 場面設定会話

005 B : キョーワ マズ ドーモアリガドゴザリシター。
今日は まあ どうもありがとうございました。

006 A : イヤイヤ。
いやいや。

007 B : ウント ヤグニタッタデバー。ナンダッテ マズ ワルイガッタネヤー。
うんと 役に立ったよ。 何だって まあ 悪かったね。

マー、アンマリ マデデワ ネゲットモ アラッテ ケシタガラネ。
まあ、あまり 丁寧では ないけれども 洗って 返したからね。

シテケサイ。
してください。

008 A : ア ナーヌ、アルーゴド ネガッタノー。(B ナーニ)
あ 何、 洗うこと なかったの。(B 何)

ドシエロ クサレ [7] シャボロッコー (B ナンダー) ナーヌスヌ
どっちにしる 腐れスコップ (B 何だ) どうして

ワザワザ アラッテキタンダッケナー。
わざわざ 洗ってきたんだったの。

009 B : ナーヌ ホンダッテサー、タント ヤグタッダド アンダ。(A アー)
何 そうだってさ、 たんと 役[に]立ったよ あなた。(A ああ)

クサレッタッテ ナンダッテ クサレデネガッター。
腐れているといって[も] 何だって 腐れていなかった。

010 A : アー ホガ、 ンデ (B ン一) イガシター。 ホントニ ヤグニタッテモラッテ
あ一 そうか、では (B ん一) よかったです。本当に 役に立ててもらって

マズ。マダ
まず。また

011B : アリガトゴザリシター。
ありがとうございました。

012A : シー。 イズデモ イーガラ ツカッテケサイン。
うん。 いつでも いいから 使ってください。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) BがAに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Aが構わないという場合。

001A : ナーヌ ソイズナレ、ドーシェ ホンダ フツチャケシャボロッコダッタガラー、
何 それね、 どうせ そんな 壊れスコップだったから、

ドーシェ ブンナゲット オモッテイダッタダガスー [8]。
どうせ 捨てようと 思っていたんです。

ソンナゴド オモテ
そんなこと 思って

002B : ソンナゴドワネーチャヤー、 モーシワゲネガッタナヤー、 (A ナニー)
そんなことはないよ、 申し訳なかったね、 (A 何)

Aチャーン。
Aちゃん。

003A : イーノイノー、 ホンナノ キニスッゴド ネーダガラ。
いいのいいの、 そんなの 気にすること ないんだから。

004B : イーヤー、 ソノウジサー センダエサ イッタラ カッテクッガラサー、
いいや、 そのうちさ 仙台に 行ったら 買ってくるからさ、

ソレマデ ガマンシテデクナインワー。
それまで 我慢しててくださいね。

005A : エーノエノ、 ホンナゴド チニスッゴド ネーガラ、 ナーニ キニシタッテ
いいのいいの、 そんなこと 気にすること ないから、 何 気にしたって

シャーネーガラ。 キニスゴド ネーガラ (B ンダスカヤー) イーガラ。
しようがないから。気にすること ないから (B そうですか) いいから。

006 B : イヤイヤ、モースワゲネガッタナヤー。
いやいや、申し訳なかったね。

007 A : イヤ ホンナゴド ネーガスー。ホンナゴド ネーノ、 イーノイーノ。
いや そんなこと ないです。 そんなこと ないの、 いいのいいの。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。
なし [9]

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを温泉に誘う際のやりとり。

(10-1) Bが同意する場合。 [10]

001 A : ヤー コンドサ (B ーン) スコシア イギヌギニア ソノヘンサデモ
やあ 今度さ (B うん) 少し 息抜きに その辺にでも

イッテミッガヤー。
行ってみるか。

002 B : ンダガヤー。マイヌズ カシエーデバリ イランネ。 オモシエグネオンナヤ。
そうか? 毎日 働いてばかり[も] いられない。面白くないものね。

003 A : ンダ。 カシエグナバリ ノーデネーンダー。
そうだ。働くのばかり[が] 能ではないんだ。

004 B : ンダナー。
そうだね。

005 A : ヤッパリ タマニサー、 (B ーン) ーン、ソツツコツツ アルグノモ
やっぱり たまにさ、 (B うん) んー、そっちこっち 歩くのも

利府町 場面設定会話

イーゴッダッスー、(B ンダー) ナーヌモ ヒヤグマデモ イギネー
いいことだし、(B そうだ) 何も 百[歳]までも 生きない

(B ンダー) ン ジョーブナウズ イク° ベッチャヤー。

(B そうだ) うん 丈夫なうち 行こうじゃないよ。

006B : オラモ ツカレタガラサワ、チョードイードギダガラ。ンデ イズ。
私も 疲れたからさ、 ちょうどいいときだから。それで いつ?

007A : イズテ ンダナー ハエホ イッサナー、イク° ンダッタラバナー。
いつって そうだな 早いほうが いいね、 行くんだったらばね。

(B ンダナー) ンデ、 コンゲツノ ホラ ニジューゴログヌズゴロ

(B そうだな) それで、今月の ほら 25、6日ごろ

ナンジョダベヤ。

どうだろう。

008B : イー。ナニー、ナニ アッタッテ ヤメデ インカラ。
いい。何、 何[が] あったって やめて 行くから。

009A : ンダナー。デ、 ドッチサ イッテミッペナー。
そうだな。それで、どこに 行ってみようかね。

010B : ンダナー、ヤッパリ ユックリストゴ (A ンダな) イーデワ。
そうだな、やっぱり ゆっくりするところ[が] (A そうだな) いいわ。

011A : ホンデ マー、デ マズ オンシェン イーサナー。
それでは まあ、× まず 温泉[が] いいね。

012B : ンダネー。

そうだね

013A : デ、フロサデモ ツカッテ (B ンダーンダー) マズ トマッテクッサワネー。
で、風呂にでも つかって (B そうだそうだ) まず 泊まってくるよね。

利府町 場面設定会話

014B : シダネ。 (A シ) ナヌモ イズヌズバツテネーダツテ イーンダヨ。
そうだね。(A うん) 何も 1日ばかりでなくたって いいんだよ。

015A : シダネ。 ナヌ ニサンヌツタツテ オレモ カマネンダ
そうだね。何 2、3日といたって 私も 構わないんだ。

(B シダネ) ソイズワ シ。
(B そうだね) それは うん。

016B : シデ、 ソースッペシ。
それでは、そうしよう。

017A : シー。
うん。

(10-2) Bが断る場合。

001A : ヤー、コンドサー ホレ イダ イママデ コダイ イソガスイミシテ [11]
いや、今度さ ほら ×× 今まで こんなに 忙しい思いして

ント カシェーダガラサー、スコス ホネヤスメデモ エツテ、マー
うんと 働いたからさ、 少し 骨休めでも 行って、まあ

ソノヘンサ エツテ マズ ヌサンニズ トマツテキタイト
その辺に 行って まず 2、3日 泊まってきたいと

オモウンダгентモ、ナンジョダヤー インカヤ。
思うんだけど、 どうだい 行くかい？

002B : アー、シダガー。オラモ ウント アーンタト イク° デーンダгентモサー、
あー、そうか。 私も うんと あなたと 行きたいんだけどさ、

オライデ ナンダツテナヤ、ミンナシテ ドコサガ イク° シダツテ
私の家で 何だってね、 みんなで どこかに 行くんだって

利府町 場面設定会話

シャレダゴド カダッテンダオヤー サイキン。
しゃれたこと[を] 話しているんだものさ 最近。

ンダガラナレ、Aチャン ホイズ ムリダガモシネー。
それだからね、Aちゃん それ 無理かもしれない。

003A : ンダナー ヤッパリナレ、(B ンー) ワゲシトダズノナー ヤッパリ (B ンー)
そうだな やっぱりね、(B うん) 若い人たちのね やっぱり (B うん)

スコス アイズモ カンガエデケネドナー。
少し あれも 考えてやらないとな。

004B : ンダナー。(A ンー ヤッパリー) モースワゲネナヤー。
そうだね。(A うん やっぱり) 申し訳ないね。

005A : アー、イーンダヨ コイズ ナニ。
あー、いいんだよ これ 何。

006B : マダ サソツテケサイ マズ。
また 誘ってください まず。

007A : ウン。マズ ナニ コンカイデネーダッテ マダ ナンカイモ アッガラサー、
うん。まず 何 今回でなくたって また 何回も あるからさ、

(B ンー) ホダラ ホンドキ マダ (B ンー) ツギンドギ (B ンー)
(B うんうん) それなら そのとき また (B うん) 次のとき (B うん)

マダ
また

008B : ヨロシグ タノミステ。
よろしく 頼みますね。

009A : ホンドギ コエ カゲッガラ マズ シトズ、ネー。イッショヌ イク° ヨニ
そのとき 声 かけるから まず ひとつ、ねー。一緒に 行くように

シテケサイ。
してください。

010B : ハーイ ワガリシタ。
はい わかりました。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : ナジョダ チョーシ、イーガヤ。
どうだ 調子、 いいか？

002B : アー ンダネー ナニ コゴサ ネデンノモ ヤンダグナッタドーヤ。
あー そうだね 何 ここに 寝ているのも 嫌になったもの。

003A : アンマリサー (B うん) ネデバリイテモ ワガンネカラサー、 (B ー)
あまりさ (B うん) 寝てばかりいても だめだからさ、 (B うん)

スコス チバラスヌ、チョット ホレ ソドサデモ デデ、
少し 気晴らしに、ちょっと ほら 外にでも 出て、

スコス ソドノ クーキデモ スッタラ イーンデネノガー。
少し 外の 空気でも 吸ったら いいんじゃないのか。

004B : ンダナエー ナニサ ハヤグ タイインシテーノサワ。ンダゲント
そうだね 何 早く 退院したいのさ。 そうだけれど

オイシャサンサ、 マー、モースコス オグツーンダナヤー。 (A アー)
お医者さん[が]さ、まあ、もう少し 置くと言うんだよね。 (A ああ)

イマワ ドゴモ イデグネーヨーナンダワー。 (A ンダ) ハヤグ エサ
今は どこも 痛くないようなんだよ。 (A そう) 早く 家に

ケッテグナッタドワヤー。
帰りたくなったのよ。

利府町 場面設定会話

005A : ンダゲットモナレ、ムリスッコド ネーガラ マズ トモカグ
そうだけれどもね、無理すること ないから まず ともかく

イシャノ ユーゴド チーデ (B ンー) スコス マズ マー キーアシェネデ
医者の 言うこと 聞いて (B うん) 少し まあ まあ 気持ち焦らないで

マズ、ジックリ マズナ、(B ンー) イシャサ [12] ユートーリニ
まあ、じっくり まずね、(B うん) 医者× 言うとおりに

ステオイッタホーガ イーンダー。アド マダ タイインシタタテ スーグ マダ
しておいたほうが いいんだ。あと また 退院しても すぐ また

オツテ スーグ オツケデ ニューインスンデ マダ コマンダドワ。
追って すぐ 追いかけて 入院するので[は] また 困るんだって。

006B : ンダガヤー。ホンデモ オレガラスット ホラ ナンデ イグナッタヨーナンダ。
そうか? それでも 私からすると ほら 何だか よくなったようなんだ。

オレ イシャニ ナツタンダワ、キョーカラ。{笑}
私 医者になつたんだ、きょうから。{笑}

007A : ンデモサ、ンデモ、 トモカグ エーガラ アシェンナ、マズ、イーガラ。
でもさ、それでも、ともかく いいから 焦るな、 まず、いいから。

(B ンー) ンー。(B ハイ) アシェツテバリ ダメナンダー。
(B うん) うん。(B はい) 焦ってばかり [いるのが] だめなんだ。

008B : ワガリシター。ドーモドーモ、アリガトゴザリシター。
分かりました。どうもどうも、ありがとうございます。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : ナジョダ、チョーシ。(B ンダネアー) イーガ、ワレガヤ。
どうだ、調子。(B そうだね) いいか、悪いかよ。

利府町 場面設定会話

002B : ンダネヤー。イーッテイエバ イードゴダダゲントモサー、
そうだね。 いいといえば いいところなんだけれどもさ、
ナンダガ ホントデネーンダナヤーー。
なんだか 本調子でないんだよな。

003A : ンダガ、カオイロ マー~~マー~~ンダダゲントモナー (B ン) ヤッパリナー。
そうか、顔色[は] まあまあなんだけれどもな (B うん) やっぱりな。

マ ンデー モスコス カガッピョン コレアナー。
まあ それでは もう少し かかるだろう これはな。

004B : ンダナー、ミンナラド イッション ナッテナー ドコサガ ウーン
そうだね、 みんなと 一緒に なって どこかに うーん

アソブサデモ イク° ヨーダラ イー~~ン~~ダダゲントモナヤ。
遊びにでも 行くようなら いいんだけれどもな。

005A : マー イグナッガラ、トヌカグ イグナッカラ スンペースネデ、マー
まあ よくなるから、とにかく よくなるから 心配しないで、まあ

チーアシェンネデ トモカグ ジックリサー マズ イシャサ カガッテ
気持ち焦らないで ともかく じっくりさ まず 医者に かかって

ニューインシテ ナオサネド ナオ ワガンネ、ホンナゴッテナエ。
入院して 治さないと ×× だめだ、そういうことではね。

006B : ンダネー。 コンナモノガナー、ビョーギニナルツツーノワネア。
そうだね。 こんなものかな、病気になるというのはね。

ナサゲネーモンダステヤー。
情けないものだからしてね。

007A : ンダダゲントモ シャーネンダ コイズナヤ。(B ン)
そうだけれども しょうがないんだ これは。(B うん)

利府町 場面設定会話

ダレモ グアイワレグ ナッテナレ、(B シー) グアイワレグ ナッテクテ
だれも 具合悪く なってね、(B うん) 具合悪く なりたくて

ナルシト イネンダガラ、マズ シャーネーッタズー。 [13]
なる人 いないんだから、まず 知らなかったよ。

008B : ミンナラサ メーワグカゲル マズ。
みんなに 迷惑かける 本当に。

009A : マー キニスネデサー、(B シー) アマリ チモムナ、 マズ イーガラ。
まあ 気にしないでさ、(B うん) あまり 気[を]もむな、まず いいから。

(B ハイ) シー。 ジックリ マズ。
(B はい) うん。 じっくり まず。

010B : アリガドゴザリス。
ありがとうございます。

011A : ウン。
うん。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : ナーニ Aチャーシ ネットタンダッテガー。
何 Aちゃん 寝ているんだって?

002A : ンダー、チョットナレ カゼッコ シーデサー。(B シー ンデ)
そうだ、ちょっとね 風邪 ひいてさ。(B うん それでは)

マー タイシタゴドネード オモッタダゲントモ (B ウン) マズ
まあ たいしたことないと 思ったんだけども (B うん) まず

ネデロズーガラサー、スコシ {舌打ち} ヤスンダホーガ イーノガナード
寝てろというからさ、少し {舌打ち} 休んだほうが いいのかなと

オモッテ イマ ネッダンダー。

思って 今 寝ているんだ。

003B : ネッダホー イーッテ、ズヌスネデ ハイッタガラ、カダズゲナンカ
寝ているほう[が] いいって、気にしないで 入ったから、片付けなんか

オレ シテケッガラ、アンスンシテ ネデロー、イーガラ。(A ンー)

私が してやるから、安心して 寝ている、いいから。(A うん)

ナヌ メ メデワリードゴワ ミネガラヤー、メデイードゴバリ ミデ
何 × 見てだめなところは 見ないから、見ていいところだけ 見て

カダズゲデケッカラ。

片付けてやるから。

004A : アー デモ ワルイナー、ンダゲットモサー。マー ホレ ホラ ヌサンヌズ
あー でも 悪いなー、そうだけれどもさ。まあ ほら ほら 2、3日

スット イーグナッペガラ (B ウン) ホレガラデモ イーンダー
すると よくなるだろうから (B うん) それからでも いいんだ

カダズゲンノモ。ナニ イマ スグヌ カダズゲネタッテ ドーツツーゴド
片づけるのも。何 今 すぐに 片付けなくたって どうということ

ネーндаガラサー。

ないんだからさ。

005B : イーガラ チーモマネデ ネデロテバサー。オレ シテケルツーンダガラ。
いいから 気[を]もまないで 寝てろってばさ。私[が] してやるというんだから。

イー、(A オー) アイ、タノミスーッテ イワセワ。

××、(A おー) はい、頼みますって 言いなさいよ。

006A : ンダガヤ。 アー ワルイナヤー ンダゲットモナー。

そうですか。あー 悪いねー そうだけれどもな。

ンデ、 シトツマズサー オネガイスツサヤー。

それで、ひとつまずさ 願ひするさ。

007B : ンー。ハイ イーガッサー。ホラ ンデ ユックリ ネデサイン。
うん。はい いいですよ。 ほら それでは ゆっくり 寝てなさい。

008A : アー アリガドデサー。 (B ハイ) ドーモアリガトネヤ。
あー ありがとうございます。(B はい) どうもありがとうね。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違って捨てようとしているときに、Aがそれを
制止してどのようにいうか。

(13-1) 話し合っ捨てないほうがいいという場合。

001B : ヤーヤ Aチャンヤーー イッペー シャシン アンダゲントモナヤーー、
あら Aちゃん いっぱい 写真 あるんだけど、

コイナノモ アイナノモ アー ンー イーゴダナー。

こういうのも ああいうのも あー うん いいことね。

コイナジダイモ アッタノガヤー。 [14]

こんな時代も あったのか。

002A : ナヌ、ホノ シャシンダッテサー ズイブン アンダゲットモ
何、 その 写真だつてさ 随分 あるんだけど

マー イラネノモ アンダゲットモ、 ンデモ ナガニサー ナガナガ ホレ
まー 要らないのも あるんだけど、でも 中にさ なかなか ほら

オモイデニ ノゴル シャスンモ アルモンダガラ、 {息を吸う音} マズ スコシ
思い出に 残る 写真も あるのだから、 {息を吸う音} まず 少し

ナ アドデ セーリスツカド オモッテワ イダツタンダー。(B ンー)

× 後で 整理しようかと 思つては いたんだ。(B んー)

利府町 場面設定会話

オレ マズ イグナッタラバ (B うん) マズ セーリシテ アドー マ
私 まず よくなったら (B うん) まず 整理して あと まあ

ショリデモスッペド オモッテワ イダッタダゲットモ、ナガナガ コレ
処理でもしようと 思っては いたんだけど、 なかなか これ

ミナ ナゲルワゲニモ イガネンダーツ。
全部 捨てるわけにも いかないんだという。

003B : ンダナー ンデ テー ツケネドワ コイズワニヤー、(A ンー)
そうだね それでは 手 つかないよ これはね、 (A うん)

Aチャン。
Aちゃん。

004A : ンダガラ (B ウン) ソイズダゲ (B ウン) ソイズダゲ (B ウン) ホレア
だから (B うん) それだけ (B うん) それだけ (B うん) ほら

ソノヘンノ スマッコサデモ オイデデケネ。
その辺の 隅っこにでも 置いておいてくれない？

005B : ハイ、ワガッタ。ンデー コンド イーグナツテガラ (A ウン)
はい、分かった。それでは 今度 よくなってから (A うん)

アンタ シロワ。 コイズワ テー ツケネガラワナー。
あなた しなさいね。これは 手 つかないからね。

006A : ンー ンダネ。 ソーシテモラウド ウント イーンダ、オレモ。
うん そうだね。そうしてもらおうと うんと いいんだ、私も。

(13-2) Aの孫が写真を捨てそうになったのを慌てて制止する場合。

001A : アー マッテロ マズ ホイズ、ナーニ ホイズ ダ ダ ワガンネ。
あー 待ってろ まず それ、何 それ × × だめだ。

利府町 場面設定会話

ナニ ダイジナモンダガラ ホイズ ダメダ ナゲデー。
何 大事なものだから それ だめだ 捨てて[は]。

ダイジヌスッタモンダガラヤー。
大事にしているものだからよ。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 コリャコリャナー

「これはこれは」 > 「コリャコリャ」と考えられるが、「コリャコリャ」に実質的な意味はなく、間投詞的な表現となっている。

〔2〕 タバゴニデモ

「タバコ」で「おやつ」の意。

〔3〕 マズ

利府町において「マズ」は、共通語の「まず」とは異なり、「まあ」「本当に」などの間投詞のように用いられている。ここでは「まあ」「本当に」などとも訳せないため、「まず」のままにしてある。

〔4〕 スコッタゲントモ

「スコットダ」の「トダ」が縮まって「タ」に聞こえる。

〔5〕 ルーグナ

「ローグナ」とも聞こえ、「ル」と「ロ」の間のような発音がされている。

〔6〕 ツグドギ

「ツグ」は「ツカウ（使う）」の連母音 [au] が融合して [u:] となり、それが [u] と短くなったものと考えられる。

〔7〕 クサレ

「腐れ」であるが、実際にさびたり腐ったりしているわけではなく、自分の物を謙遜して言っている表現。

〔8〕 オモッテイダッタンダガスー

「イダッタンダ」は言いさしで、「ガスー」を後づけしたような言い方になっている。恐らく「イダッタンデガス」（いたんです）と言おうとしたものと思われる。

〔9〕 なし

相手に不満を述べることはないとのこと。

[10] 温泉に誘う

既婚の男女が知り合いの異性を旅行などに誘うことはないとのことだったため、ここでは夫婦の会話ということで演技している。

[11] イソガスイミシテ

「忙しい身をして」という表現で、話者によると「忙しい思いばかりして」という意味とのこと。

[12] イシャサ

「医者に」に当たるが、「ユートーリニ（言うとおりに）」につながらない。話者によると、「医者さん」の縮まった形ではないとのことなので、言い間違いと思われる。

[13] シャーネーッタズー

「シャーネー」は、文脈からは「しようがない」と思われるが、話者によると、「知らない」であるとのこと。

「ズー」は共通語の終助詞「よ」に近い意味。「という」が語源と考えられる。

[14] アッタノガヤー。

演技で相手にターンを渡す意識が強く出たため、イントネーションが不自然になっている。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）
柴田 充（東北大学文学部 3年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

【 宮城県宮城郡利府町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な利府町方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

⇨これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/t/が有声子音/g/d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

⇨単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。

例) ガ行：上げる → アケ°ル
ダ行：肌 → ハンダ
ザ行：風 → カンゼ

バ行：首 → クンビ

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス

知事（ちじ）、地図（ちず）、辻（つじ） → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます（後述）。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん（じいさん）、十三（じゅうさん） → 両方ともズーサン

手術（しゅじゅつ） → スズズツ

注射（ちゅうしゃ） → ツーシャ

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械（きかい） → チカイ

救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ

今日 (きょう) → チョー

▼その他、以下のような特徴もあります。

- ・母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

- ・アイ・アエという母音の連続 (連母音) は融合して[ɛ:] (共通語のイー[e:]よりも口を開いて発音する) と発音される。

- ・ヒの音がシに近い音となる。

¶ アクセント

利府町は、アクセントの型を持つ有型アクセント地域である。

☞例えば「鼻」と「花」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています (=型がある)、それによって単語の区別がつけます。

ただし、この地域は無型アクセント地域と有型アクセント地域の境界地域であり、型の区別はあるがその区別があいまいな語があります。例えば、昭和 37 年の旧利府村での調査 (佐藤 1963) では、「鼻」と「花」、「釜」と「鎌」は区別がありますが、「飴」と「雨」や「川」と「皮」、「橋」と「箸」ではアクセントの区別がなされていませんでした。このようなあいまいなアクセントを持つ地域のことを、一般にあいまいアクセント地域と呼びます。

¶ 文 法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。また「を」格相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもある。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用い

られず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

俺ドゴ連れて行ってくれ (俺を連れて行ってくれ)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります (ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) 東京サ行く

おれサ貸せ

見サ行く

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量) や「～しよう」(意志) に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)

<推量>

明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)

<意志>

お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)

<確認>

みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)

<勧誘>

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1：ニショッコ（二燭光）って5ワットぐらいか。

B1：60ワットぐらいだッチャ。（60ワットぐらいでしょ。）

A2：え、そんなに光らないッチャ。（え、そんなに光らないでしょ。）

★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件（共通語の「けれども」）は県北部で「ケンドモ」、県南部で「гентモ」

が用いられやすい。順接既定条件（共通語の「から」）は「カラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

例) 取りス (取ります)

んデガス (そうです)

おはよゴザリス (おはようございます)

お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

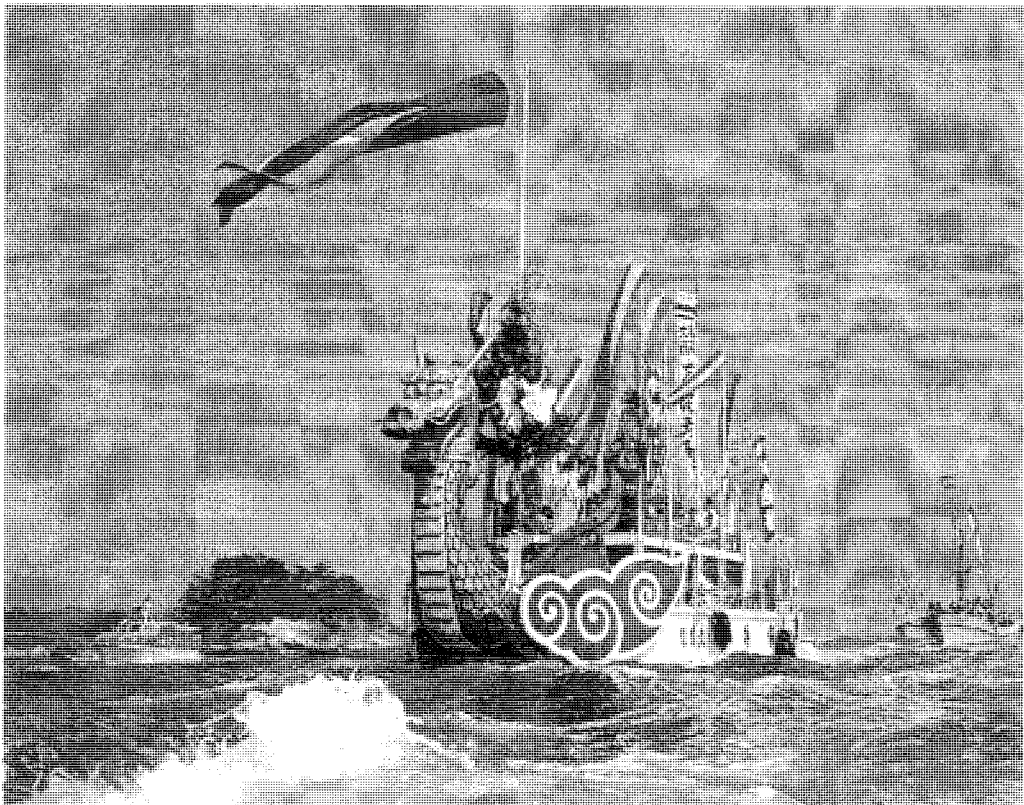
佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

佐藤亮一 (1963) 「宮城県における多型アクセントの南限—主として二音節名詞について—」(『文芸研究』45 所収) 井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎 (1994) 『日本列島方言叢書③ 東北方言考② 岩手県・宮城県・福島県』ゆまに書房

竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救う—3.11 被災地からの提言—』ひつじ書房

しお がま し
塩 竈 市



塩竈みなと祭
(写真提供：宮城県観光課)



宮城県塩竈市概要

①塩竈市の概観

塩竈市は、宮城県の中央部、仙台市と松島町の間位置する。古くから奥州一の宮である塩竈神社の門前町として栄え、江戸時代には、伊達藩の保護政策によって、仙台への水揚げ港として繁栄した。明治以降は港湾都市として、近年は近海・遠洋漁業の基地としても発展している。なお、松島湾最大の島、寒風沢島（さぶさわじま）とその周辺の桂島、野々島などの浦戸諸島も塩竈市に属する。

塩竈市の基幹産業は水産業である。塩竈漁港は、マグロ水揚げが全国一を誇っている。水産加工業も盛んで、笹かまぼこをはじめとした水産練り製品など、日本一の生産量を誇るものが数多くある。また、塩竈は松島観光の海の玄関口としての一面も備えている。

②収録地点について

収録地点である塩竈市宮町は市の中央部、塩竈神社の門前に位置している。

③東日本大震災による塩竈市の被害

3月11日、塩竈市は震度6強の強震に見舞われた。このため港湾施設の敷地内で地割れが生じた。また、その直後の津波は、松島湾内の塩釜港と浦戸諸島で最も猛威を振るった。塩釜港の中心部にある本塩釜駅や、北側の魚市場、南側の埠頭やマリゲートなどを襲った巨大津波は、それらの機能を完全にマヒさせた。ただ、津波は、塩竈神社までは届かなかった。

表1 塩竈市の人的・住宅被害

塩竈市人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
56,490人	33人	1人	0.06%	758棟	3,722棟

表2 塩竈市の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	18,718人	33.1%
世帯	6,973世帯	34.2%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.175～180に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
塩竈市ホームページ（<http://www.city.shiogama.miyagi.jp/>）（2013/02/23アクセス）

被災地方言会話集

— 宮城県塩竈市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県塩竈市

収録日時 2013（平成25）年2月1日

収録場所 宮城県塩竈市宮町（話者B宅）

話題 【方言のこと】

話者

A	男	1949（昭和24）年	（収録時63歳）	[Bの隣人]
B	女	1957（昭和32）年	（収録時55歳）	[Aの隣人]
C	男	1979（昭和54）年	（収録時33歳）	[調査者]

話者出身地

A	塩竈市宮町（ミヤマチ）
B	塩竈市宮町（ミヤマチ）

【方言のこと（前半）】

話し手 [1]

A 男 1949 (昭和 24) 年 (収録時 63 歳)
B 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 55 歳)
C 男 1979 (昭和 54) 年 (収録時 33 歳) [調査者]

001A : ズンケネー、ズンケネーワ ツカウガヤー。
ずんけねえ、ずんけねえは 使うかなあ。

002B : ズンケネーワ ワカンナイナー。
ずんけねえは 分らないなあ。

003A : ズンケネエーワ アンマリ ツカワネーヨナー。(C アー)
ずんけねえは あまり 使わないよなあ。(C ああ)

ヤバツイモ ツカワネーナー。
やばついても 使わないなあ。

004B : ケンノタガリッテ ナニ。
けんのんたがりって 何。

005A : ケンノタガリワヨ (B ケンノン) オライノ ズンツァンダジ ヨグ
けんのんたがりはよ (B けんのん) 俺の家の 爺ちゃん達 [が] よく

ツカッテタケドー。 ナンダツケナ、 ケンノタガリッテネー。
使っていたけど。 何だツケナ、 けんのんたがりってねえ。

006B : ケンノタガリッテ ナニ。
けんのんたがりって 何。

007A : アノー、 アレ。 シンケーシツ。(C ボー) (B アー)
あの一、 あれ。 神経質。(C ほお) (B あー)

シンケーシツミタイナヤツ ケンノンタガリツツーンダヨナ。
神経質みたいなやつ[を] けんのんたがりっていうんだよな。

(C ホー シンケーシツ)

(C ほー 神経質)

008B : チョストカッテ ユーノワー
ちよすとかって 言うのは

009A : チョスワ チョスワ イマデモ ツカウケド オレ。
ちよすは ちよすは 今でも 使うけど 俺。

010B : バーチャンダジカー オージイチャン オバーチャンタチガ
ばあちゃん達が おじいちゃん おばあちゃん達が

ソコ チョスナーッテ イウッチャ ヨグ。 チョスナーッテ。
そこ ちよすなーって 言うよね よく。 ちよすなーって。

デ コドモダチガ チョスッテ ンッテユー カオスルデショー。 {笑}
で 子供たちが ちよすって んっていう 顔[を]するでしょう。 {笑}

011A : ナンガ イマノ コドモダジワ ワカンナイナ。 チョスワ。
なんか 今の 子供達は 分からないな。 ちよすは。

012B : チョス。 サワルッテ ユー ネ。 {咳} オドゲデネーワ
ちよす。 触るって いう ね。 {咳} おどげでねえは

013A : コレ コレ ゼンブ イミ ワカッテンノスカ。 コノ コノコトバ。
これ これ 全部 意味 分かっているんですか。 この この言葉。

014C : イヤ ワカラナイモノデス。 {笑}
いや 分からないものです。 {笑}

015A : ホトンド ワカンネーノ。 アー アンネ
ほとんど 分からないの。 あー あのね

016C : ジツワ アノー

実は あのー

017A : イチバン サイショノ (C ハイ) チョスワ サワ サワル。 (C ハーハー)
一番 最初の (C はい) ちよすは ×× 触る。 (C はーはー)

アトワ ナンダ アレ。

後は 何だ あれ。

018B : タマケ° ダワ ドコデモ コイツ タマ アンマリ デモ コノヘン
たまげたは どこでも こいつ ×× あんまり でも この辺

シオカ° マデ タマゲダッテワ イワナイヨネ。

塩釜で たまげたとは 言わないよね。

019A : ウン。 タマケ° ダーニ タイシテ オドゲデネートカッテ ユーケド。
うん。 たまげたに 対して おどげでねえとかって 言うけど。

(B オドゲデネー) (C ハー) オドゲデネー。 (C オドゲデネー)

(B おどげでねえ) (C はー) おどげでねえ。 (C おどげでねえ)

(B オドゲデネー) (C アッ) ウン。

(B おどげでねえ) (C あっ) うん。

020B : ココ アルネ。

ここ[に] あるね。

021A : アダ アッタツケカ。

×× あったっけか。

022B : アルアル。 オドケ° デネーツテ。 アトワ ヨク アンノワネ

あるある。 おどげでねえーって。 後は よく あるのはね

ヤンダクナッコダッテ。 {笑} (A ウーン) ヤンダクナッコダッテユーノワ

やんだくなっこだって。 {笑} (A うーん) やんだくなっこだっていうのは

(C アーアー)

(C あーあー)

023 A : ズンケネー ズンケネーワ シオカ° マデワ アンマリ
ずんけねえ ずんけねえは 塩釜では あまり

ツカワネー。(B ズン) ズンケネーッテユー コトバワ アッケッドモ。
使わない。(B ずん) ずんけねえっていう 言葉は あるけれども。

ホカノ

他の

024 B : ズンケネ。

ずんけね?

025 A : ウン。ホカノ チーキノヨーナ (B ズンケネッテ ナニ) キガスンナー。
うん。他の 地域のような (B ずんけねえって 何) 気がするなあ。

026 C : ハーハーハー。ズンケネワ ツカワナイノカ。
はーはーはー。ずんけねえは 使わないのか。

027 A : {息を吸う音} ヤーバツイ。ヤバツイ、オドケ° デネー、ジャス。
{息を吸う音} やーばつい。やばつい、おどげでねえ、ジャス?

(C アッ ハイ) ジャスワ コリヤー ヒョージュンゴデネーノスカ。

(C あっ はい) ジャスは これは 標準語で [は] ないのですか。

{笑}

{笑}

028 B : ジャスネ。(C イヤ) ジャスッテノワ ジャーヅノコト。
じゃすね。(C いや) じゃすっていうのは ジャーヅのこと。

029 A : ジャ ジャーヅノコト。
×× ジャーヅのこと。

塩竈市 自由会話

030B : ジャスワ ミンナ ジャスツテ ユーヨネ。(A ウーン) アッ チガウノ。
ジャスは 皆 ジャスって 言うよね?(A うーん) あっ 違うの。

(C アッ)

(C あっ)

031A : イマ ジャス ツージネーヨ。 コドモダジ。(C ウン, アッ)
今 ジャス[は] 通じないよ。 子供達[に]。(C うん あっ)

032B : フク° ダビッキッテ ナニ。 フ フクダ フグ (A フク° ダビッキ)
ふぐだびっきって 何。 × ××× ×× (A ふぐだびっき)

エー (C アッ) ワカンネーヤネー。(A ワカラネー)

えー (C あー) 分からないよねー。(A 分からない)

033C : アノー ソレワ ビッキワ (A フク° ダビッキ) ドーデスカ。
あの一 それは ビッキは (A フグダビッキ) どうですか。

034A : ビッキワ ワカルケド。(B ビッキモ ワカンナイ) カエル。
ビッキは 分かるけど。(B ビッキも 分からない) 蛙。

035B : ビッキ。 ビッキワ ワカル。 カエル。
ビッキ? ビッキは 分かる。 蛙。

036A : ウーン。 フク° ダ フグダッテ (C アノー) ナンダロー。
うーん。 ふぐだ ふぐだって (C あの一) なんだろー。

037C : ドーモ ガマカ° エル
どうも がまがえる

038A : ガマカ° エルノコト。
がまがえるのこと?

039C : ハイ。(B へー) (A フーン) ソーイッテタリ スルコトガ アッタ
はい。(B へー) (A ふーん) そう言っていたり することが あった

ミタイデ。(B フグダビッキ) アノ タダ チョット アノ コレ
みたいで。(B ふぐだびっき) あの ただ ちょっと あの これ

ホカノ (A ウン ダネ) ンツリーケ アノ トコロモ ハイッテイルノデ
他の (A うん だね) ××××× あの 所も 入っているので

(A ウン) アノー {咳払い} モシ ヨケレバ アノー エー
(A うん) あのー {咳払い} もし 良ければ あのー えー

コンナフーニ ツカウツテユー コー ジツレーモ (A ウン) イッショニ
こんな風に 使うっていう こう 実例も (A うん) 一緒に

アノー (A ウン) ア オシエテ イタダケルト (A ナルホド) ハイ。
あのー (A うん) × 教えて 頂けると (A なるほど) はい。

040A : チョス チョスア ンデ イースペ。 (C ハイ) ココ チョスナードガ。
ちよす ちよすは それで いいでしょう? (C ハイ) ここ ちよすなーとか。

(C ハイ) チョスゴダンカツヨーッテ アンダケド。 (C エッ) {笑}
(C はい) ちよす五段活用って[いうものが]あるんだけど。(C えっ) {笑}

041C : ソレ (B ヤッカラ) アッ ゼヒゼヒ。(B ハイ ユッテ)
それ (B やるから) あっ ゼひぜひ。(B はい 言ッテ)

042A : チョス チョセバ チョスドキ チョシタラ {笑} ッテナツテクンダッチャ。
ちよす ちよせば ちよすとき ちよしたら {笑} ってなっていくんだよね。

043C : アー ナルホド。 {笑} (B ヨグ ワカル)
あー なるほど。 {笑} (B よく わかる)

044A : ゼンブ ゴダンカツヨーニ ナルヨ。(C ナルホド) ドーシダオン、 ダッテ。
全部 五段活用に なるよ。(C なるほど) 動詞だもん、 だッテ。

(C ハイ)

(C はい)

045 B : タマケ° ダワ (A タマケ° ダ) フツニ タマケ° ダッテ
たまげたは (A たまげた) 普通に たまげたって

(A ビックリシタ) ユーネ。 (A ウン) ズンケネーッテ

(A びっくりした) 言うね。 (A うん) ずんけねえって

(A タマケ°) ワカンナイナー。

(A ×××) 分からないなあ。

046 A : ズンケネーワネー、 ツカウシト スクネーナ ズンケネーワ。
ずんけねえはねえ、 使う人 [が] 少ないな ずんけねえは。

047 B : コノヘン ナイナー。

この辺 [には] 無いね。

048 A : ウン。 ヤバツイ (C アー) ヤバツイ ヤバツイ ヤバツイ
うん。 やばつい (C あー) やばつい やばつい やばつい

(B ヤバツイモ ツカワナイヨネー) ヤバツイ (C ウーン)

(B やばついても 使わないよね) やばつい (C うーん)

ムカシ ツカッテタキガスル。

昔 使っていた気がする。

049 C : アッ ドンナ ドンナ フーニ

あっ どんな どんな 風に

050 A : ヤバツイ、 サワット マズイドガ (B アー) サワッタラ ヤバイドガ
やばつい、 触ると まずいとか (B あー) 触ったら やばいとか

ヤバイ ムカ イマデユート ヤバイデネーガナ。 (C ハー) ト キタ

やばい ×× 今で言うと やばいで [は] ないかな。 (C はー) と ××

(C アッ) キタナイイミノ ヤバイ。 (C ホー) ケンノンタガリ。

(C あっ) 汚い意味の やばい。 (C ほー) けんのんたがり。

塩竈市 自由会話

051B : ケンノタガリワ ワカンナイ。

けんのんたがりは 分からない。

052A : ウーン。 ケンノタガリワ アノー、 ゴハンサ ゴハンサ ネコ° ノケ
うーん。 けんのんたがりは あの一、 ご飯に ご飯に 猫の毛[が]

ハイッテー クーノ ヤンダコダヤーズー ナーニ
入って 食べるの 嫌なことだなーっていう [のを] 何

コノケンノタガリッ コノー ツツテルケドナー。 (C オー)
このけんのんたがりっ この一 って言っているけどな。 (C お一)

053B : シンキタガリ。(A ウン) シンキタガリツツーノ。

しんきたがり。(A うん) しんきたがりって言うの。

(A ウン) (C エッ) シンキタガリッテ ユーノ。(C エー)
(A うん) (C えっ) しんきたがりって 言うの。(C え一)

054A : コノアダリ (B シン) ンダネ一 (B シン) シンキタガリダヨネ。

この辺り (B ××) ××× (B ××) しんきたがりだよな。

055B : シンケーシツッテユーコト ナンデスヨ。(C ア一 ア一) (A ウン)

神経質っていうこと なんですよ。(C あ一 あ一) (A うん)

ス ス スンケタガリッテ ユーンダヨネ。コッチデ (A スン ウン)
× × すんけたがりって 言うんだよね。こっちで (A ×× うん)

スンケタガリ。

すんけたがり。

056A : スンケタガリノホーカ° イーヤー。(C スンケタガリ) ケンノタガリワ

すんけたがりの方が 良いや。(C すんけたがり) けんのんたがりは

(B スンケタガリダゴダーッテ) アンマリ、 シャベルシト アンマリ
(B すんけたがりなことだっ) あまり、 喋る人[が] あまり

塩竈市 自由会話

イネーナ。(B ウン) (C アー) オドケ° デネー。
いないな。(B うん) (C あー) おどげでねえ。

057B : オドゲデネーワー (C オー ナルほど)
おどげでねえは (C おー なるほど)

058A : オドゲデネーゴダー。(C アー)
おどげでねえことだ。(C あー)

059B : オドゲデネーゴダッテ、 アト ナンテ セツメーシタラ インダロナー、
おどげでねえことだって、 後 なんて 説明したら 良いんだろうな、

オドゲデネー。
おどげでねえ。

060A : コーユー (C ハイ) コノヘンノ ホーゲンッテ コー ヒョージュンゴデ
こういう (C はい) この辺の 方言って こう 標準語で

ヒョー アノー シャベンノガ ンット ムズカシイノネ。(C アー)
××× あの一 喋るのが とても 難しいのね。(C あー)

(B オドゲデネー) イロンナ イロンナ イミガ カサナッテ
(B おどげでねえ) 色んな 色んな 意味が 重なって

(B イヤ、 コー) コノヒドゴドニ ナッテッカラ。
(B いや、 こう) この一言に なっているから。

061B : イロンナモノガ アッテ、 タイヘンダワーッテユー イミガナ (A ウン)
色んなものが あって、 大変だわっていう 意味かな (A うん)

ナンカ オドゲデネーッテ (A ウン) (C アー タイ) コウ
なんか おどげでねえって (A うん) (C あー ××) こう

イロンナ ナンカ ショリスルモノトカノー アレントキニー、 タイヘンダワー
色んな なんか 処理するものとかの あれの時に、 たいへんだわー

塩竈市 自由会話

コンナコトスノー オドゲデネーッテ。(C ハッ) ダカラ (C ア一)
こんなこと[を]するの おどげでねえって。(C はっ) だから (C あ一)

ジシンデ キタドギニー カダズゲルトキニ ミタダケデ ウワー
地震で 来た時に 片づけるときに 見ただけで うわー

オドケ デネーッテ。
おどげでねえって。

062 A : ウワー オドゲデネーナ コノ ゴミーッテ。(C ア一)
うわー おどげでねーな この ごみーって。(C あ一)

063 B : ドーショーッテユーフーニ (C ナルホド) カネッテノ デスカネ。
どうしようっていう風に (C なるほど) _____ ですかね。

(C ハー ドーショー) シャチョー。
(C はー どうしよう) 社長。

064 A : ソーダネ。{笑} (B ジャスワー) ナンーデモ ナンデモ
そうだね。{笑} (B ジャスは) 何でも 何でも

オドゲデネーワ ツカウヨー。ホーイウ ヨー (B モー ウン)
おどげでねえは 使うよ。 そういう こう (B もう うん)

(C ハイハイ) オーキーサマオ。
(C はいはい) 大きいさまを。

065 B : ソーソー。 ウワー オッキーッツッテ ウワー オドケデネーッテ ユー。
そうそう。 うわー 大きいって言って うわー おどげでねえって 言う。

(A ウン) (C アッ) オーキーッテユー イミモ アルンダ。
(A うん) (C あっ) 大きいっていう 意味も あるんだ。

(C エー) イッパイ アルネ。
(C えー) 一杯 あるね。

066A : アド アルイデ イグノガ アツツマデ オドツケ オドゲネネーナヤー
後 歩いて 行くのが あっちまで ×××× おどげでねえなあ

ツテユーシ。 (C アツ エツ ソノー)

って言うし。 (C あっ えっ その一)

067B : タイヘンダー。 (C ア一)

大変だあ。 (C あ一)

068A : アッチマデ アルイテクノ タイヘンダツチュー (C エ一)

あっちまで 歩いて行くの[が] 大変だっていう (C え一)

(B ウン ソーダヨ) ダカラ イロンナドゴサ ツカウ ヒョーゲンダヨ。

(B うん そうだよ) だから 色んなところに 使う 表現だよ。

(C ウワ ヒロイ へ一)

(C うわ 広い へ一)

069B : ジュップン アルクノ ウワー オドゲデネーゴダー (A ウーン)

10分 歩くの うわー おどげでねえことだ (A うーん)

(C へ一) ツテユー コトデスカネ。 (A ンダ) (C ウン)

(C へ一) っていう ことですかね。 (A んだ) (C うん)

070A : ジャスワ イースペヨ。 ジャージノコトデ ワカル。

ジャスは いいでしょうね。 ジャージのことで わかる。

071B : ジャスツテ (C ハイ) フツ一ニ ジャスツテ イワン。 [2] フツ一ノ

ジャスって (C はい) 普通に ジャスって 言わない? 普通の

072A : コノヘンダケナンダト。 ジャスツツ一ノワ。 {笑}

この辺だけなんだって。 ジャスって言うのは。 {笑}

073B : ア ソーナンデスカ。

あ そうなんですか。

074C : フツーワー アノー (B ジャス) コレーワー アノー チーキテキナ
普通は あのー (B ジャス) これは あのー 地域的な

モノナンデス。(B アー ソーナンダ)
ものなんです。(B あー そうなんだ)

075A : コレ ミヤギケン (C ア、ヨクゴゾンジデ) ゼンパンクネ。
これ [は] 宮城県 (C あ、よく御存じで) 全般区ね?

(C ハイ) ジャスワ。(C ソーナンデス) ネ。
(C はい) ジャスは。(C そうなんです) ね。

076B : ミンナ イーマスヨネ、{咳払い} ジャスツテ。(A ウン)
皆 言いますよね、{咳払い} ジャスって。(A うん)

フク° ダビッキワ ワカンナイ。(C ハイ)
ふぐだびっきは 分からない。(C はい)

077A : フク° ダビッキ (B サッキ イッタネ) キャツカネ。
ふぐだびっき (B さっき 言ったね) 却下ね。

【方言のこと (後半)】

001B : タゴ タコ° マル (A タゴマル) ワネー
×× たごまる (A たごまる) はねー

002A : モウフ タコ° マル。
毛布 [が] たごまる。

003B : アノ カラムツテ、ユーイミデ アトヒモカラ、タコ° マツチャツ、
あの 絡むって、言う意味で あと紐から、××××××××、

タコ° マツテシマウツテ (C アーハーハーハー) (B ウーン) アノ コッ
たごまってしまいうって (C あーはーはーはー) (B うーん) あの こう

カラムツテ (B うん) ユーイミニ、ン、カナ。

絡むって (B うん) 言う意味に、ん、かな。

004A : カラム。 シワシワナル (B ウーン) ミンナ ホノヘンダネ。

絡む。 シワになる (B うーん) 皆 そのへんだね。

005B : タコ° マツテシマツターツテ クルクルン ナツテシマツター テユーカ

たごまってしまったーって くるくるに なってしまったー というか

(C ア一) グジャグジャン ナツテシマツタツテユーイミ。

(C あ一) ぐちゃぐちゃに なってしまったっていう意味。

006A : オダズワ オダズモツコド、(C ウン) (B オナジー) オナジー。(B デ)

おだずは おだずもつこと、(C うん) (B 同じー) 同じー。(B で)

フザケルコト。(C ウーン)

ふざけること。(C うーん)

007B : アト、(A オダズ) コッチーノ オダズデ オダズナヨツテ ユーノワ

あと、(A おだず) こっちの おだずで おだずなよって いうのは

フザゲンナヨツテ ユーイミデス イヤ。{笑} (C ア ハイ)

ふざけんよって いう意味です いや。{笑} (C あ はい)

(A ケンカスツギネ) オダズナヨ。(C オダズナヨ) {笑}

(A 喧嘩するときね) おだずなよ。(C おだずなよ) {笑}

008A : ダー ケンカスルヒト コノコトバ デデクツカラ。 {笑}

だから 喧嘩する人 [は] この言葉 [が] 出てくるから。 {笑}

オダズナヨ オメーツテ ナツカラ。(B ソーダヨネ) {笑}

おだずなよ お前って なるから。(B そうだよ) {笑}

ホイズモ ゴダンカツヨー ナンダ オダツデルモ アルシ。 {笑}

そいつも 五段活用 なるんだ おだってるも あるし。 {笑}

(C ホー) {笑}

(C ほう) {笑}

009B : アイツ オダッテル、 フザゲデル。 オダズナヨッテ ユー コトバガ
あいつ おだってる、 ふざけてる。 おだずなよって いう 言葉が

デルドギッター、 オダズナヨッテ ユートキワ イガイト オゴッテルヨーナ
出るときって、 おだずなよって 言うときは 意外と 怒っているような

トキニ デマスネ。 オダズナヨッテ コー、 フザゲデモアッケドネ。
時に 出ますね。 おだずなよって こう、 ふざけてもあるけどね。

(A ウーン) ホデ ホデナス。

(A うーん) ほで ほでなす。

010A : {笑} ホデナスホド、 セツメイ、 (B セツメイ ンダ)
{笑} ほでなすほど、 説明、 (B 説明 そうだね)

シズライナー。 {笑} (B ダカラ) {笑}

しづらいなー。 {笑} (B だよね) {笑}

011B : ホデ、 ホデナス。
ほで、 ほでなす。

012A : ホデナス。 ホデナスダロ、 ホレーツテ ユー。
ほでなす。 ほでなすだろ、 ほらーって いう。

013B : カッコ キンシネッテ ユーイミガナ。
格好 [を] 気にしないって いう意味かな。

014A : カッコダ (B ナンダロ) カッコダケデモ ネーндаヨナー。 (C アー)
×××× (B 何だろう) 格好だけでも ないんだよなー。 (C あー)

キニシナイッテ ユー イミガ。 (B ウーン)
気にしないって いう 意味か。 (B うーん)

015B : ホイズ (A ウン) アノヒト、 (C ハイ) コ タトエバ、 コーナッテネー
そいつ (A うん) あの人、 (C はい) こう 例えば、 こうなってねー

ボタンガ コウユッタ カケチカ° イガ アッタドシテモ、 ゼンゼン
ボタンガ こういった 掛け違いが あつとしても、 ゼンゼン

キニナンナイ。 ホデナスダゴダッテ キズガネーッテコ。 {笑}
気にならない。 ほでなすだなあつて 気づかないということ。 {笑}

アングダ ホデナスダナーッテ。 (A ソーダ) (C アー)
あなた ほでなすだなーッテ。 (A そうだ) (C あー)

016C : ナン、 デシヨーネ。 ヒョー
何、 でしょうね。 ×××

017A : ズット ヒロイヨ、 ンダガラ。 ゴミ チラカシエデモ
ずっと 広いよ、 だから。 ごみ [を] 散らかしても

ホデナスダオンッテ ユーシ。 (C ホー)
ほでなすだものつて 言うし。 (C ほー)

018B : ヤリッパナシートカ (C アー) ソノイミモ アングダッチャネ。 (A ウーン)
やりっ放しーとか (C あー) その意味も あるんだよね。 (A うーん)

コッチデ ホデナスッテ ユート ウン イガイト ヤリッパナシトカー、
こっちで ほでなすつて いうと うん 意外と やりっ放しとかー、

ザツ。 (C ヤリッパナシ アー)
雑。 (C やりっ放し ああ)

019A : イイモノニワ (C アー) ツカワナイ。 (B ウーン) (C アー)
良い物には (C あー) 使わない。 (B うーん) (C あー)

020B : ウザニハグッテ ナンデスカネ。 Aサン。 (A ウザニハグ)
うざねはぐつて なんですかね。 Aさん。 (A うざにはぐ)

(C ナンデスカネ)

(C 何ですかね)

021A : ウザニデネーダヨネ、 コレ。 ウザネ。 (C アー) ウーン
うざにで [は] ないんだよね、 これ。 うざね。 (C アー) うーん

ニトネノアイダ、 ウザネハグ。
にとねの間、 うざねはぐ。

022B : アラ ナニソレ。 ワカンナイ ツッコ。
あら なにそれ。 分からない ×××

023A : ア ワガンネ。 (B ウン) ウーント アンネ ド、 センダイカラ コー
あ 分からない? (B うん) うーんと あのね ×、 仙台から こう

キョーキテタノ。 (C ソーデス。 ハイ) ア ホント。 {笑}
今日来たの。 (C そうです。 はい) あ 本当。 {笑}

ウザネハイデ {笑} (C エ、 ド) ウザネハイデ コナトコマデ。
うざねはいて {笑} (C え、 ×) うざねはいて こんなところまで。

(C ア、 ソーユーフーニ)

(C あ、 そういう風に)

024B : トーイトコロガラッテ ユーイミ。
遠いところからって いう意味?

025A : アノ、 トーイトコロガラデナイ。 ナンダロナ、 イッショ、 イッショー
あの、 遠いところからで [は] ない。なんだろうな、×××、 一生

ケンメーデ ナクテ、 ワザワザ (B アー) デモナイナー。 クローシテ、
懸命で [は] なくて、 わざわざ (B あー) でもないなー。 苦労して、

ガ チカイカナ。 (C アー。 アーナルホドー) コレワ (B ワザワザ)
が 近いかな。 (C あー。 あーなるほどー) これは (B わざわざ)

塩竈市 自由会話

ウザネッテ ユー タンボノ ゲダガ アンノッシャ。(C アー) タンボデ
うざねって いう 田んぼの 下駄が あるのさ。(C あー) 田んぼで

ハグ ゲダ、 シズマネーヨーニ。(C ハイ)
履く 下駄、 沈まないように。(C はい)

026C : アー ソレ アノー モー コー タゲタ、 デスカネ。
あー それ あのう もう こう 田下駄、 ですかね。

(A ソーソーソーソー) アー。

(A そうそうそうそう) あー。

027A : デ ソイツデ タンボンナガ ハ アルグノガー、 タイヘンナ ヨースオ
で そいつで 田んぼの中 × 歩くのがー、 大変な 様子を

ウザネハグッテ ユー。(C フーン)
うざねはぐって 言う。(C ふーん)

028B : アー ソーユーイミナノ。(A ウン) ワカンナイ。 ヒトムガシヤナ。 [3]
あー そういう意味なの。(A うん) 分からない。 一昔やな。

{笑} (C フーン) ホイード アッタ。 ホイド。 {笑}

{笑} (C ふーん) ほいーど あった。 ほいど。 {笑}

029A : ホイド。 {笑} ホイド、 ホイド。 {笑}
ほいど。 {笑} ほいど、 ほいど。 {笑}

030B : ホイド {笑} ワ ワ キータコト アリマセン。 コレ。(C ア、
ほいど {笑} は × 聞いたこと ありません? これ。(C あ、

イヤー ジ) ココラエンワ、 ホイド。 {笑} ッテ ユー。(C エ)
いやー ×) ここら辺は、 ほいど。 {笑} って 言う。(C え)

031A : シ シ シオ {笑} シオガマホイドドカネー。(B アノー) コジキ。
× × ×× {笑} 塩竈ほいどとかねー。(B あの一) 乞食。

(C アー) コジキッテ アノ フルイ コト デ キ デネーヨ。

(C あー) 乞食って あの 古い 事 で 記 で [は] ないよ。

032B : アノ コジキッテモ (C ハイ) ワカル。

あの 乞食って [いうもの] (C はい) 分かる?

033C : エットー アレデスヨネ。 モノオー ユーウ。

えっとー あれですよ。 物をー 乞う。

034A : フロー フロ フロー フローシャダヨ。

××× ×× ××× 浮浪者だよ。

035B : フローシャダッチャネ。(A ウン) (C アーハーハーハー) ソシテ、

浮浪者だよ。 (A うん) (C あーはーはーはー) そして、

ナンダロ、 イマ ホラ シゴトシテナイ ヒトデモー キレーナ カッコー
なんだろう、 今 ほら 仕事してない 人でも 綺麗な 格好 [を]

シテレバ ヨカッタ ムカシッテー シゴトシテネガッタリ ホントニ アレナ
してれば 良かった 昔って 仕事してなかったり 本当に あれな

ヒトッテ、 ボロボロノ キテー (C ハーハーハー) ナンカ ホントニ
人って、 ぼろぼろの 着て (C はーはーはー) なんか 本当に

ワカルヨーナ ヒトオ ホイド (A ホイド) アノ ホイドクッドッテ
分かるような 人を ほいど (A ホイド) あの ほいど [が] 来るぞって

ユーノワ ソユゴトユー アレダヨネ。(A ウン) (C ウーン)
いうのは そういうこと [を] 言う あれだよ。 (A うん) (C うーん)

ホイドッテ ユーノワ コジキサ、 ン、 ナンノガナー イマ
ほいどって いうのは 乞食さ、 うん、 [そう] なるのかな 今

コジキナンテ コトバ ツカワナイヨネー。

乞食なんて 言葉 使わないよ。ねー。

036 A : コジキモ ツカワネーベ。 (C ウーン) (B モノオ) ヨースルニ シゴトワ
乞食も 使わないだろう。 (C うーん) (B 物を) 要するに 仕事は

シテナインダヨネ。 ソイデネ キタネカッコシテ ヒトノ ウジサ イッテ
してないんだよね。 それでね 汚い格好して 人の 家に 行って

モノモラッテー クッター (C アー) (B ソーソーソーソー) ウジモ ナイ
物 [を] 貰ってー 食ったり (C あー) (B そうそうそうそう) 家も ない

シ シト。(C アー) ウーン、 デモ ウジノアル ホイドモ イルンダケドサ。
× 人。(C あー) うーん、 でも 家のある ほいども いるんだけどさ。

{笑} (C ホー)

{笑} (C ほー)

037 B : ソンデモ ホイ ホイドノ カッコシテー アルクヒトガ イル。(C ウーン)
それでも ×× ほいどの 格好してー 歩く人が いる。(C うーん)

ヤシャネワ ワカンナイヤ。 ヤシャネッテ ナニ。
やっしゃねは 分からないや。 やっしゃねって なに。

038 A : ヤッシャネ。 ワカル。 ヤッシャネ。
やっしゃね。 分かる? やっしゃね。

039 B : ドッテコトナイ。
どうってことない。

040 A : ドッテコトナイデナイナ。 ヤッシャネナーッテ ユーノワ
どうってことないで [は] ないな。 やっしゃねなーって いうのは

ナサゲネーナー (C ア) (B アー) (C アー) トモ チガウンダヨナー
情けないな (C あ) (B あー) (C あー) とも 違うんだよなー

ヤッシャネナー。

やっしゃねなあ。

041 B : ヤシヤネツテ ツカッタコト ナイモノ。

やっしやねって 使ったこと ないもの。

042 A : ヤシヤネー (C エット) ンー ソーユー ソレニチゲガナ、

やっしやねー (C えっと) うーん そういう それに近いかな、

ヤシヤネナー。

やっしやねなー。

043 B : コノ カンジョツテ ナニ。

この かんじよって なに。

044 A : カンジョツテ コレ アレデネーノ。

かんじよって これ あれじゃないの。

045 B : ドレ。

どれ。

046 A : オカンジョーノ カンジョデナイノ。

お勘定の かんじよじゃないの。

047 B : カンジョシテ ケサインツテ ユー。

お勘定して くださいって いう。

048 A : カンジョシテ ケサイン。(C エーットデスネ) ケ ケーサン。

お勘定して ください。(C えーっとですネ) け 計算。

049 B : ナンカ ドッカデ キーテキタノワ ナンテ キーテンノ。

なんか どこかで 聞いてきたのは なんて 聞いているの。

(C エーットデスネ)

(C エーットデスネ)

050 A : ケーサンスルモ アルシー、 カイケー、(B カイ) (C オカンジョー)

計算するも あるしー、 会計、(B ××) (C お勘定)

塩竈市 自由会話

カイケーモ (C チョットオマチクダサイネ) アルシー、
会計も (C ちょっとお待ちくださいね) あるしー、

タブン ンダベ。

たぶん そうだろう。

宮城県塩竈市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕話し手について

本調査は、話者AとBが、いくつかの方言語彙を列挙した用紙を見ながら、話を進める形で行われている。列挙した用紙にある語彙は、「ちよす（いじくる）」「たまげだ（驚いた）」「ずんけねえ（面倒臭い）」「やばつい（不正）」「けんのんたがり（神経質）」「おどげでねえ（苦勞する）」「ジャス（ジャージスーツ）」「ふぐだびつき（がまがえる）」「とぜん（寂しい）」「おだずもっこ（お調子者）」「たごまる（丸まる）」「おだづ」「ほでなす（馬鹿）」「うざにはぐ（苦勞する）」「ほいど（乞食）」「やっしやねえ」「かんじょ（トイレ）」「かっぺろ（カップラーメン）」「すかんぼ（タデ科の植物「いたどり（虎杖、痛取）」のこと）」「っこ（「花っこ」など小さいものに後接する指小辞）」となっており、塩竈市の予備調査で調査者が得た資料に基づいている。本会話集の前半は、「ちよす」から「ふぐだびつき」まで、後半は「たごまる」から「かんじょ」までの、話が盛り上がった部分を書き起こしたものとなっている。方言語彙について、その意味を話し合うという会話の内容上、調査者に話しかけることが時折あり、方言話者同士の会話というのとは異なるものになっていることに留意されたい。

〔2〕イワン

通常、当該地域では否定形「ナイ」は「イワナイ」「イワネ」などとなるはずだが、ここでは、関西などによく見られる「ン」の形を示している。これは、話者Bが、会話の軽妙さや、冗談めかした雰囲気会話を会話の中に取り入れるなどのために、臨時的に、関西でよく使われる形を用いたものと推測される。

〔3〕ヒトムガシヤナ

通常、当該地域では断定形「ダ」は、「ダ」そのままになるはずだが、ここでは、関西などによく見られる「ヤ」の形を示している。これは、話者Bが、会話の軽妙さや、冗談めかした雰囲気会話を会話の中に取り入れるなどのために、臨時的に、関西でよく使われる形を用いたものと推測される。

宮城県塩竈市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
鯨井 綾希（東北大学大学院文学研究科博士後期課程2年）
刈間 勇斗（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集
— 宮城県塩竈市 —
<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点	宮城県塩竈市			
収録日時	2013（平成 25）年 2 月 1 日			
収録場所	宮城県塩竈市宮町（話者 B 宅）			
話題	【場面設定会話】 全 13 場面			
話者				
A	男	1949（昭和 24）年	（収録時 63 歳）	[B の隣人]
B	女	1957（昭和 32）年	（収録時 55 歳）	[A の隣人]
話者出身地				
A	塩竈市宮町（ミヤマチ）			
B	塩竈市宮町（ミヤマチ）			

【場面設定会話】

話し手

A 男 1949 (昭和 24) 年 (収録時 63 歳)

B 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 55 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 B : オハヨーゴザイマース。

おはようございます。

002 A : アイ オハヨー。

はい おはよう。

003 B : ア ドゴニ イグノ、 ソナカッコーシテ。

あ どこに 行くの、 そんな格好して。

004 A : ン。 コレガラ センダイ。

うん。 これから 仙台。

005 B : ナニ、 ナン ドッカサ デンノ。

何、 ×× どこかに 出るの。

006 A : センダイデ カイゴー アンノッシヤ。

仙台で 会合 あるんだよ。

007 B : ア ホンドニ。 ミ ミタコドナイカッコーシテ。 イッテラッシャーイ。

あ 本当に。 × 見たことない格好して。 いってらっしゃい。

008 A : {笑} イズバン イーフグ チテチタガラ。

{笑} 一番 いい服 着て来たから。

009 B : ンジャネー。

それではね。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。 [1]

001 B : ドゴサ イッテキタノ。

どこへ 行ってきたの。

002 A : ジャスコサ イッテチタンダ、 イマ。

ジャスコへ 行って来たんだ、 今。

003 B : ナニカ カッテキタノ。

何か 買ってきたの。

004 A : ダメダ、 ヤサイ ミンナ タゲクテ。

駄目だ、 野菜 皆 高くて。

005 B : ンデ ダメダナー。 ンジャ イーワ。

それで [は] 駄目だな。 それでは [買い物に行くのは] いいや。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 A : オバンデスー。

こんばんは。

002 B : コンバンワー。 アレ コンド カイキ° アンノ ワカッテダ。

こんばんは。 あれ 今度 会議あるの わかってる？

003 A : ウン ワカッテダ。 アシタダオンネ。

うん わかってる。 明日だものね。

004 B : ウン ジャ ワスレナイヨーニ キテクーダサイ。

うん では 忘れないように 来てください。

005 A : ハイ。 ナンジダツケ。

はい。 何時だっけ。

006 B : シチジ。

七時。

007A : シチジ。

七時。

008B : ウン、 (A ハイ) ウジデ ヤッカネ。

うん、 (A はい) [私の] 家で やるからね。

009A : ハイ、 リョーカイ。

はい、 了解。

010B : ハイ、 ンジャ オネガイシマース。

はい、 それでは お願いします。

011A : ハイ。

はい。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : ナニ ヤッテンノー。

何 やっているの。

002A : ンーナ、 キノーツカラ イギナリ ユギ フッタガラヤー。 ユギカギ

×××、 昨日から 急に激しく 雪 降ったからさ。 雪かき

スネド ヒト トーランネーガラ ホレ。(B ンー) ユギガギ

しないと 人 [が] 通れないから ほら。(B うん) 雪かき

スツタンダッチャ。

していたんだよ。

003B : ア タイヘンダゴダ。 コシ イタメネーヨニ ガンバッテ アト

あ 大変だなあ。 腰 [を] 傷めないように 頑張って あと

(A ンダ) ヤツテクダサイ。(A ンダ) ンジャネー。

(A そうだ) やってください。(A そうだ) それではね。

塩竈市 場面設定会話

004A : テキトーニ ヒト トーレルクレーノ ハバニスッカラワ。
適当に 人 [が] 通れるくらいの 幅にするからよ。

005B : ハイハイ。 ガンバッテ。 ンジャネ。
はいはい。 頑張っ。 それではね。

〈 勧め 〉

(5) Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際
のやりとり。

001B : スコシ ヤスンデ オジャ ノンダラー。 ウチサ ヨッテガイン。
少し 休んで お茶 飲んだら。 [私の] 家に 寄っていきなさい。

002A : ーン。 ンデ オジャニ スッカナ。
うん。 それで [は] お茶に するかな。

003B : ウーン。 ンジャ ドーゾー。
うん。 それでは どうぞ。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニジワ。
こんにちは。

002B : アー。 (A トー) コンニチワー。
ああ。 (A ××) こんには。

003A : トーチャン イダッスカ。
お父さん いますか。

004B : トーチャンネ、 チョット デカケテテー、 マダ カエッテコナインデス。
お父さんね、 ちょっと 出かけていて、 まだ 帰って来ないんです。

ドーシマスカー、 アトデ レンラクシマスカー。
どうしますか、 あとで 連絡しますか。

塩竈市 場面設定会話

005A : ドノクライ カカンダベ、 カエツテクルマデ。
どのくらい かかるんだろう、 帰って来るまで。

006B : ウーン、 ワカンナイドゴダナー。
うーん、 分からない所だなあ。

007A : アー ンデ ワガッタ。 ンデ チョット ヒドマワリシテ
ああ それで [は] 分かった。 それで [は] ちょっと ひと回りして

(B ウン) カエリニ モイッカイ ヨッカラ。

(B うん) 帰りに もう一回 寄るから。

008B : ウン ソシタラ ンジャー ソントキ、 カエ ハヤク カエツテキタラ
うん そうしたら それでは その時、 ×× 早く 帰って来たら

アノー ユツキマスカラ。

あの一 言っておきますから。

009A : ウン。 (B ハイ) ンデネ。
うん。 (B はい) それで [は] ね。

010B : ハイ、 ンジャ オネガイシマース。
はい、 それでは お願いします。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : モーースワケネーゲットモ スコップ カシテケネーガヤ。
申し訳ないけれども スコップ 貸してくれないかな。

002B : ア ソゴサ アッガラ モツテッテエーヨー。
あ そこに あるから 持って行っていいよ。

003A : ンデ カリッカラ。
それで [は] 借りるから。

004B : ア ンジャネー。
あ それではね。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : ドーモドーモ アリガトゴザリシタ。
どうもどうも ありがとうございます。

002B : ンジャ ソコニ オイデデクダサイ。 ンジャー ドーモー。
それでは そこに 置いておいてください。 それでは どうも。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : コンニジワ。
こんにちは。

002B : ハイ。
はい。

003A : アノ、 コナイダ カリタスコップ、 カエシサ キタンダゲッドモ、
あの、 この間 借りたスコップ、 返しに 来たんだけれども、

チョット エー オッチョッテシマッテッシャー。 モーシワゲナイッス。
ちょっと 柄 [を] 折ってしまっさあ。 申し訳ないです。

エーベガ。
いいだろうか。

004B : ウーン。 ダイジョブー。 イーヨ。 エー デモ コレ スッカリ
うん。 大丈夫。 いいよ。 えー でも これ まったく

コワレテナカッタノニ ナンデ コワレダノ。
壊れていなかったのに 何で 壊れたの。

塩竈市 場面設定会話

005A : イギナリ フンズゲダッケ コワレデシマッダワ。
ひどく 踏みつけたから 壊れてしまったよ。

006B : ナンダペー マー イーヤ。
何だろう まあ いいや。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : コンーニジワ。 コイズ アノ コナイダ カリダスコップナンダゲッドモ、
こんにちは。 これ あの この間 借りたスコップなのだけれども、

ナンダカ エー オ アノー オレデシマッテ モーシワケ
何だか 柄 [が] × あの 折れてしまって 申し訳

ネーナンダゲッドモ、 カエシサ キタンダゲッドモ、 ナジョスッペネー。
ないんだけれども、 返しに 来たんだけれども、 どうしようね。

002B : ナンダペー セッカク カッタノニー。 コナイダ ヤット
何だろう せっかく 買ったのに。 この間 やっと

カッタオノダッペヤ。 ベンショーシテモラウガラネ。 ドースルー。
買ったものなんだよ。 弁償してもらうからね。 どうする。

003A : ナーンボデ カッテチタノ。
いくらで 買って来たの。

004B : ウーン ソゴノー ローヤル [2] ニ イッテ センイグランナンダゲドモー、
うーん そのの ロイヤル に 行って 千いくらなんだけれども、

ベンショーシテモラウガラ。 カッテキテモラワナイド。
弁償してもらうから。 買ってきてもらわないと。

005A : ンデー マヤウガラ。
それで [は] 弁償するから。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBをショッピングセンターに誘う際のやりとり。

001A : イマカラー ビッグ [3] サ イグンダケッド イッショニ イガネーッスカ。
今から ビッグ へ 行くんだけど 一緒に 行かないですか。

002B : アー ダメダー。 イマカラダト ヨージアッテ。 ウジノシトダジド
あー 駄目だ。 今からだと 用事 [が] あって。 [私の] 家の人達と

デガケナキャナンナイカラ ダメダー、 キョーワ。(A ウン) ゴメンネ。
出かけなければならないから 駄目だ、 今日は。(A うん) ごめんね。

003A : ンデ ナニガ ホシーモノ アッダラ カッテチテケッカラ、 イッショニ。
それで 何か 欲しいもの あったら 買って来てやるから、 一緒に。

004B : ハーイ。 ンジャ アトデー デンワデモ シマス。 スイマセ~~ン~~、
はい。 それでは あとで 電話でも します。 すいませ~~ん~~、

(A ア ハーイ) ワザワザ アリガトー (A ン) ゴザイマース。

(A あ はい) わざわざ ありがとう (A ん) ございます。

005A : ハーイ。

はい。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩している人に、体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。Bの調子がいい場合。

001A : ナージョナノ。 カゼ ヒーダッテ キーダゲッドモ、グエー
どうなの。 風邪 [を] 引いたって 聞いたけども、 具合 [は]

イーノスカ。
いいのですか。

002B : ウーン、 ダーイジョブ。 ナントガストガデ ヤッテッカラ。
うーん、 大丈夫。 何とかすんとかで やっているから。

シー、 ゴメンネー。 ンジャー。
うーん、 ごめんね。 それでは。

(11-2) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。Aの調子が悪い場合。

001A : カゼ ヒーダッテ キーダダゲッドモ、 ナジョナノッシャ。
風邪 [を] 引いたって 聞いたのだけれども、 どうなのさ。

002B : アー チョーシ ワルイー。 ナンダカー、 アッチコッチ イダイシー、
ああ 調子 [が] 悪い。 何だか、 あっちこっち 痛いし、

コシモナニモ ナニモカニモ ダメダ。
腰も何も 何もかにも 駄目だ。

003A : ネズ アンノ。
熱 [が] あるの。

004B : ネズ ナイゲッドモ、 ナンダカ チョーシ ワルイガラ イーワ、
熱 [は] ないけれども、 何だか 調子 [が] 悪いから いいわ、

キョー。 ヤスンデル。
今日。 休んでいる。

005A : ビョーインサ イッテ ミデモラッタホーガイーヨ、 ハヤグ。
病院へ 行って 見てもらった方がいいよ、 早く。

006B : ハイハイイ。 ドーモネー。
はいはい。 どうもね。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : ナンボ カダズイダノッシャー。
どれくらい 片付いたのですか。

塩竈市 場面設定会話

002B : ウーン スコシダゲ。
うーん 少しだけ。

003A : ナーンダ。 ミーンナ ドロカブッタモノ。 テズダウガー。
何だ。 皆 泥被ったもの。 手伝うか。

004B : ウーン。 ヤンダグナッゴダ。 ウーン。 オネガイスッカナ。
うーん。 嫌になることだ。 うーん。 お願いするかな。

005A : ウーン (B ウーン) ンデ チョゴッド テズダウガラ。
うーん (B うーん) それで ちょこっと 手伝うから。

006B : ハーイ。
はい。

007A : オッチョゲデアルノ、 コワレダスコップデ エーガラ モッテキテケロ。 [4]
折れているの、 壊れたスコップで いいから 持ってきてくれ。

008B : スイマセーン。 ジャ オネガイシマスー。ー。
すいません。 それでは お願いします。

009A : ハーイ。
はい。

010B : ハイ ドーモー。
はい どうも。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを
制止してどのようにいうか。

001A : コイズモー、 ンデ コイズモ ナゲ ミンナ ナゲデイーダスツペガ。
これも、 それで これも ×× 皆 捨てていいんでしょうか。

002B : アー ソイズ ダメダー。 ソイズワ チョット トッテデー。
あー それ [は] 駄目だ。 それは ちよつと 取っておいて。

塩竈市 場面設定会話

アドガラ ミツカラ。 ワルイゲド ソノママニ シテデー。
後から 見るから。 悪いけど そのままに しておいて。

003A : ナニ ウズツテンノ、 コイツツア。
何 写っているの、 これは。

004B : ウン。 ワカンナイ。 ミデミナイド ワガンナイガラ ソノママニ
うん。 わからない。 見てみないと 分からないから そのままに

シテデー。 オネガーイ。
しておいて。 お願い。

005A : ウーン。 ハーイ。
うん。 はい。

宮城県塩竈市方言会話集（場面設定会話）注記

- 〔1〕ここでは、近所のお店ジャスコへ買い物に行こうとしているBと、買い物に行ってきたAが、昼間、道端で会うという場面設定で演じている。
- 〔2〕ローヤル
近所のホームセンターのこと。
- 〔3〕ビッグ
近所のショッピングセンターのこと。
- 〔4〕コワレダスコップ
話者Aが（9-2）の状況を踏まえてこういったものと考えられる。

宮城県塩竈市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

【 宮城県塩竈市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な塩竈市方言の音声や文法を概観します。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもかなりよく保たれているようです。例えば、カ行音については、「ダガラ」（だから）、「ユギ」（雪）、「ハヤグ」（早く）、「フンズゲダ」（踏みつけた）、「ヒドゴド」（一言）、また、タ行音については、「イダ」（居た）、「コドモダジ」（子供達）、「ネズ」（熱）、「トツテデ」（取っていて）、「ヒドゴド」（一言）、といった例が聞かれます。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ヶ°」のように半濁点で表記

します) のアケ° ルとなり、

「開ける」=アゲル

「上げる」=アケ° ル

で両者の混同は起こりません。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「シオカ° マ」(塩竈)、「カイキ° 」(会議)、「タマケ° タ」(驚いた)、「タコ° マル」(絡まる)のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。そうした問題を含むものの、文字化資料では一律に鼻濁音で表記してあります。

以上のガ行に加えて、ダ・ザ・バ行も鼻音化します(ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します)。

例) ガ行: 上げる → アケ° ル

ダ行: 肌 → ハンダ

ザ行: 風 → カンゼ

バ行: 首 → クンビ

これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

⇒イの音がウの音に近づく現象(またはその逆も)を「中舌化」(ちゅうぜつか、なかじたか)と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子(しし)、煤(すす)、寿司(すし) → すべてスス

知事(ちじ)、地図(ちず)、辻(つじ) → すべてツンズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます(後述)。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。今回の会話集の話者からもあまり聞かれず、この会話集の文字起こしの範囲ではありませんでした。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん (じいさん)、十三 (じゅうさん) → 両方ともズーサン
手術 (しゅじゅつ) → スズツ
注射 (ちゅうしゃ) → ツーシャ

ただし今回の会話集で文字化をした範囲にはこれらの現象は見られませんでした。

▼キ (キャ行) の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご (硬口蓋) に接近する現象を言います。キがキとシの間のような音になるといふ、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械 (きかい) → チカイ
救急車 (きゅうきゅうしゃ) → チューチューシャ
今日 (きょう) → チョー
来た (きた) → チタ

上の例では、「チ」と表記しましたが、塩竈では完全にチになるのではなく、キのあとにシの発音を添えるような微妙な音になることが多いようです。今回の会話集の話者たちにもこの特徴は見られ、「チテチタ」(着て来た)のような例が聞かれます。しかし、概してこの傾向は強くは現れていません。

▼その他、以下のような特徴もあります。

・ヒの音がシに近い音となる。

例) ヒト (人) → シト

【母音】

▼イとエの統合

母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

ただし、この特徴も弱まってきており、イとエが似たような発音になるものの、完全に同じではなく、一応区別はするという状態になりつつあるようです

▼連母音の融合

アイ・アエという母音の連続(連母音)は融合して[ɛ:](共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する)と発音される。

¶ アクセント

塩竈市は、「曖昧アクセント」と呼ばれる地域に属する。

☞例えば「橋」と「箸」を声に出したときに、共通語のような「有型アクセント」ではハとシの音の高低が決まっています(=型が有る)、それによって単語の区別が付きませんが、「無型アクセント」では高低が決まっていない(=型が無い)ため、区別されません。例えば、今回の調査の話者は、「牡蠣」と「柿」、「橋」と「箸」など、一部の語では、アクセントの区別がされていませんでした。このような曖昧なアクセントを持つ地域のことを、一般に曖昧アクセント地域と呼びます。

¶ 文 法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」の不使用

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「ヒト トーレルクレーノ ハバニスツカラワ。」(人 [が] 通れるくらいの幅にするからよ。)、
「ズンツァンダジ ヨグ ツカッタタケドー。」(爺ちゃん達 [が] よく使っていたけど)、
「カゼ ヒーダッテ キーダゲッドモ」(風邪 [を] 引いたって聞いたけども)、
「ウジサ イッテ モノモラッテー」(家に行つて物 [を] 貰って)、
「シンケーシツミタイナヤツ ケンノンタガリツーンダヨナ」(神経質みたいなやつ[を]ケンノンタガリっていうんだよな。)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

☞また、この会話には見られませんが、宮城県内では共通語の「を」相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

俺ドゴ連れて行ってくれ (俺を連れて行ってくれ)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところも多くあります。今回の会話集では次のような例が見られました。

例) ウジサ イッテ モノモラッテー (家に行つて物 [を] 貰って)

ドッカサ デンノ (どこかに出るの)

ビョーインサ イッテ ミデモラッタホーガイーヨ、ハヤグ (病院へ行つて見てもらった方がいいよ、早く)

ただし、「サ」は共通語の「に」ほど広い意味をもっているわけではありません。微妙なのは存在の場所を表す用法であり、今回の会話集でも、「ア ソゴサ アッガラ モッテッテエーヨー」(あ、そこにあるから持って行っていいよ)のように「サ」を使った発話例が聞かれる一方、「ンジャ ソコニ オイデデクダサイ」(それではそこに置いておいてください)のように「サ」を使わず「ニ」を用いた発話例もあります。塩竈市では、もともと「～サ ある」という言い方はしませんでした。が、しだいに、そのような言い方をするようになってきたものと考えられます。

【接続助詞】

▼「ケ」

共通語の「けど」などに当たる接続助詞に「ケ」がある。

☞次の例文の「ケ」は「けど」と訳せるものです。しかし、「ケ」にはほかにも、「のに」「たら」「ところ」などさまざまな共通語訳があてられるように、必ずしも逆接になるとは限りません。「この間、町に行っただけ、友達に会った」（町に行ったら）のような用法もあります。この「ケ」には、あることがらを思い出すという意味合いがあり、その思い出したことがらを前提にどうであるかが「ケ」の後ろで語られます。

例) イギナリ フンズゲダッケ コワレデシマッダワ (ひどく踏みつけたから壊れてしまったよ)

▼「ゲットモ」

共通語の「けれども」に当たる接続助詞（逆接既定条件）に「ゲットモ」がある。

例) モーースワケネーゲットモ スコップ カシテケネーガヤ (申し訳ないけれどもスコップ貸してくれないかな)

【助動詞】

▼「ベ」

共通語の「～だろう」（推量）や「～しよう」（意志）に相当する助動詞に「ベ」がある。

☞「ベ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だベ (明日雨だろう) <推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう) <意志>
お祭り、お前も行くベ? (お祭り、お前も行くだろう?) <確認>
みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう) <勧誘>

今回の会話集では、「ドノクライ カカンダベ」（どのくらいかかるんだろう）などの形で推量する用法が見られます。また、「ナンダベー セッカク カッタノニー」（何だろう せっかく買ったのに）などのように、「ナンダベ」の形で感動詞風に使う発話

も聞かれます。

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

【終助詞】

▼「シャ」「ノッシャ」

共通語の「さ」にあたる終助詞として「シャ」が用いられる。「のさ」にあたる「ノッシャ」もよく聞かれる。

☞共通語にはうまく訳せない程度の軽い敬意を含んでいることもあります。

例) センダイデ カイゴ[°]ー アンノッシャ (仙台で会合 [が] あるんだよ)

▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手が知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。

例) ソコ チョスナーッテ イウッチャ ヨグ (そこ「ちよすなー」って言うよね よく)

▼「ワ」

共通語の「な」「ね」「よ」「わ」などにあたる終助詞として「ワ」が用いられる。

☞共通語と異なり、男性も使用します。しかも、比較的自由に文末に付きます。例えば、「学校さ行ったかワ」「まだ居たのワ」「もう行って来たよワ」など、「か」「の」「よ」といった助詞の後ろにも付きます。「もう居ないべワ」のように「べ」にも接続します。さらに、「早く行けワ」のように命令形式に付くこともあります。この「ワ」に共通するのは、話し手が、自分に自信があり、当然のことを言っていると感じている場合のようです。

例) ヒト トーレルクレノ ハバニスッカラワ (人 [が] 通れるくらいの幅にするからよ)
イギナリ フンズゲダッケ コワレデシマッダワ (ひどく踏みつけたから壊れてしまったよ)

▼「オンネ」

共通語の「もんね」にあたる終助詞として「オンネ」が用いられる。

例) ウン、ワカッテダ。アシタダオンネ (うん、わかってる。明日だものね)

▼「ゴダ」

感動を表す終助詞として「ゴダ」が用いられる。

例) ア タイヘンダゴダ (あ 大変だなあ)

【敬語】

▼「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「ゴザリシタ」「イ (ン)」

敬意を表す形式として「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「ゴザリシタ」「イ (ン)」などが用いられる。

例) 取りス (取ります)

んデガス (そうです)

おはよゴザリス (おはようございます)

ありがとうゴザリシタ (ありがとうございます)

ウチサ ヨッテガイン ([私の] 家に寄っていきなさい)

▼テケサイン

共通語の「てください」にあたる補助動詞として「テケサイン」が用いられる。

例) カンジョシテケサイン (お勘定してください)

【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

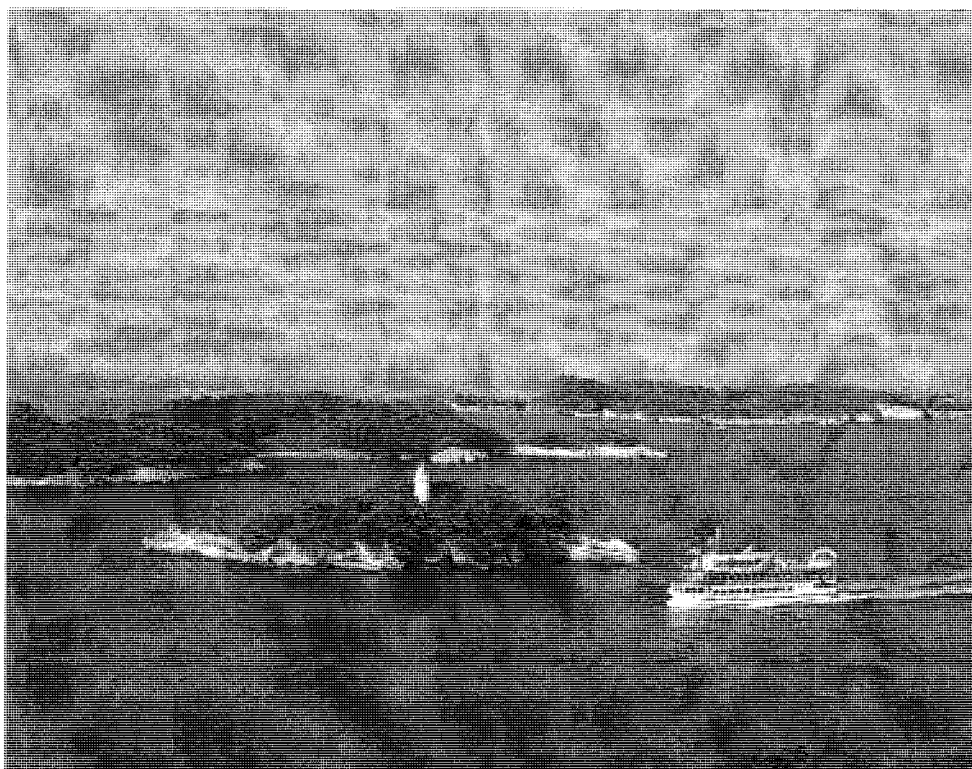
国立国語研究所編 (1981) 『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料 5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版

佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』ひつじ書房

しち が はま まち
七 ケ 浜 町



多聞山からの松島
(写真提供：宮城県観光課)



宮城県宮城郡七ヶ浜町概要

①七ヶ浜町の概観

七ヶ浜町は、仙台市中心部から東に約 20km に位置し、町全体が松島湾の南西に突き出した半島状の形態をなしている。南は太平洋に面し、北と東は松島湾と三方を海に囲まれ、西は仙台市、多賀城市、塩竈市に隣接している。七ヶ浜は日本三景、松島の南部を形成し、湾を望む名勝、多聞山など町域全体が県立自然公園となっている。気候は比較的温暖で寒暖の差が少ない。

七ヶ浜町は、漁業と観光の町である。海産物は、焼き海苔・アワビ・ウニ・カレイ・アナゴ・シャコエビ・ボッケ（カジカ科の一種）などが名産である。観光では、菖蒲田海水浴場や小浜港のヨットハーバーなどの海洋レジャー施設や、日本三景松島が一望できる多聞山がある。

②収録地点について

話者の出身地である七ヶ浜町花淵浜は七ヶ浜半島の先端南部に位置する。

③東日本大震災による七ヶ浜町の被害

七ヶ浜半島は、標高 40～60m の緩やかな丘陵となっている。3月11日、七ヶ浜町は震度 5 強の揺れに襲われた。その後に襲ってきた津波は、仙台港外にある表浜の松ヶ浜より入り、貞山掘沿いに北上して、松島湾より侵入した津波と一体となって半島を孤立させ、町全体の 4 分の 1 が浸水する被害をもたらした。半島東北部にある東北電力の仙台火力発電所 4 号機は地震発生直後に自動停止し、その後津波によって 1 階部分が冠水した。

表 1 七ヶ浜町の人的・住宅被害

七ヶ浜町 人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明 の対人口比	全壊	半壊
20,416 人	70 人	5 人	0.37%	729 棟	460 棟

表 2 七ヶ浜町の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	9,149 人	44.8%
世帯	2,751 世帯	42.9%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.181～186 に
依拠する部分が多い。特に、表 1・表 2 は
衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
うみ・ひと・まち七ヶ浜まちづくりポータルサイト 七ヶ浜町の概要（<http://www.shichigahama.com/town2/plan01.html>）（2013/02/15 アクセス）

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡七ヶ浜町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡七ヶ浜町

収録日時 2012（平成24）年7月19日

収録場所 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1934（昭和9）年	（収録時78歳）	[Bの遠い親戚]
B	女	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[Aの遠い親戚]

話者出身地

A	七ヶ浜町花渚浜（ハナブチハマ）
B	七ヶ浜町花渚浜（ハナブチハマ）

【震災のときのこと】

話し手

A 男 1934 (昭和 9) 年 (収録時 78 歳)

B 女 1931 (昭和 6) 年 (収録時 81 歳)

001A : アノネー、チョード アッカリナ [1]、コノ フロ アルスペ。 コノ
あのね、ちょうど アクアリーナ、この 風呂[が] あるでしょう。この

アッカリナッテ ユー。

アクアリーナって いう。

002B : アー イキラク [2] ネ。ソコノネー。(A ネー) ハイ。

ああ 亦楽ね。 そこのね。(A ねー) はい。

003A : コゴサー ヨッカメニ ニューカイ スタダゲネー、(B シー シー シー)

ここに 4日目に 入会 したんだけどね、(B うん うん うん)

イジネンブヌ ニューカイキン カッテ、(B ハイ ハイ ハイ) ヨッカメニ

1年分の 入会金[を] 買って、(B はい はい はい) 4日目に

ヒガイ ウゲマシタ。ソレデネー、ヒトバシ ハエグ イッタ タメニネ、

被害[を] 受けました。それでね、ひとバス 早く 行った ためにね、

(B シー) フタリシテ オンナノ カダド キッタダゲントネー、

(B うん) 二人で 女の 方と 来ていたんだけどね、

(B シー) ソノヒト カダイデワ ナイ ナインダゲントモネー。

(B うん) その人 家内では ×× 無いんだけどね。

ヒトリヒト オイデ ワダシガ サイショ カエッタワゲワー。

1人[の]人[を] 置いて 私が 最初[に] 帰ったわけよ。

004B : ウジニ。

家に？

005A : ウジニ。 (B フーン) ソシタラ ワダシワ ジュンチョーニ
 家に。 (B ふーん) そうしたら 私は 順調に

ウジニ カエッタノネ。 (B ハイ) アドノ バーシガ ソーユー サINANニ
 家に 帰ったのね。 (B はい) あとの バスが そういう 災難に

アッテ シマッタワゲネ。 (B アー) ダガラ ソノヒトガ ドゴデ
 遭って しまったわけね。 (B あー) だから その人が どこで

アッタガモ ワダシワ シラナイシ。 (B イッショニ キター) ウ
 [災難に] 遭ったかも 私は 知らないし。 (B 一緒に 来た) ×

イッショニ イツツモ キッタダゲントモサー。 (B ソノカタ) ナ
一緒に いつも 来ていたんだけどもさ。 (B その方) ×

なぜガ ソノヒニ カギッテ ワダシダゲ ハエ ハエグ カエッテ
 なぜか その日に 限って 私だけ ×× 早く 帰って

シマッタノワ。 (B アー ソーナンダ。 ホーン) ホシテネー オヒル ク、
 しまったのよ。 (B あー そうなんだ。 ふーん) そしてね お昼 食う、

ゴハン タベデル ウジニ、 (B シー) オレ ナガナガ ネラエンネ
 ご飯[を] 食べている うちに、 (B うん) 私[は] なかなか 寝られない

ホーダガラ、アンターザイリョ オレ ノムガラ、カナラズ。 (B アー
 方だから、 安定剤 _____ 私[は] 飲むから、必ず。 (B あー

ヤスムノニネー) シー シー。 (B シー) オシー コノ (B シー)
 休むのにね) うん うん。 (B うん) そして この (B うん)

ワダシモ シンチクシタ バッタガラ。 ウジモネー、ログネンシカッテ
 私も [家を]新築した ばかりだから。うちもね、 6年しか

ナンネガラー。ソゴサ ヨゴダ ナッテダラバー、 (B シー) ソノトスニ
 ならないから。そこに 横 なってたら、 (B うん) その年に

ノーコーソグ オゴシタンダナ。(B アー) ソノマエノ トシ。
脳梗塞[を] 起こしたんだな。(B あー) その前の 年。

(B Aサンガネ) ジューイジガズ。(B ア ソー) ン。 ノーコーソグ
(B Aさんがね) 十一月[に]。(B あ そう) うん。脳梗塞[を]

オゴシテルガラ、(B ンー) イツモ コノ、アノー ツグエノ ウエサー
起こしているから、(B うん) いつも この、あの 机の 上に

クスリダゲ オイッタンダナー、ニューボーワサー。(B ハイ ハイ) ンー。
薬だけ 置いていたんだな、女房はさ。(B はい はい) うん。

(B ハイ) オレデー、ニゲロー、ジーチャン ニゲロツテ イワツテ、オレワ
(B はい) それで、逃げろー、じいちゃん 逃げろって 言われて、私は

ニゲダグ ナガッダノネー。アシモ イダイスー、(B アー) ノーコーソグ
逃げたく なかったのね。足も 痛いし、(B あー) 脳梗塞[を]

オゴシテルガラ。
起こしているから。

006B : アー。アルグノ タイヘンダッタ。
あー。歩くの 大変だった。

007A : ンー。(B ウーーン) イガラ オレバ オイデゲワド。(B ンー)
うん。(B うーん) いいから 私を 置いていけよと。(B うん)

ンー。ソシタラ ムスコニ ナニカダル ジーチャンツテ。(B ンー)
うん。そしたら 息子に 何[を]言う じいちゃんって。(B うん)

ネー。(B ンー) トニカグ ニゲロー、ニゲロツテネ。
ねー。(B うん) とにかく 逃げろ、逃げろってね。

トニカッ チノミチノママデ ニゲマシタ。(B アー ソーナノ)
とにかく 着の身着のままで 逃げました。(B ああ そうなの)

マッタグ サムガッタデス。ハタゲジマイデ ニゲダガラネー。
まったく 寒かったです。肌着一枚で 逃げたからね。

008 B : アラ アラ アラ、ソレデワ サムガッダ。
あら あら あら、それでは 寒かった。

009 A : ンー。オーデネ、ゲンカン デゲッドモ、ゲンカン ワリッダモノワ。
うん。それでね、玄関[に] 出るけれども、玄関[が] 壊れていたものな。

010 B : アー ジシンデネ。
あー 地震でね。

011 A : ンー ジシンデ。ハエグ ニゲレバ イガッタノネー。(B アー)
うん 地震で。早く 逃げれば 良かったのね。(B あー)

イーガラ オレバ オイデゲワッテ ユツタンダガンネ。オレ、ホントニ。
いいから 私を 置いて行けよって 言ったんだからね。私、本当に。

(B ウー) ンー。ドーシェ アシモ ナオンネベガラワ。 オジ、
(B うん) うん。どうせ 足も 治らないだろうからさ。そして、

アダマダッテ ドーユーンナッ、 ナンダガ ワガンネガラ、(B ハイ
頭だっって どういう風になる、なるんだか 分からないから、(B はい

ハイ) トニガク オリバ オイデッタッテ カマネガラワッテ (B ンー)
はい) とにかく 私を 置いていったって 構わないからさって (B うん)

ユット、ヤッパリ コドモシテ オヤバ オガンネンダッチャ。
言うと、やっぱり 子供として 親を 置いていけないんだよね。

012 B : ソーナンダヨネー。ソレナンダヨネー。(A ネー) ンー。
そうなんだよね。それなんだよね。(A ねえ) うん。

013 A : ソシ ムリムリ ツレデヤッテネ。アノ チーサイ クルマネー、
そうして 無理やり 連れて行ってね。あの 小さい 車ね、

オーキーノド オラエニ サンダイ アッタッチャー。(B ハイ ハイ ハイ)
大きいのと 私の家に 3台 あったでしょう。(B はい はい はい)

イジバン チーサイ クルマ、アド ワガイ シタジ フタリ (B ンー)
一番 小さい 車[に]、あと 若い 人たち[が] 2人 (B うん)

クルマ (B ンー) モッテルゲット、(B ンー) ワゲシダジ カギ
車 (B うん) 持っているけど、(B うん) 若い人たち[が] 鍵[を]

モッテルガラ、 オトサン マワサンネワゲサナー。
持っているから、お父さん[が] [車を]運転できないわけだな。

(B アー ナルホド) ンー。(B フーン) オーシテ チーサイ クルマサ
(B あー なるほど) うん。(B ふーん) そうして 小さい 車に

ジューニンイ イレデヨ、ミゼット [3] サ。(B エー) ンー。オレ
1 2人 入れてさ、ミゼットに。(B えー) うん。私は

マゴモ イルガラネ。(B ハイハイ) トージノマゴッチャー (B ハーイー)
孫も いるからね。(B はいはい) _____の孫 _____ (B はい)

ヤッカリデ (B ハイハイ) ンー。ヒマゴネー。(B ハイ) ソレ ナントガ
部屋借りて (B はいはい) うん。ひ孫ね。(B はい) それ なんとか

フラッテ。(B うん) ユーグネー、アノ ジャダグオ カリッタヤズ、
拾って。(B ンー) よくね、 あの 社宅を 借りていたやつ、

アノ ロータリー カリッタンダゲットモ、
あの ロータリー[の近くの社宅を] 借りていたんだけども、

ツブレナイデサー。

つぶれないでさ。

014B : ドゴ、ドゴンドゴ。
どこ、どこのところ?

015A : タイシン [4] ノ。

大進の。

016B : タイシンノ。(A ンー) アー (A アノ ロータ) X1サンノ ソバネ。

大進の。(A うん) あー (A あの ×××) X1さんの 側ね。

(A ンー) アー ハイ ハイ。

(A うん) ああ はい はい。

017A : アズックガネー、(B ンー) クルマモ アル コドモダジ オツテ

あそこがねー、(B うん) 車も ある 子どもたち 置いて

キタンダデバー。(B アラーー アラーー) ンバ ナントガネー、

来たんだってば。(B あらー あらー) ×× なんとかね、

コドモダジオ ミナ スグッデ ギダノネー。

子どもたちを 皆 救って 来たのね。

018B : ンー ンー。ヨガッタ ヨガッタ。ンー。

うん うん。良かった 良かった。うーん。

019A : オシテ アノ ドーロガ カンボズ スネガラ イガッタダヨ。

そして あの 道路が 陥没 しないから 良かったんだよ。

(B ソーナンダネー) アノ ドーロガ カンボズ スタラネー、

(B そうなんだね) あの 道路が 陥没 していたらね、

ナンボ タガヒルマダッテ (B ンデモ トー ソー) ミンナ

どれだけ 真昼間であつても (B それでも ×× そう) 皆

ナグナッタヨ。

亡くなったよ。

020B : ソー ソー ソー。トーレナイモノネー。

そう そう そう。通れないものね。

021A : トーレナイガラネー。(B ウーーン) ンー。オーシテ コンド オラ
通れないからね。(B うーん) うん。そして 今度 ほら

ミーライスー [5]、ミッコリアサ イッテネー。(B ハイ ハイ)
姪の家に、 姪っ子の家に 行ってね。(B はい はい)

タガイガラ。(B ンー) アソゴサ イッテ オシェワナッタゲットネ、
高いから。(B うん) あそこに 行って お世話になったけれどね、

オーレガ コンド グエワリシ、サムイシサー。(B サー ナルホド)
私が 今度 具合悪いし、寒いしさ。(B あー なるほど)

ジーチャンバリ スッカリ ソロツテラッタノサ。(B フーン)
じいちゃんばかり すっかり 揃っていたのさ。(B ふーん)

ホントニネー。コドモダジワー
本当にね。 子どもたちは

022B : アノ X2チャンノ ウジサ ヒナン シタノスカ。
あの X2ちゃんの 家に 避難 したのですか?

023A : ンー。ミッコライ タガイガラ、 オラ。(B アー
うん。姪っ子の家[は] 高い[ところにある]から、ほら。(B あー

ヨガッタネ。ハイ ハイ。ソーネ。ウーーン) オンデ
良かったね。はい はい。そうね。うーん) それで

ユギップリダスツペヤ。ナンニモ ミエナイツテ ユワレルツペス。
雪が降っているでしょう。なんにも 見えないって 言われるし。

024B : ホントダワ。アノドギワ
本当だわ。 あの時は

025A : オレワ フレデル イッポーダチャ、サムイモノワー。(B ンー。アラー)
私は 震えてる 一方だよ、 寒いもの。(B うーん。あらー)

ネー カラダドモ ホントデワナイスー。(B ソー ソー) ソー。

ねー からだも 本調子ではないし。(B うーん うん) うん。

026 B : ソー。 タイヘンダ。

うん。 大変だ。

027 A : ソレガラ コンド ガッコエ、タイグカンサネ、ヒナンサレデ。

それから 今度 学校へ、 体育館にね、 避難させられて。

(B アー ソッカ。 ソー ソー ソー) ダテ ネー。

(B あー そっか。 うん うん うん) だって ねえ。

028 B : ヨーフグ ミナ ゼンブ キテイッタデショ。 ソノドギワネ。

洋服 みんな 全部 着ていったでしょう？ その時はね。

029 A : ソー。 ミナ ガラ。(B ソー) ソー。 ミンナ カサッテサー。

うん。 みんな XX。(B うん) うん。 みんな 貸されてさ。

トニカ アルモノオ ナンデモ キラシェラッタオンワギサワ。

とにかく あるものを 何でも 着せられたものってわけだよ。

(B ナ ソー ソー ソー ソー) ソー。(B ソー ソー ソー)

(B X そう そう そう そう) うん。(B うん うん うん)

オシテ タイクカンサ イッテ (B ソー) ミッカグレ イダノガヤ。

そして 体育館に 行って (B うん) 3日ぐらい いたのかな。

(B ソー) アド コクサイムラサ ヒナンサセデ モラッテ、(B ソー)

(B うーん) あと 国際村に 避難させて もらって、(B うん)

ネー アサ シル バン、 コーヒー オニギリ ケラッテネー。

ねー 朝 昼 晩、 コーヒー[と] おにぎり[を] もらってね。

(B ソー) ナランデシャー。 ストリストリ ナランデネー。

(B うん) 並んでね。 ひとりひとり 並んでね。

(B ソーダヨネー) カダルド、コゴド カダル ヒトモ イレバ
(B そうだよね) 言うと、小言[を] 言う 人も いれば

030B : シー。キママダネ。
うん。気ままだね。

031A : オレナ ナイゴドノッテネー。
私のは ///////////////。

032B : キママダネー。(A シー。) ホントダネー。(A ウー) シー。
気ままだね。(A うん。) 本当だね。(A うー) んー。

033A : コンド ツギノ アサワネー、ヒヤッコイノ。 アヅ ヒヤッコイダッテ
今度 次の 朝はね、 [ご飯が]冷たいの。×× 冷たくたって

インダワ。 ハラ ヘッテツカラネー。(B ソーナンダネー)
いいんだわ。腹[が] 減っているからね。(B そうなんだね)

タバナイワゲニ イガネガラサ。(B シー。シー シー) ホーシ
食べないわけに いないからさ。(B うーん。うん うん) そうして

ナントガナッタガラ マズ イギガエッテ キタンダナ、コーシテ ミット
なんとかあったから まず 生き[て]帰って 来たんだな、こうして みると

ネー。(B ウーー) マズ ワダシラサ アデガッテ、カシエダスタズモ
ねー。(B うーん) まず 私たちに あてがって、食わせた人たちも

タイヘンダベツトモシャー。(B ソーダネー) マッタグ。イジバン ヒドイノ
大変だろうけどね。(B そうだね) まったく。一番 ひどいの

オシヨ オシッコダッタネ。(B アー ソーダッタネー) バシヨガ
××× おしっこだったね。(B あー そうだったね) 場所が

ナイガラサ。シー。
無いからさ。うん。

034 B : トイレ イチバンダッタヨネ。
トイレ[が] 一番だったよね。

035 A : トイレガ イヤ、オドゴヨリ オンナノ ヒトガ ヒドガッタベ。
トイレが いや、男より 女の 人が ひどかったでしょう。

(B シー。ソー、ソーネ) マッタグ ホントニ。シー。

(B うーん。そう、そうね) まったく 本当に。うん。

(B シー。ダヨネ) ズガン チメラッテネー。ホントニ。

(B うーん。だよ) 時間[を] 決められてね。本当に。

オドゴン シタジワネー、ヤマサ イッテモ _____。
男の 人たちはね、 山に 行っても _____。

036 B : シー ダネー。 オンナノ ヒトタチワ ドーシテモネー。
うん そうだね。女の 人たちは どうしてもね。

037 A : んー。アーズ ソーシテ シノンデ キマシタネ。オーシター ヒナンシタ
うーん。まず そうして しのいで きましたね。そして 避難した

シガズノ ニジューナンニジガ。コンド ハイエン オゴシテシマッタ、
四月の 二十何日か。 今度[は] 肺炎[を] 起こしてしまった、

コンド。(B アーララララ) シー。サンガズノ ジューイジニジノ ヒガ
今度。(B あーらららら) うん。三月の 十一日の 日が

ツナミ アッタガラネ。コノヒガイ ウゲダノワネ。(B ハイ ハイ
津波[が] あったからね。この被害[を] 受けたのはね。(B はい はい

ハイ)

はい)

ニジューサンネンノ。コンド アノ サカビョーイン [6] ツレラレツテッテ。
二十三年の。 今度 あの 坂病院[に] 連れられて行って。

(B ン一) ニジューハジニジ イッテキマシタ。ソゴニ。(B ア一)

(B うん) 二十八日[間] 行ってきました。そこに。(B あ一)

ン一 ン一。(B ソーナノ) ン一。(B タイヘンダッタネ一)

うん うん。(B そうなの) うん。(B 大変だったね)

アドネ一、サカビョーインモネ一、ソノトリーネ一、(B ン一) ツナミゴソ
あとね、坂病院もね、その通りね、(B うん) 津波こそ

ウゲナガッタгент、(B ジシンデ) ズスンデ コワレッタワゲサワナー。
受けなかったけれど、(B 地震で) 地震で 壊れてたわけだわな。

(B デショーネ一) ソンデモ オレ イッタ ドギワ イグラカ

(B でしょうね) それでも 私[が] 行った ときは いくらか

カイゼンシタンダッテ。ナオシテクレダンダッテ。(B ン一 ン一 ン一)
改善したんだって。直してくれたんだって。(B うーん うん うん)

アドノ スタジワ ヤッパリ ヒドガッタッテ、ニューインシッタ ドギワ。
あとの 人たちは やっぱり ひどかったって、入院していた ときは。

(B ア一) ン一。(B ン一) ネ一。サンソ ツカウシトモ

(B あ一) うん。(B うーん) ね一。酸素[を] 使う人も

アルスペヤ。

いるでしょう。

038B : ソーナン、ソレナンダヨネ。(A ン一) デンキワ ナイシネ。(B ン一)
そうなの、それなんだよね。(A うん) 電気は 無いしね。(B うん)

ン一。

うーん。

039A : ソンデ ビョーインダガラネ、イグラガノ シズビ スエッカラシヤー。
それで 病院だからね、いくらかの 設備[を] 据えるからさ。

(B ンー ンー) ウジアダリ ソーユー シズビモ ナニモ
(B うーん うん) うちあたり そういう 設備も なにも

ナイガラワナー。ンー。ダッテネー、シンダッテ モドモドダナード
ないからね。 うん。だつてね、 死んだつて もともとだなど

オモツダガラワサー。アノネー
思ったからさ。 あのね

040B : トシ トツタ ヒトワ ソーユー、スグニネー ソーユーコトバリ
年 取った 人は そういう、すぐにね そういうことばかり

カンガエデシマウモンネー。(A ンー。ダッテワー) ドーシテモネー、
考えてしまうもんね。(A うん。だつてさ) どうしてもね、

メンドー カゲダグナイドガ。(A ダッテネー) ナンカネー ホントニ。
面倒[を] かけたくないとか。(A だつてね) なんかね 本当に。

041A : ンー。オライノ ジーチャンラ ログジューヨンサイデ
うん。私の家の じいちゃんなんて 六十四歳で

ナグナツタンダガラサー。(B アー) ソレ カンガエダラネー、トーモ
亡くなったんだからさ。(B あー) それ 考えたらね、 十[年]も

ヨゲー イギンダナード オモツダガラサー、(B イギマシター スカー。
余計[に] 生きるんだなと 思ったからさ、(B 生きました ですか。

ソングヨネー) シアワシェダード オモツテシャー。(B ホントダネー)
そうだよね) 幸せだと 思ってさ。(B 本当だね)

ホントニ。ンー。トニッカネ、ショ シル、シルサンドノ ゴハンガ
本当に。うん。とにかくね、×× 昼、昼三度の ご飯が

イッパイ ナンネノガ イジバン ヒドガツタネ。(B ンー
[お腹]いっぱい[に] ならないのが 一番 ひどかったね。(B うん

シー シー) シー。

うん うん) うん。

042B : ミズノ ナイノドネー。(A シー) ミズワ イジバンダッタヨネー。

水の 無いのとね。(A うん) 水は 一番だったよね。

043A : シー。ドッカラモ、ミンナシテ、チョーダイ ヨッタリシテ ヤラッタガラ、

うん。どこからも、みんなして、兄弟 四人して やられたから、

ドッカラモ ホチュースル (B シー シー) シ シテケラレルモノ

どこからも 補給する (B うん うん) × してもらうもの

ナインダモノ。(B シー シー) シー。ツラガッタヨ、ホンットニネ。

無いんだもの。(B うん うん) うん。辛かったよ、本当にね。

シー。デモネー、オラワー コクサイムラッテ ユードゴ、イードゴサ

うん。でもね、私は 国際村 [7] って いうところ、良いところに

ヒナンサシエラッタガラネー。(B シー) アドガラワネー。(B シー)

避難させられたからね。(B うん) あとからはね。(B うん)

シー。ソノツギ コゴエー ワダシガ キタドギ、

うん。その次 ここへ 私が 来た時、

コクサイムラガラ カゾ カゾグー コゴサ イテンシテチタ。

国際村から ×× 家族[が] ここに 移転してきた。

044B : シー シー。カセツ デキタドギワ。

うん うん。仮設[が] 出来たときは。

045A : ネー ミ (B シー) シー。ミッカマエ、ミッカ ナンダワッテ。

ねー × (B うん) うん。三日前、 三日[に] なるんだわって。

046B : アー ココニネ。(A シー) シー シー シー。

あー ここにね。(A うん) うん うん うん。

047A : ンダガラ ヤッパリ コクサイムラヨリ キタドギ、アー チーサクテモ
だから やっぱり 国際村から 来た時、 あー 小さくても

ジブンノ ウジダナード オモッテネー。(B ソー ソー ソー ソー)
自分の 家だなーと 思ってね。(B そう そう そう うん)

アリガダイガッタネ ホントニ。ソー。
ありがたかったね 本当に。 うん。

048B : ダッテ ヤスンデットギ、 ミンナ ダンボールダノ ナンダケットモ
だって [避難所で]休んでるとき、みんな 段ボールだの _____

(A ソー) カゴンデ。アレ カゴワナイホー カエッテ ヨカッタナト
(A ん) 囲んで。 あれ 囲わないほう[が] かえって 良かったなど

(A ソー) オモートキ アッタワネ。(A ソー)
(A うん) 思う時 あったわね。(A うん)

049A : ダガラネー、(B ソー) イマダニネー、(B ソー) トナリチンジョモネー、
だからね、(B うん) いまだにね、(B うん) 隣近所もね、

ヤッパリ ワガンネヨナ アリサマデス。(B ソー) ソー。
やっぱり 分からないような 有様です。(B うん) うん。

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（自由会話）注記

- 〔1〕 アッカリナ
アクアリーナという七ヶ浜にある健康スポーツセンターのこと。
- 〔2〕 イキラク
亦楽（いきらく）という、七ヶ浜半島中央部の地名。上記アクアリーナがある。
- 〔3〕 ミゼット
車の名前。
- 〔4〕 タイシン
七ヶ浜にある会社の名前だが、ここではその社宅を指している。
- 〔5〕 ミーライス
「姪っ子の家に」の意と思われる。続く「ミッコリアサ」も同様の意と考えられる。
- 〔6〕 サカビョーイン
塩竈市にある、坂総合病院のこと。
- 〔7〕 国際村
七ヶ浜国際村のこと。七ヶ浜町花淵浜にある文化施設。

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（自由会話）担当者

- 収録担当者 武田 拓（仙台高等専門学校准教授）
坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）
- 文字化担当者 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡七ヶ浜町 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡七ヶ浜町

収録日時 2012（平成24）年7月19日

収録場所 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	女	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[Bの遠い親戚]
B	男	1934（昭和9）年	（収録時78歳）	[Aの遠い親戚]

話者出身地

A	七ヶ浜町花渚浜（ハナブチハマ）
B	七ヶ浜町花渚浜（ハナブチハマ）

【場面設定会話】

話し手

A 女 1931 (昭和 6) 年 (収録時 81 歳)

B 男 1934 (昭和 9) 年 (収録時 78 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨー Bサン。キョーワ ドコエカ イグノ。

おはよう Bさん。きょうは どこへか 行くの？

002B : アー イク° イク° ートコモ ナイシ マズ サンポダネ、アサワ。

ああ ×× 行くところも ないし まず 散歩だね、朝は。

003A : アー ソーデスカ。

ああ そうですか。

004B : ン サンポシナガラ。ン。

うん 散歩しながら。うん。

005A : ンデ キオツケテネ。

それでは 気をつけてね。

006B : アイヨー。

あいよー。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アラ コンニチワー。キョーワ ナニオ シテマシタ。

あら こんにちは。きょうは 何を していました？

002B : ナニオ スルコトモ ナイシ、ドコサ イッタライガ アデモナイシ、タダ

何を することも ないし、どこへ 行ったらいいか あてもないし、ただ

ジブンデ アルツテキタダゲニ スギナイワナー。 ウーン。
自分で 歩いてきただけに 過ぎないわな。 うーん。

003 A : アー ソーナンダ。 アー。
ああ そうなんだ。 ああ。

004 B : タダ コゴニ チュージョー アルガラ (A アー) タマニ ヤキュー
ただ ここに 球場 あるから (A ああ) たまに 野球[が]

アルドギワ ミニ イッケントモ、 (A アー ソーネ) シー、 (A シー)
ある時は 観に 行くけれども、 (A ああ そうね) うん、 (A うん)

ソレダゲデス。 シー。
それだけです。 うん。

005 A : デモネ (B シー) コドモダジノネ、 (B シー) ウンドー ヤッテンノ
でもね (B うん) 子どもたちのね、 (B うん) 運動 やっているの

(B シー) ミレバネ、キモズモネ、ナゴヤカ ナルガラネ。
(B うん) 見ればね、気持ちもね、和やか[に] なるからね。

006 B : ン。 ナンボガ ハレマス。
うん。 いくらか [気持ち]が 晴れます。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 A : オバンデスー。 (B シー シー) Bサン イマカラ ドコニ イクノー。
こんばんは。 (B うん うん) Bさん 今から どこに 行くの？

002 B : ン。 チョット ソノヘンマデ ブラブラッテ サンボシナガラ、
うん。 ちょっと そのへんまで ブラブラと 散歩しながら、

ハラ ヘラスニデモ イツテクルガナード。 ン。
腹[を] 減らしにでも 行ってくるかなあと。 うん。

003A : アー ソーカ ソーナング。

ああ そうか そうなんだ。

004B : フロモ ハヤイス、マダ ゴハン クーノガ
風呂も 早いし、 また ご飯[を] 食べるのが

005A : ンデ キオツケテ アルツテネ。

それでは 気をつけて 歩いてね。

006B : アイ アイ ワカリマシタ。シー。

あい あい わかりました。うん。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : Bサン アツクテ ヒドイネー。ダイジョーブー。

Bさん 暑くて ひどいね。大丈夫？

002B : シー ダイジョブダネー、コノ カラダノ テードダラバ。 (A アー ソーカ)
うん 大丈夫だね、 この 体の 程度ならば。 (A あー そうか)

ン ガンバリマース、ホントニ。

うん 頑張ります、 本当に。

003A : アツサ アツサニ マゲナイデネー。 (B シー ソレ) キオツケテ
××× 暑さに 負けないでね。 (B うん それ) 気をつけて

ハダラグンダヨ。

働くんだよ。

004B : アイヨ ワカリマシタ。シー シー。コンゴトモ キオツケデ ヤ
あいよ わかりました。うん うん。今後とも 気をつけて ×

ガンバリマスカラ、シー。

頑張りますから、 うん。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : Bサン オシゴト ヤスンデ イップグツゲダラワ。(B ン ンダネ)
Bさん お仕事 休んで 一服したら? (B うん そうだね)

ホラ オチャデモ イーシ、(B ン) オカシデモ イーシ、ホラ ホラ
ほら お茶でも いいし、(B うん) お菓子でも いいし、ほら ほら

コレタベテ。(B ン) ヤスミナサイ。
これ食べて。(B うん) 休みなさい。

002B : ンダネ、ソレモ アリガタイネー。ンデ ゴツツォ ナリマスカラ。
そうだね、それも ありがたいね。それでは ご馳走[に] なりますから。

チョット オセワナッテイキ° マス。
ちょっと お世話になっていきます。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : ゴメンクダサーイ Bサン オリマスカー。
ごめんください Bさん おりますか?

002B : アイ イダガラ アカ° ッテ オジャ ノマイーン。
あい 居るから あがって お茶 飲みなさい。

003A : アーイ。(B ン) ドーモー。
あーい。(B うん) どうも。

004B : ナニ、バーチャンモ イダス、ユックリシテカ° インッテ。
なに、ばあちゃんも 居るし、ゆっくりしていきなさいって。

005A : ジャ (B ン) オジャマシマスネー。(B ン ン)
じゃあ (B うん) お邪魔しますね。(B うん うん)

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : Bサン アノ、スコップ ツカウ シゴド アルンダゲドモ、カシテクレナイ。
Bさん あの、スコップ 使う 仕事[が] あるんだけど、貸してくれない？

002B : アイ ドーゾ ツカッテチョーダイ。 ンー ンー ンー ンー。
はい どうぞ 使っちゃおうだい。 うん うん うん うん。

003A : ンデ オカリシマース。
それでは お借りします。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : アー タスカリマシター。スコップ カリデ ホントニ ヨカッタデース。
ああ 助かりました。 スコップ[を] 借りて 本当に 良かったです。

ドーモ アリガトーネ。
どうも ありがとうね。

002B : アー チーサナモノデモ ツ ヨーケン デギダモンタラ イガッタネ。 ンー
ああ 小さなものでも × 用件[が] 出来たものなら よかったね。 うん

ンー ンー。
うん うん。

003A : ンー ソーデス。アリガトーゴザイマース。
うん そうです。ありがとうございます。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : Bサン (B ンー) カリタモノ コワシテシマッテ ドーシマショー。
Bさん (B うん) 借りたもの 壊してしまっテ どうしましょう。

002B : イヤ ワッザワザ コワシタワゲデナイガラ シカダナイッテ。
いや わざわざ 壊したわけではないから 仕方ないって。

ツカッテモラッタダシ、ワンジャニ コワシタワゲデナイガラ イーヨ。
使ってもらったんだし、わざと 壊したわけでないから いいよ。

シー シー シー。
うん うん うん。

003A : すみません。 デモ ナニカト キノドクナンデスケド。
すみませんね。 でも 何かと 気の毒なんですけど。

004B : シー ア イヤイヤ ホンナゴド ス キノドグニシナイデ。
うん ああ いやいや そんなこと × 気の毒にしないで。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : Bサン スコップ カリタノ コワレデスマッタノ、ドーショ。ー。
Bさん スコップ 借りたの 壊れてしまったの、 どうしよう。

002B : ナーндаイ、カリデイッタモノ ナシテ コワシテ ヨゴシタ。ン。 ン。
なんだい、 借りていったもの どうして 壊して 寄こした。うん。うん。

003A : アンマリ チカラガ ハイッタノデ (B ウアー)
あんまり 力が 入ったので (B ×××)

コワレデシマッタダゲドモ。
壊れてしまったんだけども。

004B : ナオス ナオステ ヨコスノガ ホントデネーガト。 シー。
××× 直して 寄こすのが 本当でないかと[思うよ]。 うん。

005A : ンデ アダラスク カッテヤルカラネ。 {笑}
それでは 新しく 買ってやるからね。 {笑}

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBをお出かけに誘う際のやりとり。

001A : Bサン キョーワ オデカゲスタインダケド、イッショニイカナイ。

Bさん 今日は お出かけしたいんだけど、一緒に行かない？

002B : アー チョー カンゾグト イク° ヨテー アルガラ イッショニ

ああ 今日 家族と 行く 予定 あるから 一緒に

イカ° レナイナー。 シー シー。

行けないなあ。 うん うん。

003A : アー ザンネンダネー。(B ヘイヨ シー) ンデ アトデネ。

ああ 残念だね。(B はいよ うん) それでは 後でね。

004B : ハイヨ。マタ ソノドギ オネガイシマス。

はいよ。また その時 お願いします。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : ゴメンクダサーイ。Bサン。

ごめんください。 Bさん。

002B : アイヨー。

あいよー。

003A : カラダワ ドーオ。

身体は どう？

004B : アー チョー チョースイーネー。コックリ オジャデモ ノンデ。 シー シー。

ああ 今日 調子いいね。 ゆっくり お茶でも 飲んで。 うん うん。

005A : アリガトー。チョーシイードギワ イーヨネー。

ありがとう。調子いい時は いいよね。

006B : シー シー (A ン) ンダネー。
うん うん (A うん) そうだね。

007A : ンジャ イッショニ ノミマスカ。
それでは 一緒に 飲みますか。

008B : ヒョ ヒョーズギナ モンダガラ、カラダモネ。
×× 正直な ものだから、身体もね。

009A : ンデ オジヤマシテイーイ。
それでは お邪魔していい?

010B : イーヨ。
いいよ。

011A : アー ソーデスカ。
ああ そうですか。

012B : ユックリ オジャノンデー。
ゆっくり お茶飲んで。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : Bサン カラダ ドーデスカ。
Bさん 身体 どうですか。

002B : アー チョーワ チョースワリーナー。ホレデモ ヨガッタラ オカーサン
ああ 今日は 調子悪いな。 それでも よかったら お母さん

イダガラ オジャデモ ノンデイカ イン。ン。
居るから お茶でも 飲んでいきなさい。うん。

003A : Bサン ノネ (B シー シー シー) カラダガ シンパイデ キタンダゲド、
Bさんのね (B うん うん うん) 身体が 心配で 来たんだけど、

チョーシワルイノ (B ン) ヒドイヨネー。

調子悪いの (B うん) ひどいよね。

004 B : ン。ンダゲッド カーチャン イッカラ、オレノ チョース ワルイダッテ
うん。だけど かあちゃん[が] いるから、俺の 調子 悪くても

(A フーンダネ) ユーズンダゲレバ [1] オチャノンデカ° インツテ。ン。

(A そうだね) 友人だったら お茶飲んでいきなさいって。うん。

005 A : ンデ オジヤマシテ イーデスカ。

それでは お邪魔して いいですか。

006 B : ンエ。アイヨ。ユックリド。

ええ。あいよ。ゆっくりと。

007 A : ハイハイ (B ン ン) アリガトゴザイマース。

はいはい (B うん うん) ありがとうございます。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」
というときのやりとり。 [2]

001 B : オバチャー ン チョー チョースワルイガラ、 (A ン) オバチャン コ
おばちゃん 今日 調子悪いから、 (A うん) おばちゃん ×

コーユー シゴト アンダゲット、チョット テズダッテ。

こういう 仕事 あるんだけど、ちょっと 手伝って。

002 A : アー ソーカ ソーユーン ダッタラ (B ン) テツダッテアゲルヨ。ドラドレ
ああ そうか そういうの だったら (B うん) 手伝ってあげるよ。 どれどれ

ドンナシゴト。

どんな仕事?

003 B : ン。 マズ ソゴニ アルモノオ、ワダシデ デギナイガラ、チョット
うん。まず そこに あるものを、私で[は] できないから、ちょっと

カダズグテモラッテモ イーンダナー。

片付けてもらっても いいんだな。

004A : ハイハイ。(B ン) ンデ テツダッテ (B ン) アゲマスヨ。

はいはい。(B うん) それでは 手伝って (B うん) あげますよ。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを
制止してどのようにいうか。

001A : Bサン ココニ アルモノ、 コレ ナゲテイーイ。コレモ ナゲテイー。

Bさん ここに あるもの、 これ 捨てていい? これも 捨てていい?

002B : ダメダヨ、 イママデ トッテダモンダカラ ナゲデワ ダメダヨー。

だめだよ、 今まで 取っていたものだから 捨てては だめだよ。

003A : アー ソーデスカ。(B ン) ソレジャ ココ (B ン)

ああ そうですか。(B うん) それじゃ ここ[に] (B うん)

カザッテオキマスヨ。(B ン)

飾っておきますよ。(B うん)

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 ユーズンダゲレバ

名詞+ダゲレバで「～だったら」という仮定条件（前に述べた事柄を仮定して、後の事柄に続ける表現形式）となる。

〔2〕 申し出ではなく、依頼－受託の場面であるが、採用した。

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 武田 拓（仙台高等専門学校准教授）
坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）

文字化担当者 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

【 宮城県宮城郡七ヶ浜町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な七ヶ浜町方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは簡単に言えば、単語の頭以外の位置にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になり、濁って聞こえることです。専門的に言えば、母音に挟まれた無声子音/k//t/が有声子音/g//d/になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば「柿」は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもかなりよく保たれているようです。例えば、カ行音については、「ナゼガ」（なぜか）、「イギンダナー」（生きるんだなあ）、「タイグカン」（体育館）、「ウゲマシタ」（受けました）、「オゴシタンダナ」（起こしたんだな）、また、タ行音については、「ナニカダル」（何を言う）、「イジバン」（一番）、「カリッタヤズ」（借りていたやつ）、「アノドギワ」（あの時は）、といった例が聞かれます。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外の位置にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルとなり、「上げる」と混同してしまいそうです。しかし、「上げる」のほうは「げ」が

鼻濁音、すなわち鼻にかかった濁音（「ケ°」のように半濁点で表記する）となり、

「開ける」=アゲル

「上げる」=アケ°ル

で両者の混同は起こりません。このように、「げ」が鼻にかかる現象を鼻音化と言います。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「アカ°ッテ」（上がって）のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。そうした問題を含むものの、文字化資料では一律に鼻濁音で表記してあります。

以上のガ行に加えて、同じようにダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）。

例) ダ行：肌 → ハンダ
 ザ行：風 → カンゼ
 バ行：首 → クンビ

今回の会話では「カンゾグ」（家族）が聞かれました。以前は、七ヶ浜町でもこうした発音が行われていたものと思われませんが、現在は衰微が著しく、今回の話者たちからはほとんど聞かれませんでした。

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞これは「口蓋化」と呼ばれる現象の一種です。この場合の口蓋化とは、キの発音をするときに、舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を指します。

例) 機械（きかい） → チカイ
 救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ
 今日（きょう） → チョー

上の例では、「チ」と表記しましたが、七ヶ浜町では完全にチになるのではなく、キのあとにシの発音を添えるような微妙な音になることが多いようです。今回の会話集の話者たちにもこの特徴は見られ、「チメラッテネ」（決められてね）、「イテンシテチタ」（移転してきた）、「ホチュースル」（補給する）のような例が聞かれます。

【母音】

▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

今回の会話集の話者たちからは、この特徴は聞かれませんでした。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言います。宮城県ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」のように発音され、これらは区別がありません。いわゆるズーズー弁と呼ばれる所以です。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

今回の会話集の話者たちからも、「バシ」（バス）、「ソノトスニ」（その年に）、「ズカン」（時間）などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

¶ アクセント

七ヶ浜町のアクセントは、語によってアクセントの型をもっていたり、もっていなかったりする曖昧アクセントである。

☞有型アクセントの地域では、「箸」と「橋」を声に出したときに、ハとシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない（＝型が無い）ため、区別されません。

この地域は、有型アクセントの地域と無型アクセントの地域の境界に位置するため、語によってその型をもっていたり、もっていなかったりします。

例えば、低い発音を細い文字、高い発音を太い文字で表すと、「花」は「ハナ」、「鼻」は「ハナ」という区別がありますが、「箸」と「橋」は区別がありません。

Ⅱ 文 法

【格助詞】

▼「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)

目的語 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「フロ アルスペ」(風呂があるでしょう)、「ノコーソグ オゴシタンダナ」(脑梗塞を起こしたんだな)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

▼「を」にあたる格の格表示

「を」格相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることがある。

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「オレバ オイデゲワド」(私を置いて行けよと)、「オヤバ オガンネンダッチャ」(親を置いていけないんだね)などのように、「バ」を用いる発話が聞かれました。

▼「サ」

共通語の「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところも多くあります。

例) アソゴサ イッテ (あそこへ行って)
ヤマサ イッテモ (山に行っても)
クルマサ ジューニニン イレデヨ (車に12人入れてさ)

ただし、「サ」は共通語の「に」ほど広い意味をもっているわけではありません。微妙なのは存在の場所を表す用法で、「ココニ アルモノ」(ここにあるもの)のように「サ」を使わず「ニ」を用いた発話例が見られる一方で、「ツグエノ ウエサ クスリダゲ オイッタダナー」(机の上に菓だけ置いていたんだな)のように、「置いた上でそこにある」という意味になると「サ」を使った発話例が聞かれます。

【接続助詞】

▼「ガラ」

共通語の「から」に当たる接続助詞(順接既定条件)に「ガラ」がある。

☞「ガラ」の用法は共通語の「から」とほぼ同じと思われます。共通語同様、次のように、終助詞的に使用されることもあります。

例) イギンダナード オモッタガラサー。(生きるんだなあと思ったからさ。)
ノーコーソグ オコシテルガラ (脳梗塞を起こしているから)

【接続詞】

▼「ンダガラ」「ンデ」「ンダゲッド」

共通語の「だから」にあたる「ンダガラ」、「それでは」にあたる「ンデ」、「だけど」にあたる「ンダゲッド」などが用いられる。

例) ンダガラ ヤッパリ (だからやっぱり)
ンデ キオツケテネー (それでは気をつけてね)
イツモ キッタダゲントモサー (いつも来ていたんだけどもさ)

☞今回の会話集には現れていませんが、「ンダガラ(ホンダガラ、ダガラ)」は、単独で相づちのようにも使われ、相手の言ったことへの強い同意・共感を表す用法もあ

ります。

例) ー今日、暑イゴド (今日は暑いね)
ーンダガラ ((本当に) そうだね)

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)	<推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)	<意志>
お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)	<確認>
みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)	<勧誘>

今回の会話集では、「ヒドカッタベ」(ひどかったでしょう)、「アシモ ナオンネベガラワ」(足も治らないだろうからさ)などのように推量する用法が聞かれました。

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく(この場合は「タ」が用いられます)、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使われやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

た。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田 (2011) より引用>

今回の会話集では、「バーチャンモ イダス」(ばあちゃんも居るし) などのような例が聞かれました。

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) オヤバ オガンネンダッチャ (親を置いて行けないんだよね)

オラエニ サンダイ アッタッチャー (私の家に三台あったでしょう?)

【敬語】

▼「ス」「イン」

敬意を表す形式として「ス」「イン」などがある。

☞共通語との対応を考えると、大まかに言って、「ス」は「です」「ます」などにあたります。「イン」は相手に丁寧に働きかける言い方で、柔らかい印象を与えます。

例) X2チャンノ ウジサ ヒナン シタノスカ (X2ちゃんの家避難したのですか?)

ユックリ シテカ° インッテ (ゆっくりしていきなさいって)

【参考文献】

- 加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210
- 加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 国立国語研究所編 (1981)『国立国語研究所資料集10 方言談話資料5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版
- 佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 佐藤亮一 (1963) 「宮城県における多型アクセントの南限—主として二音節名詞について—」『文芸研究』45 (『日本列島方言叢書3 東北方言考②』ゆまに書房に再録)
- 竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救う—3.11被災地からの提言—』ひつじ書房

た が じょう し
多 賀 城 市



多賀城碑（壺の碑）
（写真提供：宮城県観光課）



宮城県多賀城市概要

①多賀城市の概観

多賀城市は宮城県の中央部にあり、仙台市と塩竈市に隣接している。古くは陸奥の国の国府が置かれ、政治・軍事の拠点として活用された。その後も時代ごとに栄え、市の東部や北部に、多くの史跡が点在する。その史跡の一つ、寶國寺（ほうこくじ）には、どのような大波も越えることがない、永遠の象徴として歌人の歌にも詠まれる末の松山が存在する。1971年に仙台港が開港されて以降は、仙台港基幹工業地帯として著しく発展している。また、仙台中心部からの交通アクセスがよく、仙台市のベッドタウンとしての性格も持つ。

多賀城市の主たる産業は工業である。終戦後、海軍工廠跡地に多くの工場が誘致されるようになり、仙台港が開港してからは、工業立地にさらに拍車がかかった。

②収録地点について

今回の話者は、多賀城市市川および高崎出身の方々である。市川は市の北部、塩釜市・利府町と接するあたりに位置し、多数の神社が存在する地域である。高崎はほぼ市の真ん中に位置し、市街地に近い。収録は、市川の話者宅で行った。

③東日本大震災による多賀城市の被害

3月11日、大津波は砂押川の南側の広い地域を襲って市の3分の1に被害が及んだ。市内を横断する幹線道路、国道45号と県道仙台塩釜線では、地震のために大渋滞が起こった。マンションや大型店などの建造物に囲まれ海が見えない所に、濁流は不意に襲い掛かり、人と車を飲み込んだ。津波による死者は、国道45号と産業道路沿いに集中していたという。

表1 多賀城市の人的・住宅被害

多賀城市 人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明 の対人口比	全壊	半壊
63,060人	188人	1人	0.30%	1,687棟	3,255棟

表2 多賀城市の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	17,144人	27.2%
世帯	6,648世帯	27.6%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.187～192に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
河北新報ニュース「証言／焦点 3.11大震災（2011/05/13）」（http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20110516_02.htm）（2013/02/23アクセス）

被災地方言会話集

— 宮城県多賀城市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県多賀城市

収録日時 2012（平成24）年7月21日

収録場所 宮城県多賀城市市川（話者A・B宅）

話題 【方言のこと】

話者

A	女	1937（昭和12）年	（収録時75歳）	[Bの妻]
B	男	1930（昭和5）年	（収録時82歳）	[Aの夫]

話者出身地

A	多賀城市高崎（タカサキ）※7歳まで東京都大田区馬込
B	多賀城市市川（イチカワ）

【方言のこと】

話し手

A 女 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

B 男 1930 (昭和 5) 年 (収録時 82 歳)

001A : ホーケ° ンツテ、 ダカラ アレダヨネ シタシミヤスイシネー マー、ズット
方言って、 だから あれだよね 親しみやすいしね まー、ずっと

ツズイテユクコトダト オモウヨネー。 ソシテ ナオ ナオラナイシネ。
続いてゆくことだと 思うよね。 そして ×× 直らないしね。

ハ ホーケ° ンツテユーカ ソーユーコトバツテ ウマレタト、
× 方言っていうか そういう言葉って 生まれた×、

ウマレタトキカラ ツカッテル、 コトバダカラー、 ヤッパリ ネー、
生まれた時から 使っている、 言葉だから、 やっぱり ね、

ソコノトチニ スム、 スンデルイジョーワ、 タエ ダイジダツテユーカネ、
その土地に 住む、 住んでいる以上は、 ×× 大事だっていうかね、

ソーユー ホーケ° ンワ ダイジニ スルベキダシー、 ナンテユーノカナー、
そういう 方言は 大事に するべきだし、 何て言うのかな、

ワスレラレテワ コマル、 ネー ホーケ° ンテ ネー。 シタシミヤスイシー、
忘れられては 困る、 ね 方言って ね。 親しみやすいし、

ナンカ、 ソレコソ ブンカダサネー。 ニホンノ ブンカ。 {笑}
何か、 それこそ 文化だよな。 日本の 文化。 {笑}

002B : ウーン。 ムガシワネー、 (A ムカシ ウーン) ンツト
ううん。 昔はね、 (A 昔 うーん) とても

シンドカッタンネーガナー (A ホーケ° ン) ホーケ° ンツテノワネー。
たいへんだったんじゃないかな (A 方言) 方言というものはね。

003A : ソーダヨネー ソシテ。
そうだよね そして。

004B : ワレワレ アノ トーキョーサ イク° ト ワラワレデダングワ。
我々 あの 東京へ 行くと 笑われてたんだわ。

ズーズーベンデ シャベツカラネー。 (A ウン)
ズーズー弁で 喋るからね。 (A うん)

ホドント ワカンナイッテ ユーワケデ。 ウーン。
ほとんど 分からないって いう訳で。 ううん。

005A : ヤッパ ホー
やっぱ ほ

006B : ダケドー
だけど

007A : ホーケ° ンテ ホーケンテキナ アレモ アルンダヨネ。 ソシテ、
方言って 封建的な あれも あるんだよね。 そして、

(B ウーン) アタシタチ ホラ ムカシ、
(B ううん) 私達 [は] ほら 昔、

コノヘンノ オシュートメサンニ ユ ユワレタンダ、
この辺の お姑さんに × 言われたんだ、

ヨクネー、 オ オバーサンニネー。
度々ね、 × おばあさんにね。

ナクナッタ オバーサンニ。 (B ウーン)
亡くなった おばあさんに。 (B ううん)

コノ、 アノ ヨメタチ、 コノヘン オーイシー、
この、 あの 嫁達 [が]、 この辺 [は] 多いし、

オーバーサンタチ オシュートメサンタチモ ホラ、 リッパナ、 マーネー、
おばあさん達 お姑さん達も ほら、 立派な、 まあねえ、

アレデショ ハタライテキテー、 ネー ソレコソ
あれでしょ 働いてきて、 ね それこそ

タイヘンナジダイ イキテキタヒトタジダガラ、 アタマ アカ°ンナイワケヨネー、
大変な時代 [を] 生きてきた人達だから、 頭 [が] 上がらないわけよね、

ヨメーモ ネ、 ソースト、
嫁も ね、 そうすると、

コノ ガキコメラ [1] ッテ イワレタンダヨネ、 アンタ。
「この ガキコメラ」って 言われたんだよね、 あんた。

アン、 アンダノー オ オ オヤ、 オーバーサンダノニ。
××、 あんたの × × 親、 おばあさんなんかに。

コノヘンノ オーバーサンタチ ミンナネー ヨメーサンタチバネー、
この辺の おばあさん達 [は] 皆ね 嫁さん達をね、

コノ ガキコメラ ッテ イワレタネ、
「この ガキコメラ」って 言われたね、

ガキコ、 ガキコッテ。 (B ガキコッテガヤ)
ガキコ、 ガキコって。 (B ガキコってかい)

ガキコッテ、 シッ、 ワカンナイデショ、 ガキ、 ガキッテ、 ガキッテ
ガキコって、 ××、 分からないでしょ、 餓鬼、 餓鬼って、 餓鬼って

ヨク オトコノコノ コトマ、 コトバダッタノカス、 コドモ ッテイミ。
よく 男の子の こと×、 言葉だったのか×、 子供 っていう意味。

008B : オンナノコデショ ガキコツツーノ。
女の子でしょ ガキコっていうの [は] 。

009A : ア オンナノコ。 ガキコッテ イッタノカシラ。 (B ウン)
あ 女の子。 ガキコって 言ったのかしら。 (B ううん)

ナンカ、 ホントノイミワー ガキコッテ コドモノコトダヨネー。
何か、 本当の意味は ガキコって 子供のことだよね。

(B ウン) ソレオ。

(B うん) それを。

010B : ダケドー、 (A ワルイ)
だけど、 (A 悪い)

ヨメオ ヨメーク° レーナ ン マデワ ガキコツツタンダナ。
嫁を 嫁ぐらいな × までは ガキコって 言ったんだな。

011A : ガキコメラッテ (B ウン) ツケラレテ。 {笑}
ガキコメラって (B ううん) つけられて。 {笑}

012B : ガ ガ ガキコメラツツーノワ
× × ガキコメラって いうのは

013A : ダッテ、 ソレガ、 スコ° イ
だって、 それが、 すごい

014B : ガキコラ ツツーイミ。
ガキコ達 って いう意味。

015A : ガキコメラッテ。
ガキコメラって。

016B : ラ ツツーイミ。 ガキコラ。
達 って いう意味。 ガキコ達。

017A : スコ° イ、 ダッテネ、 ワルイイミナンダヨネ。
すごい、 だってね、 悪い意味なんだよね。

ワルイイミ、 (B ワルイー) ニクラシー。
悪い意味、 (B 悪い) 憎らしい。

ニクラシーイミデ イワレタノ。 (B ウンウンウン) ソレデ
憎らしい意味で 言われたの。 (B うんうんうん) それで

018B : ダケド、カワイードゴモ アツタンデネーガヤ。
だけど、可愛いところも あったんじゃないかな。

019A : ダケドー、アー (B ガキコメラツツーノ)
だけど、あ (B ガキコメラっていうの [は])

ワタシラ ヨメーコ、ヨメコ° タチ、ヨメコ° ッテワ ユツテタンダヨネ。
私達 嫁さん、嫁さん達、ヨメゴっては 言ってたんだよね。

シテ ヨメコ° タチワ ソーワ ウケトンナインダヨネ、
そして 嫁さん達は そうは 受け取らないんだよね、

コノ ガキコメラッテ ユワレットサー、{笑}
「この ガキコメラ」って 言われるとさ、{笑}

ワルクチ ユワレテルヨーニ オモツテタサ、
悪口 [を] 言われているように 思っていたさ、

ダカラ ズイブン コノヘンワ ホーケンテキダナー、
だから 随分 この辺は 封建的だな [と]、

コノヘン チクワナー、タガジョーノ コノ {笑} コノチーキワ
この辺 [の] 地区はな、多賀城の この {笑} この地域は、

トクベツ ホー {笑} イ イナカツ {笑} ユツテタンダヨネー、
特別 × {笑} × 田舎 [って] {笑} 言ってたんだよね、

ヨメ (B ウーン) タチワネー、ミンナネー。 (B ウーン)
嫁 (B ううん) 達はね、皆ね。 (B ううん)

ミンナ イマー ソーユーヒトタチ
皆 今は そういう人達 [は]

ナクナッテシマッタカラー。 {笑} (B ウーン) ネ。
亡くなってしまったから。 {笑} (B ううん) ね。

イ タマニ オモイデバナシニ ユッテルヨ、 ワ ヨメタチ ワタシタチ。
× 偶に 思い出話に 話してるよ、 × 嫁達 私達 [は]。

アーイナ オーバーサンタチニ ヨメコ°
あんな おばあさん達に 嫁さん [は]

コノガキコメラッテ ユワレタッチャナヤーッテ。
「このガキコメラ」って 言われたよねって。

フツーニネ ナンニモ ワルイコトシナイデ ハ モクモクト
普通にね 何にも 悪い事 [も] しないで × 黙々と

ハタ ハタライテバツカリイタノニ、
×× 働いてばかりいたのに、

ホラ カセケ° カセケ° テ コノガキコメラッテ {笑}。
ほら 働け 働けて 「このガキコメラ」って {笑}。

020 B : カンバネヤミ [2] ツツーンダ。
カバネヤミ っていうんだ。

021 A : カ ソーダネ カバネ (B カ) ヤミダノ、 (B カンバネ)
× そうだね カバネ (B ×) ヤミだの、 (B カバネ)

ガキコメラッテ。
ガキコメラって。

022 B : カンバネシギジリ [3] ツーノ。 カンバネヤミツツーンダネ。
カバネヒキズリ っていうの。 カバネヤミっていうんだね。

(A ス ネ) {笑}

(A × ね) {笑}

023A : ソソナコトユワレテネ、 ス スコ° カッタヨネ。

そんなこと [を] 言われてね、 × 凄かったよね。

デモネ アノー ナンツーンダ、 (B ンヤー ホーケ° ン) イマ

でもね あの 何て言うんだ、 (B いや 方言) 今 [は]

(B ン ウーン) イナクナッタカラ ソーユッテルヒトタチ。

(B ん ううん) 居なくなったから そう言っている人達 [は]。

024B : ダイブー (A ヨクナツ) ナグナツタンダナー、 (A ナクナッテルカシラ)

だいぶ (A ××××) 無くなったんだな、 (A 無くなってるかしら)

ワスレラッテアンダナー。

忘れられているんだな。

025A : ワス ウーン ソーカモネー。 (B ウーン) ダゲッドモ、

×× ううん そうかもね。 (B ううん) だけれども、

026B : ネー。

ね。

027A : ヤッパリ ワ イマノ ワカイヒトタチ ネー、

やっぱり × 今の 若い人たち [は] ね、

ナンダロ、 アッチコッチカラ ハイッテキテルカラネー、 ココノ。

何だろう、 あちこちから 入ってきてるからね、 この。

028B : イマノ ワガイヒトタチワ ホドント

今の 若い人たちは ほとんど

ズーズーベン ツカワナグナッダシネー。 (A ウーン。)

ズーズー弁 [を] 使わなくなったしね。 (A ううん。)

シンカンセンカ° (A イロンナ トチカラ ハイッテキテルカラ)
新幹線が (A 様々な 土地から 入ってきてるから)

ハヤグナッテシマッテ、 {笑}
速くなってしまっテ、 {笑}

トーキョートト アノー、ホ ズーズーベンワ
東京都と あの、× ズーズー弁は

ナグナッテクル、デナイスカワ、 イマカラ。
無くなってくる、で [は] ないですか、今から。

029 A : テューカ ホーケ° ンテ (B ウーン) ユーカネー、ドーイウ、
というか 方言て (B ううん) いうかね、どういう、

ソーダネ ホーケ° ンネー (B ウーン) アンマリ ツカ キカナイネー。
そうだね 方言ね (B ううん) あまり ×× 聞かないね。

030 B : オーソラゲー、ウーン ホーケ° ンカ° ナグナッテ、
おそらく、 ううん 方言が 無くなって、

ミナ、 ウーン ヒョージュンコ° ン ナンデナイスカー。
全部、 ううん 標準語に なるんではないですか。

031 A : アレ ギンナカ° ス [4] ダノッテ ユツタンダヨネ ムカシネ。
あれ ギンナガシ とかって 言ったんだよね 昔ね。

(B ウーン) ホーケ° ン。 ホーケ° ンスカヤ。

(B ううん) 方言。 方言ですか。

032 B : ジンナカ° ス ツツタンダナー。 (A ホ ホーケ° ン)
ギンナガシ っテ言ったんだな。 (A × 方言)

ジンナカ° ス ツタノワ ジンザ、ギンザ、 トーキョーノ
ギンナガシ っテ言ったのは 銀座、銀座、 東京の

ギンザオ ナカ° ス (A アー) ツーイミデネーノカイ。

銀座を 流す (A ああ) っていう意味ではないのかい。

033A : ア ソーイウイミカ°。(B ウン) アルンダネー。

あ そうの意味が。 (B うん) あるんだね。

034B : ムカシワ アー トーホグベンデ、

昔は ×× 東北弁で、

ジンナカ° スヤ コノー ジンガス、 ジンナカ° スヤロー コノー、

ギンナガシ× この ××××、 ギンナガシ野郎 この、

(A ッテユート ソレモ) ハイカラノ、

(A と言うと それも) ハイカラな、

(A ソレ ワルクチニ キコエル) ワガイオドゴ。

(A それ 悪口に 聞こえる) 若い男。

035A : ネー。(B ウン) ワルクチノ コトバツツタッテ _____。

ね。(B うん) 悪口の 言葉っていったって _____。

036B : ダケドー ナンダカ コノアイダ ラジオデ ユツテタツケ、

だけど 何だか この間 ラジオで 言ってたけど、

ギンザオ ナカ° スコドオ ギンナカ° ス ツツーンデヤ。

銀座を 流すことを ギンナガシ っていうんだよ。

037A : アー ダカラ ギン、 ソーユーイミアイカラ キタノカシラネー。 {笑}

あ だから ××、 そういう意味合いから 来たのかしらね。 {笑}

ダケドー、 (B ウン) オツテ

だけど、 (B うん) ×××

ダテオトコトカッテユーイミモ アルンダッテ。(B アー。 ダテサンノネ)

伊達男とかっていう意味も あるんだって。(B ああ。 伊達さんのね)

多賀城市 自由会話

ダテ、ダテオトコ、 イロオトコトカ。 (B ウーン)
伊達、伊達男、 色男とか。 (B ううん)

シヤ シヤレ、 (B ダイ ダテサンガ) シヤレモノ。
× 洒落、 (B ×× 伊達さんが) 洒落者。

(B アー シヤレモノ) {笑}

(B ああ 洒落者) {笑}

038 B : シヤレオドゴ、 シヤレオドゴ、 ジンナカ° スッスーンダネー。
洒落男、 洒落男、 ギンナカ° シって言うんだね。

039 A : アト イマ、 ホラ ゴザインナンテ イワナイヨネ。
あと 今 [は]、ほら ゴザインなんて 言わないよね。

ユーヒト イネーワネー。 (B ウーン)

言う人 いないよね。 (B ううん)

イラッシャイッテノ、 ゴザイン ッテ ャッテタッチャ、ヨクネー。
「いらっしやい」っていうの、ゴザイン って 言ってたよね、よくね。

040 B : ゴザインッテ ャッテタンネー。 (A ウーン)

ゴザインって 言ってたよね。 (A ううん)

041 A : オライサ ゴザイン [5] トカネ。 (B ウン)

「オライサ ゴザイン」 とかね。 (B うん)

042 B : ウーン。

ううん。

043 A : メンタマ {笑} メンタマッテユーコトバ ホーケ° ンカシラ。

目ん玉 {笑} 目ん玉っていう言葉 [は] 方言かしら。

044 B : メンタマツツーノワ、{笑} ホーケ° ンデネーツチャ、

目ん玉っていうのは、{笑} 方言ではないだろ、

マナグツツーンダイッチャ ホーケ°ン。

マナグっていうんだよ 方言 [では]。

(A アー ダカラ。 ホーケ°ンジャナイ) マナグ。

(A ああ そうだよね。方言ではない) マナグ。

045A : アー マナクカ° ホーケ°ン。 {笑}

ああ マナクが 方言。 {笑}

宮城県多賀城市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ガキコメラ

女の子の卑称として用いられることが多い。

〔2〕 カンバネヤミ

「カバネ」は東北方言で「体」の意味。「ヤミ」は「病み」。仕事をせずに怠けてばかりいる人のことをこう呼ぶ。

〔3〕 カンバネシギジリ

「カンバネヤミ」と同義。「シギジリ」は「引き摺り」。

〔4〕 ギンナカ° ス

「ギンナガシ（銀流し）」は過度におしゃれな人、あるいは見栄っ張りのこと。『日本方言大辞典』によれば、もともと、水銀に砥粉を混ぜ、金属に擦り付けて銀色にすることを言ったが、はがれやすいことから上記のような意味が生じたと考えられている。

〔5〕 オライサ ゴザイーン

「オライ」は「私の家」の意味。「ゴザイン」は「いらっしゃい」にあたる。

宮城県多賀城市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
町田 隆弘（東北大学文学部3年）
楡引祐希子（追手門学院大学講師）

文字化担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
町田 隆弘（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

— 宮城県多賀城市 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県多賀城市

収録日時 2012（平成24）年7月21日

収録場所 宮城県多賀城市市川（話者A・B宅）

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	女	1937（昭和12）年	（収録時75歳）	[Bの妻]
B	男	1930（昭和5）年	（収録時82歳）	[Aの夫]

話者出身地

A	多賀城市高崎（たかさき）※7歳まで東京都大田区馬込
B	多賀城市市川（いちかわ）

【場面設定会話】 [1]

話し手

A 女 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

B 男 1930 (昭和 5) 年 (収録時 82 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨーゴザイマスー。キョー アツイコダネー。

おはようございます。 今日 [は] 暑いことだね。

002B : オハヨーゴザイマス。アー、イヤ、キョーモー ゲンキデイルナー。

おはようございます。あー、いや、今日も 元気であるな。

カラダ ナンジョダー。

体 [は] どうだ。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オヒル タベタノスカワー。

お昼 [は] 食べたのですか。

002B : クッタッチャー。イマカラ ナーニスルノ。

食べたよ。 今から 何するの。

003A : ウン、ハタケサ イク° ンダヨー、オラー。 ヤオヤトリダー。 [2]

うん、畑へ 行くんだよ、 私。 野菜採りだ。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オバンデス。

こんばんは。

002B : オバンデス。マダ ネネーノスカ。 イマカラ ドゴサ イク° ノッシャ。

こんばんは。まだ 寝ないんですか。 今から どこへ 行くのですか。

多賀城市 場面設定会話

003A : イマネー、チョットバリ ゴーミ ダシテキタノッシャワー。
今ね、 ちよつとばかり ゴミ [を] 出してきたんですよ。

004B : ハヤグ ネサインワ。
早く 寝なさいな。

〈ねぎらい〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アラー、(B ン一) ト一グサ イッテキテ ヒドカッタネー。
あら、(B うん) 遠くへ 行ってきて 大変だったね。

002B : ヒンドグモネー。
大変でもない。

003A : オヒルワ ナーニ タベタノッシャー。
お昼は 何 [を] 食べたのですか？

004B : ウナキ° クッタヨー。
鰻 [を] 食べたよ。

005A : アラ、キョー {笑} ナン ウナベン タベタノスカー。
あら、今日 {笑} 何 鰻弁 [を] 食べたのですか。

ワー、スゴイッチャ。 ンテ ンデ ワタシモ タベネキャネンダ。
わー、すごいよね。 ×× それでは 私も 食べなきゃいけないんだ。

006B : ハッダラカナクチャネーモノー。 {笑}
働かなくちゃならないもの。 {笑}

007A : ンデ ハヤグ ハヤグ {笑} フロサ ハイッテ ヤスマイ マ {3}、 {笑}
それでは ××× 早く {笑} 風呂へ 入って 休みなさい まあ、 {笑}

ネ。

ね。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : ホラ、オジャ ノマイン。
ほら、お茶 [を] 飲みなさい。

002B : オジャンンテ ンメグネーヤ、 サッパリ。 {笑} ノミダグネー。
お茶なんて 美味しくないや、さっぱり。 {笑} 飲みたくない。

003A : アンダ (B サケデモ) オチャ オチャ キライダケンド、
あなた [は] (B 酒でも) ××× お茶 [が] 嫌いだけれど、

オチャワ ノマナゲネンダヨー。
お茶は 飲まなきゃいけないんだよ。

004B : ビールデモ ノマシテクサッサイ。
ビールでも 飲ませてください。

005A : ソンナノワ ダセマセン、 {笑} ヒルマカラー。オーガーシートー、ホラ、
そんなのは 出せません、 {笑} 昼間から。 お菓子と、 ほら、

オチャッコ ノマイーン。
お茶 [を] 飲みなさい。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニズワー。
こんにちは。

002B : コンニズワ。
こんにちは。

003A : アラー、ゴーブサタシテテ シバラグダゴダー。キョーワ ナニカ ヨーアル
あら、ご無沙汰してて 久しぶりなこと。今日は 何か ××××

ヨースカー。

用ですか。

004B : キョーワー ナニー、ヨー ヨーデネグズ、[4] タダー キテミダンデガスー。
今日は 何、 ×× 用で [は] なくて、 ただ 来てみたんです。

005A : インデ アカ° ッテ、ホラ、オチャ ノマイン。 オハナスデモ ス
それでは あがって、 ほら、お茶 [を] 飲みなさい。お話でも ×

スッカラ、ホレ、アガライン、 アガライン。 ウジサ アガライン。
するから、ほら、あがりなさい、あがりなさい。家へ あがりなさい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) BがAにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001B : チョットバリーー シャーベル カシテケサインヤー。
ちよっとだけ シャベル [を] 貸してくださいよ。

002A : ア、イーガス、 ツカワイーン。ナーニスノッシャー、スコップー。
あ、良いですよ、使いなさい。 何するのですか、 スコップ。

カスヨー。イーカラ ツカワイーン。
貸すよ。 いいから 使いなさい。

003B : チョットバリーー ソゴー、アー、ホルータメニサー。
ちよっとだけ そこ [を]、あー、 掘るためにさ。

004A : カシエンコダ、アンダー。
働くこと、 あなた。

005B : ンー。ホンナニー カシエグワゲデ ネンダゲドッシャー。マー、
うん。 そんなに 働くわけで [は] ないんだけどさ。 まあ、

ウンドーノタメニー、エー スコスー (A ウン) ソノヒー ン [5]
運動のために、 ×× すこし (A うん) その辺

006A : アー、(B シー) ソー、シー。アー、イーゴッタッチャ、アンタ。イ ウン。
あー、(B うーん) そう、うん。あー、良いことだわ、 あなた。× うん。

ユックリ ツカワイン。カスカラ、ホラ。
ゆっくり 使いなさい。貸すから、ほら。

〈 お礼 〉

(8) Bが借りたスコップをAに返しに行ったときのやりとり。

001B : シャベル カ カ カエスカラネー。
シャベル [を] × × 返すからね。

002A : ハーイ、(B ハイ) ハイ、ドーモドーモ。ゴクローサーン。ズイーブン
はい、(B はい) はい、どうもどうも。 ご苦労さま。 随分 [の]

ジカン カシエーダンドネーノー、アンダー。ダイジョーブスカー。
時間 働いたんじゃないの、 あなた。 大丈夫ですか。

003B : ン、カラダー ンー タイシタゴドネー。ア タイシタ
うん、体 [は] うーん 大したことない。 × 大して

カシエガネーガラー、(A ウーン) ホンナノ スンペースッコダネー。
働かないから、(A うん) そんなの 心配することはない。

004A : マタ {笑} ツカウトキ、モッテカ° イン。
また {笑} 使う時、 持っていきなさい。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) BがAに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Aが構わないという場合。 [6]

001B : シャベル ツカッタノ、 ナンダガナー、(A ウン) コワ
シャベル 使ったの [が]、何だかな、(A うん) ××

コワリデ [7] シマッタガラサー。コイズー、ンー {舌打ち}
壊れてしまったからさ。 こいつ、 うーん {舌打ち}

コマッタナー。マダ

困ったな。 ××

002A : イーカラ、ベンシヨースネクタッテ イーガラ イーガラ。ウン。
良いから、弁償しなくたって 良いから 良いから。うん。

003B : ア、ベンシヨージナクテモ イーノガヨ。
あ、弁償しなくても 良いのかよ。

004A : ウン、イ (B シー) イーカラ、コワシテシマ シマ (B シーシー)
うん、× (B うん) 良いから、壊して×× ×× (B うんうんうん)

シヨウガナイツチャヤー。 ホッタゴド イーガラ、オライデ カリダドギ
しょうがないじゃないか。 そんなこと 良いから、私の家で 借りたとき

コワスカモシンネガラ、イーガラ、ソイズワ。

壊すかもしれないから、いいから、それは。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001A : デキレバ ベンシヨージターモラエバ ナオインダナー、オライデワー。
できれば 弁償してもらえれば なお良いんだな、私の家では。

002B : ベンシヨーツツタッテヤー、ジェニ ネーゲバー
弁償って言ったってよ、お金 [が] 無ければ

ベンシヨウデキネベツチャヤー。

弁償できないじゃないかよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) BがAの誘いを断るときのやりとり。

001B : ソナトゴサー イク° ヒツヨーネーベチャヤー、コノー イソカ° シートジー。
そんなところへ 行く必要ないだろう、この 忙しいとき [に]。

多賀城市 場面設定会話

002A : アンダワ イッツモ ソンナコトバリカダッテー、 (B ウン)

あなたは いつも そんなことばかり言って、 (B うん)

サッパリ ワダシノ ユーゴト キカネーンダカラー。 (B ウン)

さっぱり 私の 言うこと [を] 聞かないのだから。 (B うん)

タマニ イッテミダイヤーネー。

たまに [は] 行ってみたいよね。

003B : イッテミデガヤー、ホンナトゴサヤー。 ナーニ

行ってみたいかよ、そんなところへよ。 何

004A : イギダイ、イギダイ、イギダイ。

行きたい、行きたい、行きたい。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Aの調子がいい場合。

001B : オメー、カラダ ナンジョダー。

お前、体 [は] どうだ。

002A : ンー、ナンボガ ヨグナッター。 (B ヨグナッダノガヤ) ヨーナ

うん、いくらか 良くなった (B 良くなったのかよ) ような

キガスルーヨー。

気がするよ。

003B : カラダ ダイズダガラナレ。ナラー、ンー、キオツケネードー。ナー。

体 [は] 大事だからね。 なら、うん、気をつけないと。 なあ。

004A : ンダネ、オタガイ トシダガラ。 {笑}

そうだね、お互い 年だから。 {笑}

005B : ウーン {笑} ンダナー。

うん {笑} そうだな。

(11-2) Aの調子が悪い場合。

001B : ナニー、カラダー スコス ワルイノガー。

何、体 [が] 少し 悪いのか。

002A : ウン、ンダネー、 ナーダカ チョーシワルイ。 ダガラ、ビョーインサ
うん、そうだね、何だか 調子悪い。 だから、病院へ

イッテクツカラッシャー。 (B ウン) オクッテッテゲサイーン。

行ってくるからさ。 (B うん) 送って行ってちょうだい。

003B : マダ ビョーインガヤー。

また 病院かよ。

004A : ダッテ、シャーネ

だって、しょうがない

005B : マイニズ、マイニズ (A ア、ビョーインカ° ヨイッテ)

毎日、毎日 (A あ、病院通いって)

ビョーインカ° ヨイダナー。

病院通いだな。

006A : アンダワ ソーユーケドモー、(B ウン) シャネンダオンネー。

あなたは そういうけれども、(B うん) しょうがないんだもんね。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : {舌打ち} シャネナー、 オマーワ。カラダ ワルイゴッテナー。

{舌打ち} しょうがないな、お前は。 体 [が] 悪いことだからな。

ンデア オレー カダズゲッカー。 (A ウン) フーン。ホントニ ンザ

それでは 俺 [が] 片付けるか。 (A うん) ふーん。本当に ××

002A : ソナニ、ンダ、マデニ スッコドネーガラーツシャー。
そんなに、あなた、丁寧に することないからさ。

003B : ウザネハグ [8] ナヤ。
骨が折れるなあ。

004A : ウン、チョゴットネ。ンダネ、(B ウン) ソノヘン、アノ、ゴミーノ、
うん、少しね。 そうだね、(B うん) その辺、あの、ゴミの、

アノ、ナゲ ゴミ カタズケタリ、(B ウン) ソーユコト
あの、×× ゴミ [を] 片付けたり、(B うん) そういうこと [を]

シテモラエバ インダー。
してもらえば 良いんだ。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違って捨てようとしているときに、Aがそれを
制止してどのようにいうか。

001B : シャーシン、ホンナニ ダイジナ シャシンガヤ。フーン。
写真、そんなに 大事な 写真かよ。ふーん。

002A : ツテ、アングラ ソーユケド、ダイジナンデスー。ワダシニワ。
って、あなたは そういうけれど、大事なんです。私には。

003B : ダイジナノ。
大事なの。

004A : ウン、ダガラ。ソナゴド スンナー。(B フーーン) ネ。ステーテワ
うん、だから。そんなこと するな。(B ふーん) ね。捨てては

コマツカラ。
困るから。

005B : コマルシャシン。
[捨てたら] 困る写真?

多賀城市 場面設定会話

006A : ソシナ、ウン、ソシナ カッテナコト スネディーガラ。 ジブンノゴド
そんな、うん、そんな 勝手なこと [は] しないで良いから。自分のこと [を]

スライン。

しなさい。

宮城県多賀城市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕公開する会話について

ここで公開する会話集の内容は、実際に収録時に得られた内容そのままではない部分がある。収録された会話には、自然な流れとは言えない部分があったため、資料作成にあたり、音声の切り貼りによる編集を行っているからである。それでもなお不自然な部分が残るため、資料利用の際には注意を要する。また、話し手の二人は夫婦であるため、話者としての役割を演ずることにためらいがちであり、笑い声が多く入ったり、また、やりとりも夫婦ならではのものになったりする傾向があった。

〔2〕ヤオヤトリ

野菜採りのことをこう言ったものと思われる。

〔3〕ヤスマイ マ

末尾の「マ」は終助詞のように見えるが、当地にこのような終助詞が確認できないため、間投詞の「まあ」に相当する形式ととっておく。

〔4〕ヨーデネグズ

カ行音の有声化により「ク」が「グ」になっていると考えられる。「ズ」については、この地域の発音であるのか、今回この場限りでみられた特殊なものであるのか、言い間違いによるものか分からなかったため、会話の流れから共通語訳は「(用ではなく)て」とした。

〔5〕ソノヒン

エの母音が狭く、「へ」が「ヒ」に近い音に聞こえている。

〔6〕冒頭のBさんの発話とかぶさるように、Aさんの「コワシタノ シャベル」という発言が聞こえるが、これは文字化しなかった。

〔7〕コワリデ

エの母音が狭く、「レ」が「リ」に近い音に聞こえている。

〔8〕ウザネハク

「難儀する、骨を折る、苦勞する、疲れる」などの意味で、福島を除く東北地方の広い範囲にみられる表現。

宮城県多賀城市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
町田 隆弘（東北大学文学部3年）
櫛引祐希子（追手門学院大学講師）

文字化担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

【 宮城県多賀城市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な多賀城市方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは簡単に言えば、単語の頭以外の位置にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になり、濁って聞こえることです。専門的に言えば、母音に挟まれた無声子音/k/t/が有声子音/g/d/になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば「柿」は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもある程度保たれているようです。例えば、カ行音については、「ムガシ」（昔）、「ナグナッテ」（無くなって）、「オドゴ」（男）などの例が聞かれました。また、タ行音については、「アング」（あなた）、「ウジ」（家）、「オジャ」（お茶）、「イッテミデガ」（行ってみたいか）といった例が聞かれました。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外の位置にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルとなり、「上げる」と混同してしまいそうです。しかし、「上げる」のほうは「げ」が鼻濁音、すなわち鼻にかかった濁音（「ヶ°」のように半濁点で表記する）となり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。このように、「げ」が鼻にかかる現象を鼻音化と言います。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「アカ°ンナイ」（上がらない）、「ホーケ°ン」（方言）、「ヨメコ°」（嫁さん）のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか判断が微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。その点で、今回の文字化作業は課題が残ったと言えます。

以上のガ行に加えて、同じようにダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）。

例) ダ行：肌 → ハンダ
ザ行：風 → カンゼ
バ行：首 → クンビ

今回の話者にも、シンドカッタ（ひどかった＝たいへんだった）、カンバネヤミ（かばね病み＝怠け者）といった例が見られました。

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞これは「口蓋化」と呼ばれる現象の一種です。この場合の口蓋化とは、キの発音をするときに、舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を指します。

例) 機械（きかい） → チカイ
救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ
今日（きょう） → チョー

同様に、この現象はギにも見られ、「ジ」のような発音が聞かれます。今回の会話集では、「ジンナカ°ス」（銀流し）の例がありました。

【母音】

▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

ただ、今回の会話集の話者たちには、この現象はあまりはっきりとは見られませんでした。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言います。宮城県ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」のように発音され、これらは区別がありません。いわゆるズーズー弁と呼ばれる所以です。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

今回の会話集の話者たちからも、「スンペー」（心配）、「ハナス」（話）、「ギンナカ」（銀流し）などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

¶ アクセント

多賀城市は、「曖昧アクセント」と呼ばれる地域に属する。

☞例えば「橋」と「箸」を声に出したときに、共通語のような「有型アクセント」で

はハとシの音の高低が決まっています(=型が有る)、それによって単語の区別が付きませんが、「無型アクセント」では高低が決まっていない(=型が無い)ため、区別されません。多賀城市は一応「有型アクセント」の地域に属しますが、「無型アクセント」の地域である仙台市と接しており、単語の区別が曖昧になる現象が観察されます。

ただし、世代が下るにつれ共通語化が進み、若い世代ではアクセントによる単語の区別がはっきりしてきているようです。

Ⅰ 文 法

【格助詞】

▼ 「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞ 共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)
目的語 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「ジェニ ネーゲバ」(お金が無ければ)、「カラダワルイノガ」(体が悪いのか)、「ゴミ ダシテキタノッシャワ」(ゴミを出してきたんですよ)、「シャベル カシテケサインヤ」(シャベルを貸してくださいな)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

▼ 「サ」

共通語の「へ」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞ 「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なる用法も見られますが、今回の話者の用例は、ほぼ「へ」に対応するものでした。

例) トーキョーサ イク° ト (東京へ行くと)
ドゴサ イク° ノッシャ (どこへ行くんですか)
ビョーインサ イツテクッカラッシャ (病院へ行ってくるからさ)
フロサ ハイッテ ヤスマイ (風呂へ入って休みなさい)

【副助詞】

▼「バリ」

共通語の「ばかり」「だけ」に当たる副助詞に「バリ」がある。

例) アンダワ イッツモ ソンナコトバリ カダッテ (あなたはいつもそんなことばかり言って)
チョットバリ シャベル カシテケサインヤ。(ちょっとだけシャベルを貸してください)

【接続助詞】

▼「ケンド」

共通語の「けれど」に当たる接続助詞（逆接既定条件）に「ケンド」がある。

例) アンダ オチャ キライダケンド、オチャワ ノマナゲネンダヨ (あなたはお茶が嫌いだけれど、お茶は飲まなきゃいけないだよ)

▼「ケ」

共通語の「けど」などに当たる接続助詞に「ケ」がある。

☞次の例文の「ケ」は「けど」と訳せるものです。しかし、「ケ」にはほかにも、「のに」「たら」「ところ」などさまざまな共通語訳があてられるように、必ずしも逆接になるとは限りません。「この間、町に行ったっケ、友達に会った」(町に行ったら)のような用法もあります。この「ケ」には、あることがらを思い出すという意味合いがあり、その思い出したことがらを前提にどうであるかが「ケ」の後ろで語られます。

例) コノアイダ ラジオデ ユッテタツケ、ギンザオ ナカ° スコドオ ギンナカ° スツーンデヤ (この間、ラジオで言ってたけど、銀座を流すことをギンナガシっていうんだよ)

▼「ケバ」

共通語の「ば」に当たる接続助詞（逆接仮定条件）に「ケバ」がある。

☞次の例のように、形容詞に付きます。「ナケレバ」の「ナ」の部分が「ネー (=ナイ)」に置き換えられ、「ネーケレバ」となったうえで「ネーケバ」に変化した形式と思われます。

例) ジェニ ネーゲバ ベンショーデキネベツチャヤー (お金が無ければ、弁償できないじゃないかよ)

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)	<推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)	<意志>
お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)	<確認>
みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)	<勧誘>

今回の会話集では、「イク° ヒツヨーネーベチャヤー」(行く必要ないだろう)、「ベンショーデキネベツチャヤー」(弁償できないだろう)などのように「ベチャ」「ベツチャ」の形で相手に確認をとる用法が見られます。

▼「ネキャネ」「ナケネ」「ナクチャネ」

共通語の「～なければならない」「～なくてはいけない」にあたる当為表現の形式に、「ネキャネ」「ナケネ」「ナクチャネ」がある。

例) ワタシモ タベネキャネンダ。(私も食べなきゃならないんだ)
オチャワ ノマナゲネンダヨー。(お茶は飲まなきゃいけないんだよ)
ハダラカナクチャネーモノ。(働かなくちゃならないもの)

【終助詞】

▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手が知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。

- 例) ゴザインッテ ユッテタッチャ (「ゴザイン」で言ってたよね)
メンタマツツーノワ ホーケ° ンデネーッチャ (目ん玉っていうのは方言ではない
だろ)
ショーガナイッチャ (しょうがないだろ)

☞「チャ」の代わりに「サ」ということもあります。男性より女性に多い言い方の
ようです。

- 例) ソレコソ ブンカダサネー (それこそ文化だよね)
ワルクチ ユワレテルヨーニ オモッテタサ (悪口を言われているように思ってい
たさ)

▼「シャ」「ノッシャ」

共通語の「さ」にあたる終助詞として「シャ」が用いられる。「のさ」にあたる「ノッ
シャ」もよく聞かれる。

☞共通語にはうまく訳せない程度の軽い敬意を含んでいることもあります。

- 例) ビョーインサ イッテクッカラッシャ (病院へ行ってくるからさ)
ソナンニ マデニ スッコドネーガラッシャ (そんなに丁寧にすることないか
らさ)
ドゴサ イク° ノッシャ (どこへ行くのさ (行くんですか))
オヒルワ ナニ タベタノッシャ (お昼は何を食べたのさ (食べたんですか))

▼「ワ」

共通語の「な」「ね」「よ」「わ」などにあたる終助詞として「ワ」が用いられる。

☞共通語と異なり、男性も使用します。しかも、比較的自由に文末に付きます。例
えば、「学校さ行ったかワ」「まだ居たのワ」「もう行って来たよワ」など、「か」
「の」「よ」といった助詞の後ろにも付きます。「もう居ないベワ」のように「べ」
にも接続します。さらに、「早く行けワ」のように命令形式に付くこともあります。
この「ワ」に共通するのは、話し手が、自分に自信があり、当然のことを言ってい
ると感じている場合のようです。

- 例) オヒル タベタノスカワ (お昼は食べたんですかね)

チョットバリ ゴミ ダシテキタノッシャワ (ちょっとばかりゴミを出してきたんですよ)

ハヤグ ネサインワ (早く寝なさいな)

▼「ダイ」「ダイヤ」

共通語の「だよ」にあたる終助詞として「ダイ」「ダイヤ」が使用される。

☞「ダイ」「ダイヤ」には強く断定する気持ちが込められていると思われます。下の例では、この「ダイ」に上で紹介した「チャ」が接続した「ダイッチャ」が使用されています。もうひとつの例のように、ダイの発音が融合してデのようになり、「ダイヤ」が「デヤ」のように聞こえることもあります。

例) マナグツツーンダイッチャ (マナグっていうんだよ)

ギンザオ ナカ° スコドオ ギンナカ° スツツーンデヤ。(銀座を流すことをギンナガシっていうんだよ)

▼「オンネ」

共通語の「もんね」にあたる終助詞として「オンネ」が用いられる。

例) アンダワ ソーユケドモ、シャネンダオンネー (あなたはそう言うけども、しょうがないんだもんね)

▼「ゴダ」

感動を表す終助詞として「ゴダ」が用いられる。

例) アラー、ゴーブサタシテテ シバラグダゴダー (あら、ご無沙汰してて、久しぶりなこと)

カシエンゴダ、アンダ (働くこと、あなた)

【敬語】

▼「ス」「ガス」「イン」

敬意を表す形式として「ス」「ガス」「イン」などがある。

☞共通語との対応を考えると、大まかに言って、「ス」は「です」「ます」、「ガス」は「です」にあたります。「イン」は相手に丁寧に働きかける言い方で、柔らかい印象を与えます。末尾の「ン」が弱く、「イ」のように聞こえることもあります。「ス」は「ノ

スカ」の形でよく質問に使用されます。

- 例) アンダ ダイジョーブスカ (あなた、大丈夫ですか)
ヒョージュンゴ°ン ナンデナイスカ (標準語になるのではないですか)
マダ ネネーノスカ (まだ寝ないんですか)
ウナベン タベタノスカ (鰻弁当を食べたんですか)

イーガス (いいです)
タダ キテミダンデガス (ただ来てみたんです)

オジャ ノマイン (お茶を飲みなさい)
ウジサ アガライン (家へあがりなさい)
フロサ ハイッテ ヤスマイ (風呂へ入って休みなさい)

▼「テケサイン」

共通語の「てください」にあたる補助動詞として「テケサイン」が用いられる。

- 例) オクッテッテケサイン (送って行ってちょうだい)
シャベル カシテケサインヤ (シャベルを貸してくださいな)

【接尾辞】

▼「～コ」

名詞のあとに「～コ」を付けて、そのものへの親近感を表す。

- 例) ホラ オチャッコ ノマイン (ほら、お茶を飲みなさい)

【参考文献】

- 井上史雄ほか (1994) 『日本列島方言叢書 3 東北方言考② 岩手県・宮城県・福島県』 ゆまに書房
加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』 210
加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』 明治書院
加藤正信・佐藤武義 (1986) 「多賀城市の方言」多賀城市史編纂委員会『多賀城市史 3 民俗・文学』 多賀城市
後藤彰三 (2001) 『胸ば張って仙台弁』 宝文堂

- 小林隆編（2000）『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤亨（1982）「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 玉懸元（2001）「宮城県仙台市方言の終助詞「ッチャ」の用法」『国語学』175
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救うー3.11被災地からの提言ー』ひつじ書房